

岐阜県文化財保護センター

調査報告書 第156集

# 土岐上平遺跡

2022

岐阜県文化財保護センター

と き かみ だいら い せき  
土 岐 上 平 遺 跡

2022

岐阜県文化財保護センター





土岐上平遺跡 発掘区全景（東から）



S13 出土遺物

## 序

岐阜県の南東部に位置する瑞浪市は、「化石の町」として全国的に知られ、市の中央部を流れる土岐川に沿って国道19号線や中央自動車道・JR中央本線が通じており、また、古来より東山道、中山道、下街道などの街道が発達しており、交通の要所であったことを窺うことができます。

このたび、国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所による国道19号瑞浪恵那道路事業に伴い、瑞浪市土岐町にある土岐上平遺跡の発掘調査を令和元年度に実施しました。土岐上平遺跡は、縄文時代、弥生時代終末期～古墳時代初頭、古墳時代後期～中世にかけての複合遺跡で、長期間にわたる人々の営みの跡が見つかりました。

今回の調査では、5軒の竪穴建物のほか、柱穴、溝、土坑などを確認しました。また、竪穴建物から土師器の壺や甕がまとまって出土した他、須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗など多種多様な遺物が出土しました。特に、古墳時代初頭の竪穴建物は、東濃地域では検出例も少なく、当時の中山間部における人々の生活様式を考える上で貴重な発見となりました。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、御支援・御協力をいただきました関係諸機関並びに関係者各位、瑞浪市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

令和4年3月

岐阜県文化財保護センター

所長 岡田 知也

## 例　言

- 1 本書は、岐阜県瑞浪市土岐町に所在する土岐上平遺跡（岐阜県遺跡番号 21208-11532）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、国道 19 号瑞浪恵那道路事業に伴うもので、国土交通省中部地方整備局から岐阜県が委託を受けた。発掘作業及び整理等作業は、岐阜県文化財保護センターが実施した。
- 3 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所林正恵氏の指導のもとに、発掘作業は令和元年度に、整理等作業は令和 2 年度に実施した。
- 4 発掘作業及び整理等作業の担当は、本書第 1 章第 2 節に一括掲載した。
- 5 本書の執筆及び編集は伊藤雅和が行った。
- 6 発掘作業における現場管理、掘削、測量、景観写真撮影などの支援業務と、出土遺物の洗浄・注記は、株式会社ユニオンに委託して行った。整理等作業における作業管理、出土遺物の整理作業、挿図・写真図版作成などの支援業務は、株式会社ユニオンに委託して行った。
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 8 炭化物の樹種同定は株式会社パレオ・ラボに委託して行い、第 4 章に掲載した。第 4 章第 1 節は伊藤が執筆した。
- 9 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。
- 島田崇正、砂田普司、成瀬正勝、早野浩二、瑞浪市教育委員会
- 10 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第VII系を使用する。
- 11 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2014『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 12 調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

## 目 次

### 巻頭図版

序

例言

目次

第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	3
第2章 遺跡の環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査の成果	11
第1節 基本層序	11
第2節 遺構の概要	12
第3節 遺物の概要	16
第4節 古墳時代～古代の遺構・遺物	18
第5節 中世以降の遺構・遺物	36
発掘区全域図 分割図	54
遺構一覧表	61
遺物観察表	68
第4章 自然科学分析	71
第1節 分析の概要と成果	71
第2節 炭化材の樹種同定	72
第5章 総括	75
第1節 時期区分と遺構について	75
第2節 遺物について	77
第3節 土地利用の変遷について	83
引用・参考文献	85
写真図版	
報告書抄録	

## 挿図目次

図 1 遺跡位置図	1	図30 SK84遺構図・出土遺物実測図	40
図 2 試掘坑と発掘区の位置	2	図31 SK90遺構図・出土遺物実測図・SK93遺構図	41
図 3 発掘区地区割図	3	図32 SK96遺構図・出土遺物実測図	42
図 4 発掘区周辺の地質概略図	6	図33 SK97遺構図・出土遺物実測図	43
図 5 周辺遺跡位置図	8	図34 SK102遺構図・出土遺物実測図	44
図 6 土岐上平遺跡の基本層序	11	図35 SK109遺構図・出土遺物実測図	44
図 7 発掘区平面図	13	図36 SK115遺構図・出土遺物実測図	45
図 8 遺構分類模式図	14	図37 SK116遺構図・出土遺物実測図	46
図 9 SI 1 遺構図	18	図38 SD 6 遺構図・出土遺物実測図	47
図10 SI 2 遺構図（1）	20	図39 SD 7 遺構図・出土遺物実測図	48
図11 SI 2 遺構図（2）	21	図40 SD 9 遺構図	49
図12 SI 2 出土遺物実測図	22	図41 SD 9 出土遺物実測図	50
図13 SI 3 遺構図（1）	23	図42 SD10・SD11遺構図・出土遺物実測図	51
図14 SI 3 遺構図（2）	24	図43 表土・倒木痕出土遺物実測図	52
図15 SI 3 遺構図（3）	25	図44 発掘区全域図 分割図1	54
図16 SI 3 出土遺物実測図（1）	27	図45 発掘区全域図 分割図2	55
図17 SI 3 出土遺物実測図（2）	28	図46 発掘区全域図 分割図3	56
図18 SI 4 遺構図（1）	29	図47 発掘区全域図 分割図4	57
図19 SI 4 遺構図（2）・出土遺物実測図	30	図48 発掘区全域図 分割図5	58
図20 SI 5 遺構図（1）	31	図49 発掘区全域図 分割図6	59
図21 SI 5 遺構図（2）・出土遺物実測図	32	図50 発掘区全域図 分割図7	60
図22 SB 1 遺構図・出土遺物実測図	34	図51 土岐上平遺跡出土炭化材 の走査型電子顕微鏡写真	74
図23 SK99遺構図・出土遺物実測図	35	図52 土岐上平遺跡遺構変遷図	76
図24 表土出土遺物実測図	35	図53 東濃地域内出土窯間式期の甕①	79
図25 SB 2 遺構図	36	図54 東濃地域内出土窯間式期の甕②	80
図26 SA 1 遺構図	37	図55 東濃地域内窯間式期の遺跡	81
図27 SK12遺構図・出土遺物実測図	38	図56 中濃地域内出土窯間I式期の甕	82
図28 SK53遺構図・出土遺物実測図	39		
図29 SK68遺構図・出土遺物実測図	40		

## 表目次

表 1 試掘・確認調査結果	2	表 3 検出遺構の一覧表	12
表 2 周辺遺跡一覧表	10	表 4 出土遺物点数一覧表	16

表5	出土遺物の分類と破片数一覧表	17	表19	溝状造構一覧表	67
表6	竪穴建物一覧表	61	表20	溝状造構付属造構一覧表	67
表7	竪穴建物付属造構一覧表（1）	61	表21	土器観察表（1）	68
表8	竪穴建物付属造構一覧表（2）	62	表22	土器観察表（2）	69
表9	掘立柱建物一覧表	62	表23	土器観察表（3）	70
表10	掘立柱建物付属造構一覧表	62	表24	石器観察表	70
表11	柵一覧表	63	表25	クリを用いた弥生時代後期～古墳時代前期 の竪穴建物	71
表12	柵付属造構一覧表	63	表26	樹種同定結果	72
表13	柱穴状造構一覧表（1）	63	表27	土岐上平遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧	73
表14	柱穴状造構一覧表（2）	64	表28	竪穴建物の諸属性	75
表15	土坑一覧表（1）	64	表29	東濃地域出土の主要な遡間式期甕一覧	78
表16	土坑一覧表（2）	65			
表17	土坑一覧表（3）	66			
表18	土坑一覧表（4）	67			

### 挿写真目次

- 写真1 遺構検出作業  
 写真2 サブトレンチ掘削作業

- 写真3 遺構掘削作業  
 写真4 現地見学会

### 写真図版目次

図版1	全景	図版10	SA 1・SK
図版2	SI 1・SI 2	図版11	SK
図版3	SI 2	図版12	SK・SD 6
図版4	SI 3	図版13	SD 7・SD 9
図版5	SI 3・SI 4	図版14	SD 9～SD 11
図版6	SI 4	図版15	出土遺物 1
図版7	SI 5	図版16	出土遺物 2
図版8	SB 1	図版17	出土遺物 3
図版9	SB 2	図版18	出土遺物 4



## 第1章 調査の経緯

### 第1節 調査に至る経緯

土岐上平遺跡は、土岐川左岸の砂礫台地上に広がる遺跡で、瑞浪市土岐町字下小渕地内に所在する。遺跡の所在する瑞浪市土岐町は市の東部に位置し、南東部の一部は恵那市と接する（図1）。当遺跡の土岐川を挟んだ対岸には、中央自動車道や国道19号線、JR中央本線が位置するなど、交通の要所として重要な位置を占める。

今回の発掘調査は、瑞浪市土岐町から恵那市長島町の約12.5kmの区間の整備を目的とした国道19号瑞浪恵那道路の建設に伴うもので、この事業予定地は土岐上平遺跡の北縁部を通ることから、国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所（以下、「国道事務所」という。）より岐阜県教育委員会教育長（以下、「県教育長」という。）宛てに平成30年2月7日付国部整多計第41号で試掘・確認調査の依頼があり、平成30年2月19日～22日及び平成30年11月20日・21日に岐阜県環境生活部県民文化局文化伝承課が9ヶ所の試掘坑を設定し、試掘・確認調査を実施した（図2）。その結果、TP1・TP7・TP8・TP9で構造を検出し、TP1・TP2・TP6・TP7・TP9で土師器や中近世陶器などの遺物が出土した（表1）。

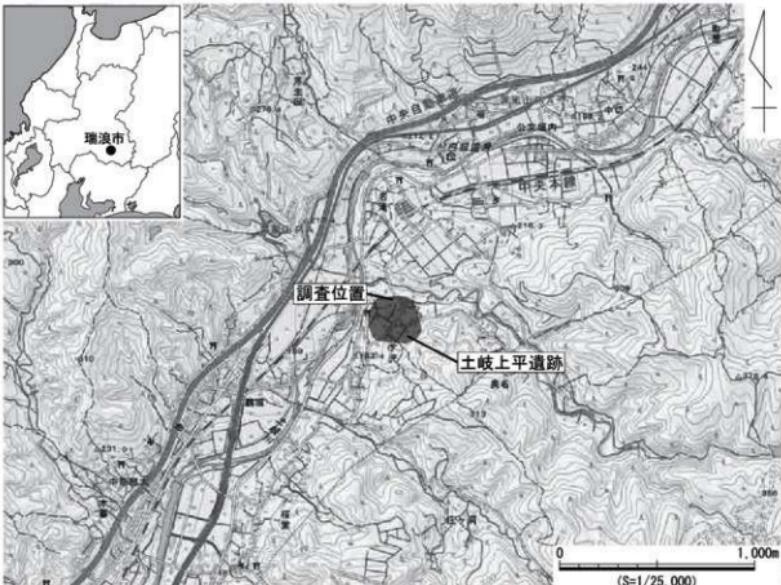


図1 遺跡位置図  
(平成31年国土地理院発行の2万5千分1電子地形図「瑞浪」を使用したものである)

## 2 第1章 調査の経緯

表1 試掘・確認調査結果

年度	試掘坑 No.	検出遺構 (基数)	出土遺物 (点数)						合計
			土師器	須恵器	灰軸陶器	中近世 陶器	石器	その他	
H29	TP1	堅穴建物 1	5	0	0	5	0	0	10
H29	TP2	なし	0	0	0	1	0	0	1
H29	TP3	なし	0	0	0	0	0	0	0
H29	TP4	なし	0	0	0	0	0	0	0
H29	TP5	なし	0	0	0	0	0	0	0
H29	TP6	溝 1	0	0	0	1	0	0	1
H30	TP7	土坑 2	0	0	0	1	0	0	1
H30	TP8	堅穴建物 1、 土坑 8	0	0	0	0	0	0	0
H30	TP9	土坑 5	0	0	0	1	0	0	1

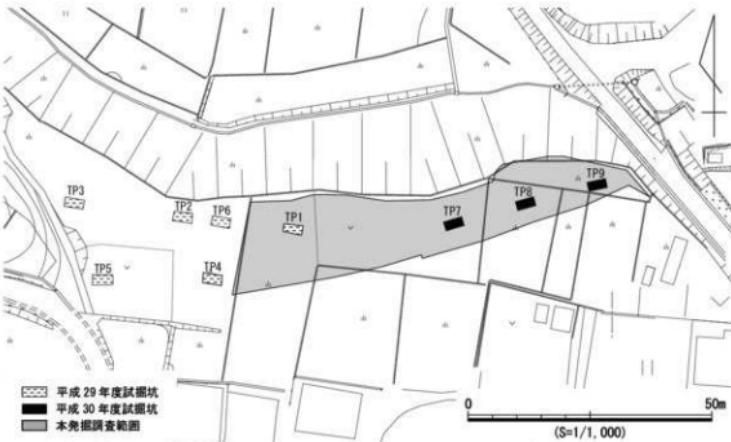


図2 試掘坑と発掘区の位置

この試掘・確認調査の結果をもとに、平成31年3月19日に開催された「平成30年度第2回岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討会」において、遺構・遺物が残存していると判断されたTP1・TP7・TP8・TP9の範囲（図2）については保護措置が必要と結論づけられた。

本工事は、文化財保護法第94条第1項の規定に基づき、国道事務所長から県教育長宛てに埋蔵文化財発掘通知（平成31年1月22日付国部整多計第64号）が提出され、同条第4項の規定に基づき、県教育長から国道事務所宛てに本発掘調査実施勧告（平成31年3月20日付文伝第84号の196）が通知された。国道事務所長は県教育長に発掘調査の実施を依頼し、岐阜県文化財保護センター（以下「当センター」という。）が発掘調査を実施した。当センターは調査着手後、文化財保護法第99条第1項の規定に基づく発掘調査の報告（令和元年6月25日付け文財セ第163号）を岐阜県知事に提出した。

## 第2節 調査の方法と経過

### 1 調査の方法

発掘作業は、令和元年度に1,160 m<sup>2</sup>を実施した。世界測地系座標のX=67300、Y=10200を原点として100m×100mの大グリッドを設定し、発掘区の西側をA、東側をBとした。さらにその中に5m×5mの小グリッド（以下、「グリッド」という。）を設定し、南北列にA～Tのアルファベット、東西列に1～20のアラビア数字を付けて併用した（図3）。そのため、発掘区北東隅のグリッドはBE 7、発掘区西南隅のグリッドはAI 9となる。

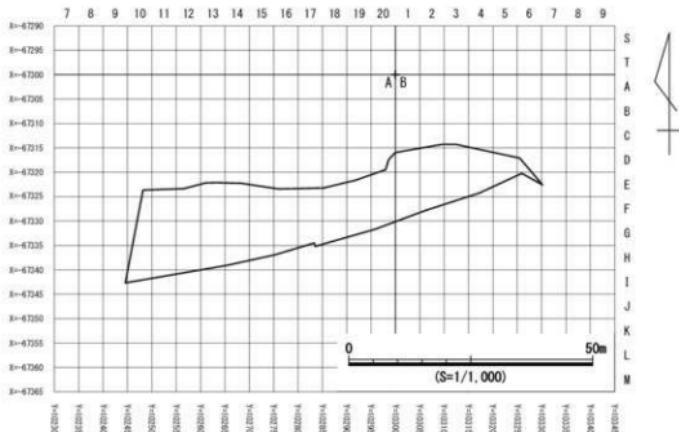


図3 発掘区地区割図

表土掘削は重機を用いて、遺構検出、遺構掘削はスコップ・草削り鎌・移植ゴテなどを用いて人力で行った。遺構埋土は半截又は四分割して土層堆積状況を観察し、必要な記録を作成した後に完掘した。

遺構検出時に出土した遺物は、原則としてグリッド単位、層位ごとに取り上げた。また、遺構出土遺物は半截前後で取り上げ方法を変えた。すなわち、半截前は検出面から約5cm下までをa層、約5cm～10cmをb層、というように遺構内を概ね5cm単位の人工層位として取り上げ、半截後は分層した層位ごとに取り上げた。また、遺構との関係性が検討できる出土状況のものについては、出土位置を測定して取り上げた。

遺物には、取り上げ単位ごとに遺物ラベルを添付した。遺物ラベルには「遺跡番号（年度の西暦下二桁と遺跡記号TK）」「グリッド番号・遺構名及び掘削位置」「出土層位」「遺物番号」「出土年月日」「遺物種別」を記入し、この記録をもとに遺物台帳を作成した。検出した遺構は検出順を原則として通番を付し、遺構番号は「S001」というようにSと3桁の数字により表記した。この番号は、本書の遺構一覧表（表6～20）に調査番号として記載した。

遺構等の実測作業は、原則として平面図はデジタル測量、土層断面図は手測り測量にて、それぞれ実施

#### 4 第1章 調査の経緯

した。図面の縮尺は、20分の1を基本として、実測対象に応じて適切な縮尺を選択した。

写真撮影では、デジタル一眼レフカメラとコンパクトデジタルカメラを使用した。また、発掘区の完掘後にラジコンヘリにより景観写真撮影を実施した。

## 2 調査の成果

発掘調査日誌から抜粋して、週ごとの調査経過を以下に記載する。

- 第1週 6／4～6／7 4日、発掘区内の石垣の除去及び表土の重機掘削開始。
- 第2週 6／10～6／14 11日、重機掘削完了。グリッド杭打設完了。12日、豪雨の影響で発掘区北側の法面が崩落。作業員作業開始が1日延期。14日、人力掘削作業開始。
- 第3週 6／17～6／21 17日、BE3～4グリッドで弧状に並ぶ4基の柱穴列SA1を検出。18日、竪穴建物SI1を検出。20日、SK12からスクリーパーと山茶碗の破片が出土。21日、SI1の掘削を進め、壁際溝を検出。
- 第4週 6／24～6／28 26日、BD3グリッド、BD5グリッドでサブレンチ(TR1、TR2)を設定し、堆積状況を確認。発掘区北東部の埋土が谷を埋め立てるための整地土と判断。
- 第5週 7／1～7／5 4日、AG18グリッドでSI2を検出。5日、倒木痕1から土師器出土。
- 第6週 7／8～7／12 8日、溝状遺構SD6の掘削開始。10日、SI2の掘削開始。埋土から石鐵(2)が出土。床面で炉石を備えた地床炉を確認。
- 第7週 7／15～7／19 16日、AF15グリッドで溝状遺構SD7を検出。
- 第8週 7／22～7／26 23日、SI2南側の底面で打製石斧(3)が出土。
- 第9週 7／29～8／2 2日、SI2床面で柱穴を含む付属遺構を検出。発掘区西端の土坑SK116底面で土師器甕の口縁部片が出土。SI3の掘削開始。
- 第10週 8／5～8／9 9日、AF・AG11～12グリッドでSI4を検出。



写真1 遺構検出作業



写真2 サブレンチ掘削作業



写真3 遺構掘削作業

第11週 8／19～8／24 19日、SI 3の掘削を進め、床面で炭化材が出土。SI 4掘削開始。溝状遺構 SD 9底面で付属遺構 P 1～P 5を検出。AG・AH 12～13 グリッドで SI 5を検出。20日、SI 2完掘。SI 5掘削開始。23日、林正憲氏（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）現地指導。24日、SI 3床面の土坑 SI 3-P 6からミニチュア土器（10）が出土。25日、地元向け現地見学会を開催。  
 （参加者33名）

第12週 8／26～8／29 26日、SI 4床面の土坑 SI 4-P 5からほぼ完形の須恵器の坏身（21）が正位で出土。27日、SI 3完掘。景観写真撮影。29日、SI 4・SI 5完掘。掘削作業が完了。

第13週 9／1～9／5 5日、事業者に対し、現地引き渡しを実施

出土遺物の洗浄や注記等の一次整理作業は令和元年度に、遺物実測や挿図作成等の整理等作業は令和2年度に、それぞれ当センター三田洞整理所にて実施した。整理等作業時には、令和2年11月26日に林正憲氏（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）に総括に関する指導を、令和2年10月に早野浩二氏（公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター）に土師器に関する指導を受けた。なお、出土炭化材の樹種同定を令和2年度に実施した。

### 3 調査体制

発掘作業調査及び整理等作業の体制は、以下のとおりである。

岐阜県文化財保護センター

所長	小林法良（令和元年度）、森勝利（令和2年度）
総務課長	加藤武裕（令和元年度）、布施三千代（令和2年度）
調査課長	春日井恒（令和元年度・令和2年度）
調査担当係長	鷺見博史（令和元年度）、長谷川幸志（令和2年度）
担当調査職員	佐藤恵太（令和元年度）、伊藤雅和（令和2年度）



写真4 現地見学会

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

以下に土岐上平遺跡の地理的環境について述べる<sup>1)</sup>。

土岐上平遺跡が所在する瑞浪市は、岐阜県の南東部に位置し、恵那市、土岐市、可児郡御嵩町、加茂郡八百津町、愛知県豊田市と隣接する。市の面積の約8割を恵那山系の一部である東濃丘陵地帯が占め、中津川市から恵那市に至る屏風山断層帯が市域の南西から北東に延びる。市内には、木曽三川の一つに数えられる木曽川と土岐川が伊勢湾に向かって注ぎ、土岐川は恵那市夕立山を水源とし、瑞浪市、土岐市、多治見市の盆地とその間の峡谷部へ流れる。土岐川に沿って、国道19号や中央自動車道・JR中央本線が狭い峡谷部に集中するほか、古代より本州の内陸部を通る東山道や江戸時代の中山道から分かれて名古屋城下へ至る下街道など東濃地域の交通の要所としての位置を占める。

当遺跡は土岐川流域の凝灰岩質砂岩・泥岩の固結堆積物を基層とする砂礫台地上に位置する。当遺跡の標高は、丘陵部に至る南側で約224m、台地縁辺部の北側で約200mを測る。今回の発掘調査対象地は遺跡の北縁部に位置する。発掘調査前の現況は耕作地で、水田或いは畑地として利用されていた。

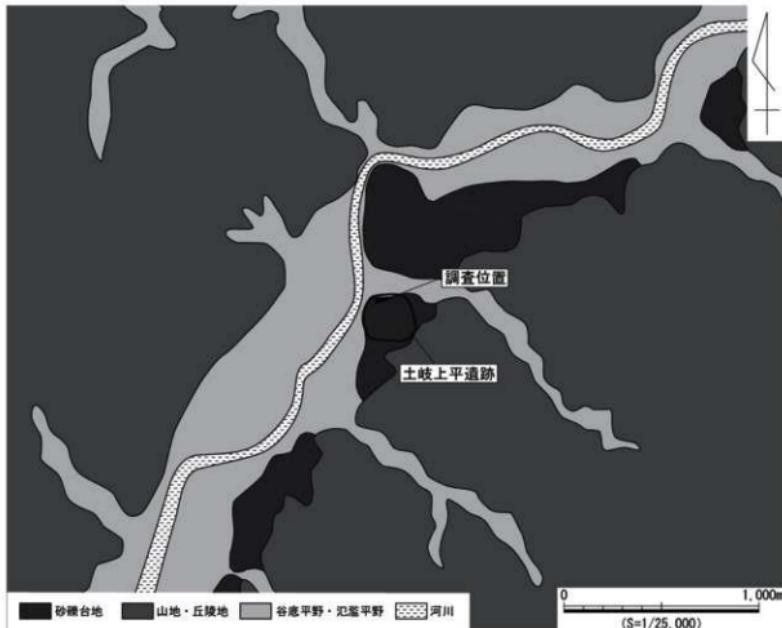


図4 発掘区周辺の地質概略図 (1:25,000) (地質調査所 1999『地質図1/50,000 岐阜』を基に作成)

## 第2節 歴史的環境

当遺跡周辺には土岐川流域の両岸を中心として多く遺跡が分布しており、本節では各時期の主要な遺跡について、概要を時代順に記す<sup>22)</sup>。なお、本文中の遺跡名に続く括弧内の番号は、表2、図5<sup>23)</sup>と一致する。

**縄文時代** 土岐川流域の河岸段丘上や台地上に早期～前期以降の遺跡が点在する。名瀬遺跡(18)は、縄文時代前期以降の遺跡とされ、石礫や石錐が出土した。中切上屋遺跡(13)は早期あるいは前期以降の遺跡とされ、後期の石組遺構が確認された他、石礫や打製石斧などが出土した。

**弥生時代** 当遺跡周辺では、弥生時代に属する遺跡は少ない。昭和12年に益見遺跡(45)で弥生中期～後期の高坏や器台の発見が報告されているが、その後の出土遺物の整理によりこれらの土器が廻間II式後半以降であることが確認された。

**古墳時代** 大島古墳群(3)、鉢伏古墳(4)、洞田古墳群(6)、段古墳群(7)、百田古墳群(8)、岩倉古墳(9)、天徳古墳群(11)、清水古墳群(26)、桜堂洞1号古墳(34)、虫塚古墳群(39)などの古墳や古墳群の他、清水横穴墓群(24)、大西横穴墓(25)、桜堂洞横穴墓群(35)、市原横穴墓(44)などの横穴墓などが土岐川両岸の丘陵部に造営される。これらの古墳群及び横穴墓のうち、大島古墳群(大島1・2号古墳)、段古墳群(段1・2号古墳)、天徳古墳群(天徳2・7号古墳)、清水古墳群(清水1号古墳)は中央自動車道路建設に伴って発掘調査が行われており、後期の須恵器坏や高坏、壺類と共に、鉄製品や玉類、金環などの副葬品が出土している。古墳や横穴墓以外では、高屋遺跡(20)で古墳時代後期の柱穴や土坑を確認した他、先述の益見遺跡(45)で古墳時代前期・後期の遺物が出土した。

**古代** 土岐町東部に位置する当遺跡は、『和妙類聚抄』巻七国郡部に記載される土岐郡内の日吉、樺原、異味、土岐、余戸、駅家の6郷のうち、土岐郷若しくは駅家郷に位置するとされる。また、『延喜式』には、東山道の駅路に沿って整備された駅家として、東濃では「可兒」と「恵奈」の間の「土岐」に駅家が整備されたとあり、交通の要衝として重要な位置を占める。土岐駅の所在については、現在の小田町と釜戸町に求める説がある。「土岐」の名称は、奈良県明日香村の飛鳥池遺跡で出土した「丁丑年刀支評」の木簡にある。丁丑年(天武天皇六(677)年)の三野国刀支評(後の美濃國土岐郡)から都に送られた荷札木簡で、「恵奈五十戸」とみえ、この時点で恵那評はなく、刀支評の一部であったことが明らかになった。この他、『日本書紀』には、天武天皇五(676)年に「詔美濃國司曰在磯作郡紀臣訶佐麻呂之子、遷東國、即爲其國之百姓。」とあり、土岐郡の紀臣訶佐麻呂の子を東国に移して百姓になるよう命じたことや、朱鳥元(686)年には大津皇子の謀反に連座して逮捕された三十余人の中に「磯作道作」なる人物があり、「但磯作道作流伊豆」とあるように伊豆国に流罪されたと記されている。周辺の古代の遺跡として、高屋遺跡(20)や公文垣内遺跡(16)、羽根南遺跡(32)、桜堂遺跡(36)、益見遺跡(45)などがある。高屋遺跡では7世紀～8世紀後半の古代の掘立柱建物や9世紀の区画溝などの居住域が確認された他、桜堂遺跡は10世紀～11世紀の須恵器や灰釉陶器が出土し、山寺の建立が古代に遡る可能性が指摘されている。

**中世** 土岐の地名を冠する土岐氏は摂津源氏の系統で、源頼光の子の頼国の子孫が美濃國土岐郡に土着し、子孫の光衡(1159～1206年)の代に土岐氏を称したとする説が有力視される。土岐氏の勢力伸

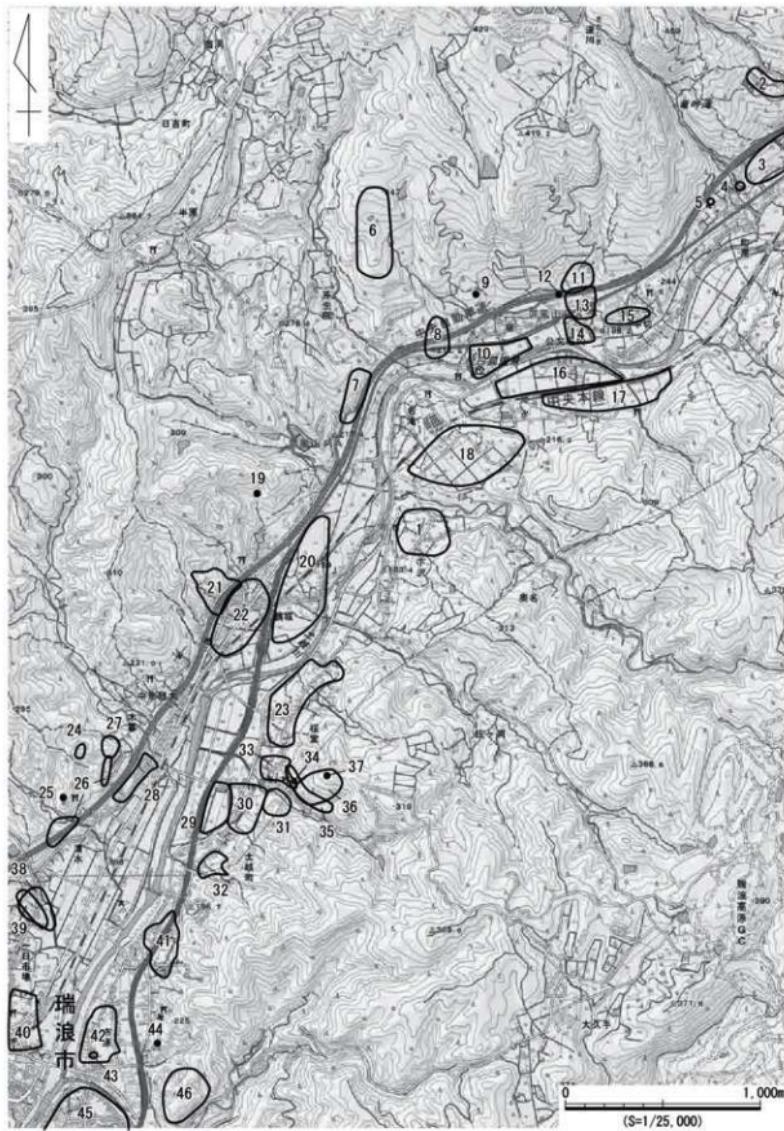


図5 周辺遺跡位置図  
(平成31年国土地理院発行の2万5千分1電子地形図「瑞浪」を使用したものである)

張に伴い、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて「土岐庄」が発生すると、やがて土岐六郷にまで「土岐庄」の範囲が及び、発掘区周辺は「釜戸郷」に再編されたとされる。京都府山科区に位置し、醍醐天皇の命によって建立された勅修寺に伝わる「勅修寺文書」には、延元元（1336）年に「釜戸郷」の名が載せられていることから室町時代には勅修寺領の荘園であったとされ、荘園に関連する「公文垣内」の字名が当遺跡の北東に残る。土岐氏に関連する遺跡として、土岐光衡の居館と伝えられる一日市場館跡（40）や、光衡による築城と伝えられる鶴ヶ城跡（21）の他、土岐頼兼墓（19）、土岐頼貞墓（43）などがある。この他当該期の遺跡としては、清水館跡（27）や市原砦跡（46）などの城館跡や、桜堂薬師遺跡（33）や桜堂遺跡（36）、 笹山遺跡（31）などの寺社跡や経塚が認められる。 笹山遺跡と桜堂遺跡は谷を挟んだ南北の丘陵に位置する遺跡で、桜堂遺跡では、13世紀以降に整備された本堂や坊院が確認され、 笹山遺跡と共に経塚群と大規模な集石墓群からなる墓域が営まれる。15世紀中頃に本堂は移転し、墓域も16世紀には衰退したとされる。また、高屋遺跡では古代の地割を踏襲した耕作溝が確認された他、益見遺跡では山茶碗や古瀬戸・大窯製品が出土している。

**近世** 江戸時代以降、当遺跡周辺は松平家や丹羽家の所領である岩村藩や、釜戸に陣屋を構えた旗本馬場氏の所領に含まれる。17世紀初頭に新たに中山道が整備されたが、恵那市の横ヶ根追分で中山道より分かれ土岐川沿いを通って名古屋城下町へ至る下街道としてよく利用されたとされる。この他当該期の遺跡としては、炭焼き窯跡の可能性が考えられる遺構が検出された大仙奈遺跡（12）や、旗本馬場氏墓（5）、釜戸陣屋跡（14）などがある。

以上、当遺跡周辺は、縄文時代以降の遺跡が土岐川沿いの河岸段丘や台地上に点在して認められる。弥生時代の遺跡は確認されていないが、古墳時代後期以降に複数の群集墳や横穴墓が造営されており、古代には遺跡南西側の盆地において郡家が設置され、また、東山道や古下街道が当遺跡の北側を東西に往来し、東側の釜戸町周辺に東山道の駅家が置かれたとする説がある。また、鎌倉時代以降美濃国守護として国内を統治した土岐氏に関連する館や城跡なども街道に沿って営まれることなどから、古墳時代後期以降において、当遺跡周辺は街道沿いの要所として主要な位置を占めたと考えられる。

#### 注

1) 地質・地形に関する記述は、以下の文献を参考とした。

岐阜県1988『5万分の1土地分類基本調査(表層地質図)恵那・中津川』

岐阜県1988『5万分の1土地分類基本調査(地形分類図)恵那・中津川』

瑞浪市 1974『瑞浪市史』歴史編

瑞浪市 2008『歴史の道 中山道保存整備事業報告書』

2) 各遺跡の記述は、以下の文献を参考とした。

伊藤秋男 1988『瑞浪市の古墳と古東山道』『瑞浪陶磁資料館研究紀要』第4号 瑞浪陶磁器資料館

宇治谷孟 訳 1988『日本書紀(下)全現代語訳』講談社学術文庫

岐阜県教育委員会 1924『濃飛両国通史』

奈良国立文化財研究所 1998『飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報13』発掘調査出土木簡概報

瑞浪市 1974『瑞浪市史』歴史編

瑞浪市 2008『歴史の道 中山道保存整備事業報告書』

瑞浪市教育委員会 1981『瑞浪市中央自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』

瑞浪市教育委員会 2009『益見遺跡』瑞浪市文化財調査報告第5集

瑞浪市教育委員会 2014『瑞浪市遺跡地図』瑞浪市文化財調査報告第6集

瑞浪市教育委員会 2014『後山遺跡』瑞浪市文化財調査報告第7集

瑞浪市教育委員会 2017『桜堂遺跡』範囲内容確認調査報告書 瑞浪市文化財調査報告第8集

瑞浪市陶器部資料館 2012『斐師寺 1200年展』

- 3) 図2及び表2は岐阜県教育委員会 2007『改訂版 岐阜県 遺跡地図』を基に、新たな成果をふまえて作成したが、時代については発掘調査報告書の記載も参考にした。

表2 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代	備考
1	土岐上平遺跡	散布地	中世	本報告
2	釜戸蒲山遺跡	散布地	縄文	
3	大島古墳群	古墳	古墳	
4	跡伏古墳	古墳	古墳	
5	旗本馬場氏墓	その他の墓	近世	瑞浪市指定史跡
6	洞田古墳群	古墳	古墳	
7	段古墳群	古墳	古墳	
8	百田古墳群	古墳	古墳	
9	岩倉古墳	古墳	古墳	
10	釜戸宿跡跡	散布地	中世	
11	天郷古墳群	古墳	古墳	
12	大仙奈遺跡	不明	近世	
13	中切上星遺跡	散布地	縄文・中世	
14	釜戸雄岸跡	城郭跡	中世・近世	
15	中切町裏遺跡	散布地	縄文・中世	
16	公文垣内遺跡	散布地	古代・中世	
17	公文垣内南遺跡	散布地	中世	
18	名籠遺跡	散布地	縄文・中世	
19	土岐頼兼墓	その他の墓	中世	瑞浪市指定史跡
20	高屋遺跡	集落跡・散布地	縄文・古墳～中世	
21	鶴ヶ坂跡	城郭跡	中世	岐阜県指定史跡
22	中町遺跡	散布地	中世	
23	根竹遺跡	散布地	中世	
24	清水横穴墓群	横穴墓	古墳	
25	大西横穴墓	横穴墓	古墳	
26	清水古墳群	古墳	古墳	
27	清水船跡	城郭跡	中世	
28	豆沢遺跡	散布地	中世	
29	下今瓦遺跡	散布地	中世	
30	羽根北遺跡	散布地	中世	
31	養山遺跡	その他の墓・その他の遺跡 (跡塚)	古代・中世	
32	羽根南遺跡	散布地	古代・中世	
33	桜堂裏師遺跡	寺社跡	中世・近世	
34	桜堂洞1号古墳	古墳	古墳	
35	桜堂洞横穴墓群	横穴墓	古墳	
36	桜堂遺跡	寺社跡・その他の墓	中世	
37	三輪上人供養塔	その他の墓	平安	岐阜県指定史跡
38	虫塚遺跡	散布地	中世	
39	虫塚古墳群	古墳	古墳	
40	一日市市場跡	城郭跡	中世	
41	平畠遺跡	散布地	中世	
42	中島遺跡	散布地	中世	
43	土岐頼貞墓	その他の墓	古代	岐阜県指定史跡
44	市原横穴墓	横穴墓	古墳	
45	益見遺跡	散布地	弥生・古墳・古代・中世	瑞浪市教育委員会2009
46	市原空跡	城郭跡	中世	

## 第3章 調査の成果

### 第1節 基本層序

発掘区の現況は水田や畑地からなる6筆の耕作地である。標高は東端が約202.8m、西端が約201.7mと約1.1mの比高で、東から西に向かって地盤ごとに標高は低くなる。基本層序は、平成29・30年度に岐阜県環境生活部県民文化局文化伝承課が実施した試掘・確認調査で確認された層序を基に、I層とII層を設定した。また、I層は下記の通り2層に細分した(図6)。なお、今回の発掘区では、遺物包含層は認められず、I層の直下でII層に達する。

- I a層 現況の耕作土である。土色は、褐色～黒褐色の色調で、土質はややしまる。粘性は場所によって異なり、上段側の西部には円礫や亜円礫を含む。
- I b層 現況の床土である。土色は、褐色～暗褐色の色調で、土質や粘性は場所によって異なる。一部にII層由来と考えられる褐色土ブロックを含む。
- II 層 基盤土である。土色は橙色～暗褐色の色調で、土質や粘性は場所によって異なる。遺物を含まず、すべての遺構はII層上面を検出面とする。

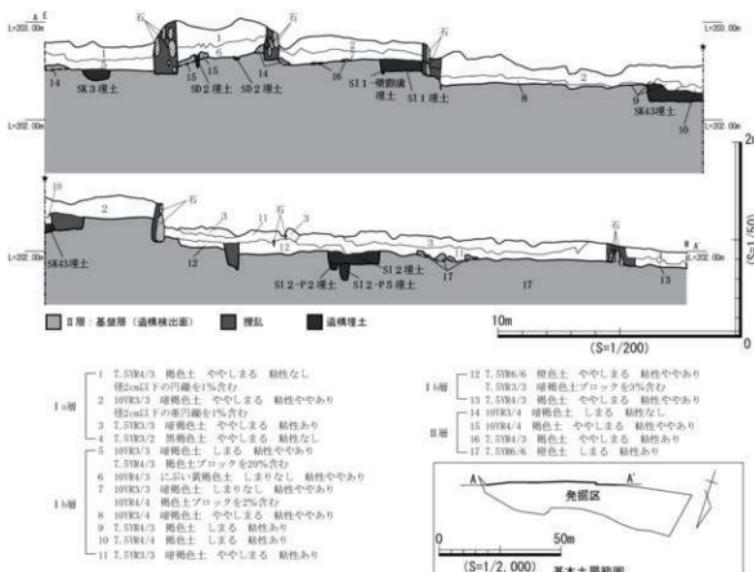


図6 土岐上平遺跡の基本層序

## 第2節 遺構の概要

### 1 概要

今回の調査では、古墳時代初頭、古墳時代後期、中世前期、中世後期、近世、時期不明の遺構の他、古墳時代初頭や近世の倒木痕を検出した(図7)<sup>1)</sup>。時期ごとに検出した遺構数は表3のとおりである。

表3 検出遺構一覧表

時期	SI	SI 付属	SB	SB 付属	SA	SA 付属	SP	SD	SD 付属	SK	倒木痕	合計
古墳時代初頭	2	16	1	4						4	1	28
古墳時代後期	3	26								1		30
中世前期									2	3		5
中世後期							1	2		11		14
中世							1			1		2
近世								1	5		1	7
不明			1	5	1	4	31	7		106	4	159
合計	5	42	2	9	1	4	33	12	5	126	6	245

本報告書では、これらの遺構のうち、竪穴建物や掘立柱建物、柵は遺跡の性格を反映するものと考えられることから、すべての遺構を報告した。溝や土坑は検出数が多いため、一括性の高い遺物が出土した遺構、遺物が出土した遺構などを抽出して掲載した。なお、各遺構の説明文の「遺物出土状況」に記載した出土点数は、未注記遺物を含んだ接合後の破片数を示す。

### 2 遺構略号

遺構の略号は以下のとおりとし、原則として東の遺構から種別ごとに通し番号を付与した。

SA-柵、SB-掘立柱建物、SD-溝状遺構、SI-竪穴建物、SK-土坑、SP-柱穴

なお、掘立柱建物に付属する柱穴は、「SB1-P2」のように付属する建物の番号を先頭に記し、続けてPに通し番号を付与した。また、竪穴建物に付属する遺構は、柱穴と土坑は掘立柱建物と同様とし、かまどや壁際溝はそれぞれ「SI 1-カマド」、「SI 1-壁際溝」のように名称を付与した。

### 3 遺構の分類

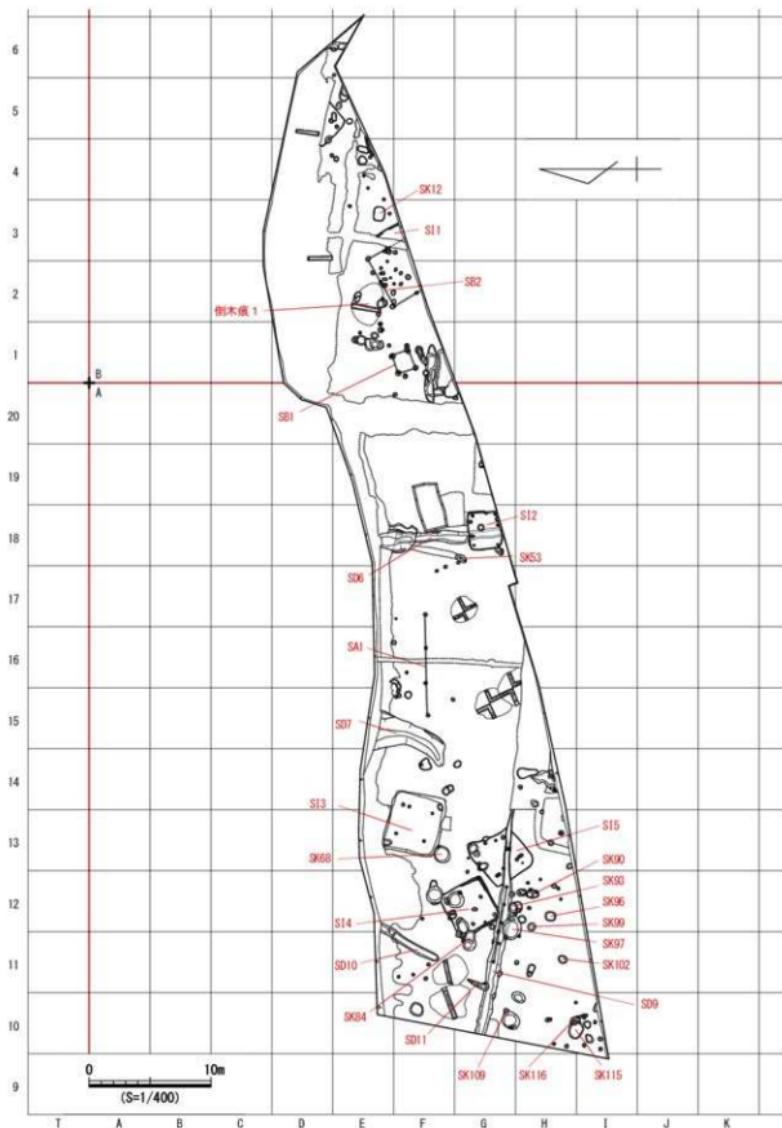
今回の調査で確認した遺構は、それぞれ形状と規模、構造から、竪穴建物、掘立柱建物、柵、柱穴、土坑、溝状遺構、倒木痕に分類した。各遺構の分類基準は以下のとおりである。

**竪穴建物** 竪穴状に掘り産めた掘方をもち、内部に付属遺構(柱穴、地床炉、カマド、壁際溝など)が確認できる遺構を竪穴建物とした。

**掘立柱建物** 柱穴跡が直線状に続き、向かい合う2辺以上を確認し、上屋構造を有すると推定できる遺構を掘立柱建物とした。

**柵** 柱穴が規則的に複数続き、かつ建物にならないと判断できる遺構を柵とした。

**柱穴** 土層で柱痕跡が確認できる。若しくは礎盤や柱当たりが確認できる。深さが上端の直径より深く、壁面が垂直に立ち上がる遺構を柱穴とした。



**土 坑** 人為的に掘り廻された穴のうち、性格不明なものを土坑とした。なお、遺物の出土状況から、廃棄土坑の可能性が考えられるものも含む。

**溝 状 遺 構** 長軸が短軸の3倍以上を有する細長く掘り込まれたものを溝状遺構とした。

**倒 木 痕** 円形や梢円形の平面形状で、下位の土層が上層に持ち上げられていることが確認できたものを倒木痕とした。

#### 4 遺構の時期

遺構の時期決定は、すべての遺構がII層上面の1面しか無く、層位的な検討ができないため、出土遺物や遺構の重複関係などから判断した。また、出土遺物が複数の時代にまたがる場合は原則として新しい時期を選択したが、溝状遺構など長期の存続期間が想定される遺構については、出土状況や出土量も判断材料とした。

#### 5 遺構一覧表

各遺構の位置や規模などの基礎的情報は、それぞれ種別ごとに作成した遺構一覧表に示した。遺構種別により一覧表の項目は異なるが、共通する項目の内容は次のとおりである。

**調査番号** 現地発掘調査時に付したS001から始まる番号を記載した。現地調査時の記録はすべてこの遺構番号である。

**遺構番号** 遺構の種別ごとに001から始まる番号を記載した。

**地区割** 第1章第2節で示した大グリッド（西より順にA・B）、南北列の小グリッド（北より順にC～I）、東西列の小グリッド（西より順に9～20、1～6）を記載した。

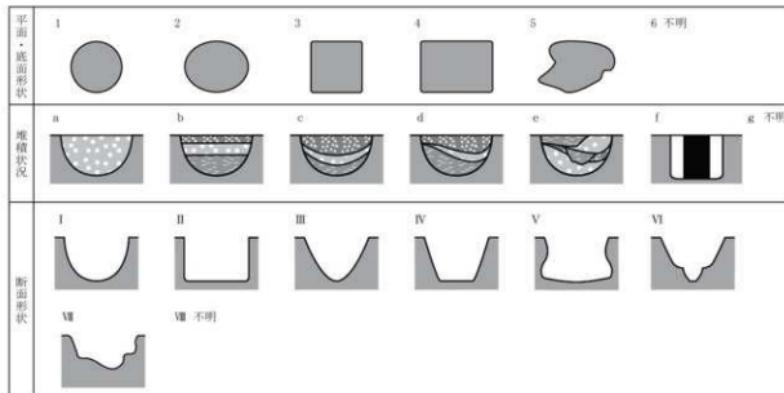


図8 遺構分類模式図

**平面形状** 形状を以下のとおり分類し、数字で表記した。

1-円形、2-楕円形、3-方形、4-長方形、5-不定形、6-不明

**底面形状** 平面形状と同じ分類に従つた。

**堆積状況** 堆積状況を以下のとおり分類し、アルファベットで表記した。

a-埋土が單一層、b-ほぼ水平な堆積、c-中央がU字状に壅むような堆積、

d-壅みが偏った堆積、e-その他、f-柱痕跡が認められる堆積、g-不明

**断面形状** 形状を以下のとおり分類し、アルファベットで表記した。なお、幅に対する深さの比率が5：1未満の浅い形状のものはローマ数字の後ろにaを付した。

I-底面が丸い形状、II-底面が平坦で壁面が垂直に立ち上がる形状

III-中央に向かって凹む形状、IV-底面が平坦で壁面が外側に開いて立ち上がる形状

V-底面が検出面より広がる形状、VI-テラスをもち2段に掘り込む形状

VII-不定形な形状、VIII-不明

**規模** ( )は残存長を示す。

**重複関係** 「新>旧」の関係を示す。「新」には、その遺構より重複が新しいもの、「旧」には、その遺構より重複が古いものを示した。

**出土遺物** 以下のとおり、記号化して表記し、記号の後ろに未注記の小片を含む接合後破片数を記した。

H-土師器、P-須恵器、K-灰釉陶器、Y-山茶碗、

T-山茶碗以外の中近世陶磁器、S-石器類、C-炭化物

### 第3節 遺物の概要

#### 1 概要

今回の調査では、土師器、須恵器、灰釉陶器、中近世陶磁器などの土器類と、石器が出土した（表4）。本報告書では、これらの遺物のうち造構の性格や時期などを検討する上で必要な遺物や、遺跡の性格を端的に示す遺物、分類別の代表的な遺物を中心に抽出して報告した。以下、各遺物の概要を記す。なお、遺物の年代観や器種分類等については、既存の研究<sup>2)</sup>を参考とした。また、土師器は早野浩二氏に分類や時期について御指導をいただいたが、本書における記載内容の責任は編集者にある。

表4 出土遺物点数一覧表

種別 数破 等片	土器類							土器類合計	土製品	石器・石製品	合 計
	土 師 器	須 恵 器	灰 釉 陶 器	山 茶 碗	古 瀬 戸	近 世 陶 磁 器	不 明				
接合後破片数	487	14	1	233	13	36	16	800	1	22	823

#### (1) 土器類

今回の調査では1,125点が出土し、表5のとおりに分類した。以下に、土器類の概要を、種別ごとに述べる。以後の記載は、接合後の破片数で示した。

**土 師 器** 出土遺物の中では最も点数が多い。古墳時代初頭（バレス壺、台付甕、平底甕、高坏、ミニチュア壺）、古墳時代後期（長胴甕）、近世（ホウロク）がある。

**須 恵 器** 古墳時代後期の坏身、高坏、甕、瓶、罐などがある。

**灰 釉 陶 器** 器種は碗の小片である。

**山 茶 碗** 土師器に次いで破片数が多い。碗、小皿、片口鉢、陶丸があり、すべて東濃型である。時期不明の破片を除けば、中世前期よりも中世後期の点数が多い。

**古 瀬 戸** 卸皿、折縁小皿、擂鉢などがある。時期不明の小片が大半であるが、時期が判別できたものは全て後期で、前期・中期は未確認である。

**近世陶磁器** 碗、皿、蓋、鉢、擂鉢、瓶掛などがある。

**土 製 品** 近世と考えられる平瓦の小片がある。

#### (2) 石器

今回の調査では22点が出土し、表5のとおりに分類した<sup>3)</sup>。石鎚、石錐、スクレイバー、打製石斧、剥片、砥石があり、出土点数は打製石斧が11点と最も多い。

#### 2 遺物観察表

本報告書に掲載した遺物の観察表は、それぞれ種別ごとに作成した。種別により一覧表の項目は異なるが、表記した項目の内容は次のとおりである。

**掲 載 番 号** 報告書に掲載した番号を表記した。

表5 出土遺物の分類と破片数一覧表

種別	器種名	細器種名	時期	破片数	種別	器種名	細器種名	時期	破片数
土師器	壺	バレス壺 その他壺	古墳時代 初頭	2 112	古瀬戸	擂鉢		不明	2
	甕	台付甕 平底甕		37		鉗皿		不明	1
	高坪			2		折縁小皿		後Ⅱ期	1
	不明			14		双耳小壺		後Ⅳ期 古段階	1
	甕	長胴甕	古墳時代 後期	31		不明		不明	8
	甕か甌			2		碗		不明	9
	不明			2		皿		不明	1
	ホウロク		近世	2		鉢		不明	1
	不明			10		擂鉢		不明	1
須恵器	环身		古墳時代 後期	2		甕		不明	2
	甌			4		盆掛		18世紀末	1
	瓶か壺			1		不明		不明	20
	高坪			1		土製品	瓦	平瓦	1
	甌			2		石鐵	回基式		1
	不明			4		打製石斧	短冊形		8
灰釉陶器	碗			1		石錐	板形		3
山茶碗	碗	白土原1号窯式 ～明和1号窯式	中世前期	28		石錐	粗砥		1
	小皿			11		砥石	中砥		1
	碗	大畠大洞4号窯 式古段階～ 築之島3号窯式	中世後期	70		石錐	仕上砥		1
	小皿			7		スクレイバー			1
	碗			42		刮片			5
	小皿			2					
	片口鉢			1					
	陶丸			1					

**出 土 位 置** 複数のグリッドや構造から出土した遺物が接合した場合は、その出土位置を示した。「構造番号」の後ろの「①」～「④」は、4分割にした北西部に近い区画を①とし、時計回りに区画を示す。2分割した場合は、北部あるいは西部を①、溝状構造は北部あるいは西部を①として、任意の場所で分割した。また、遺物の出土層位は第1章第2節で明記したとおりである。なお、複数の土層から出土した場合は、すべての層位を示した。

**大 き さ** 土器は口径、底径、器高、石器は長さ、幅、厚さの順に記載した。なお、口径と底径の（ ）は復元長を、器高の（ ）は残存高を、石器の（ ）は残存長を示す。

**口縁部残存率** 宇野隆夫氏の論考を参考とし<sup>4)</sup>、土器類の口縁部残存率を示した。

**重 量** 石器の重量を0.1g単位まで計測した。

**胎 土** 肉眼観察により、長石、石英、チャート、赤色酸化土粒、雲母の有無と粗密を表記した。

**色 調** 『新版標準土色帖』に基づき肉眼観察で判断し、内面、外面、断面の順に記載した。

**器 面 調 整** 内面/外面の順に表記した。磨滅等により不明な場合は「調整不明」と記載した。

**分 類・時 期** 参考とした各研究や論考における分類名や型式名、時期を表記した。

**備 考** このほか、特記すべき特徴について表記した。

**挿 図 番 号** 実測図を掲載した挿図番号を表記した。

**図 版 番 号** 写真を掲載した図版番号を表記した。

## 第4節 古墳時代～古代の遺構・遺物

今回の調査では、廻間II式の土器を伴う古墳時代初頭と、猿投窓I-101号窓式期の須恵器や内堀氏・井川氏分類B類の土師器甕を伴う古墳時代後期の2時期を確認した。この他、古代の須恵器や灰釉陶器もわずかに出土した。

### 1 壺穴建物

#### SI 1 (図9)

**検出状況** BE・BF 3 グリッドで検出した。遺構埋土と基盤土の色調が明確に異なり、平面形は明瞭であった。直線的に延びる平面形と、底面の壁際で壁際溝を検出したことから壺穴建物の東辺と判断した。本遺構の北部から西部は擾乱に切られ、南部は発掘区外に延びる。

**規模・形状** 東壁の一部を検出したのみで、本来の規模は不明である。東辺の方位はN-31°-Wである。耕地の造成に伴い、擾乱より西側は基盤層の標高が東側よりも約0.3m低く、遺構が消失したと考えられる。このため、SP6、SK13、SK14などは、本遺構の付属遺構の可能性がある。

**埋土** 2層に分層した。水平堆積である。

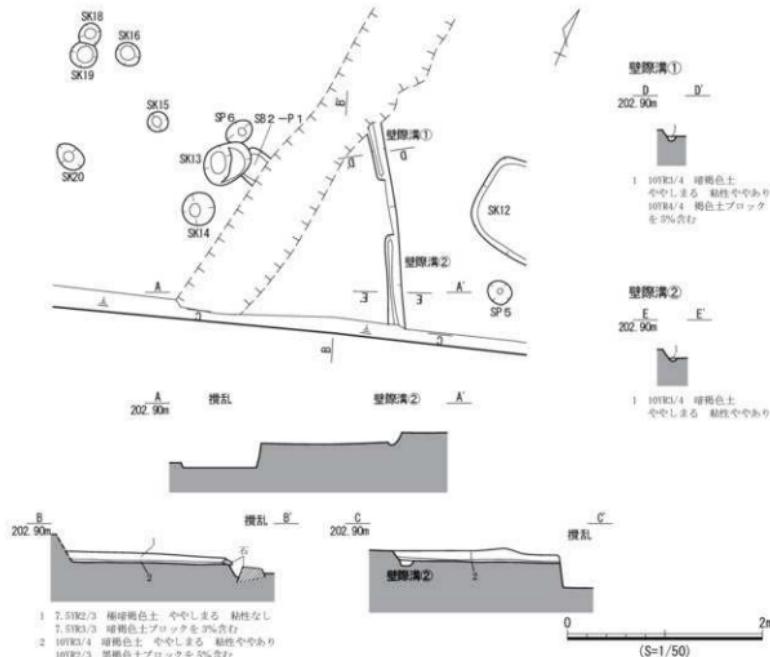


図9 SI 1 遺構図

**床面** 貼床は認められず、掘方底面を床面とした。残存部の底面は平坦である。東壁に沿って壁際溝①と壁際溝②を検出した。壁際溝①と壁際溝②は接続せず、約0.5m途切れる。埋土は単層で、ブロック土を含むことから、人為的に埋め戻されたと考えられる。この他、付属遺構は確認できなかつたが、擾乱の西側で検出したSP6やSK13～SK15等は本遺構に伴う主柱穴等の可能性がある。

**遺物出土状況** 遺物は出土しなかつた。

**時期** 本遺構の付属遺構の可能性のあるSK13からは古墳時代後期の土師器甕の小片が出土したことや、SI4やSI5と近似する長軸方位であることから、本遺構はSI4やSI5と同時期の竪穴建物の可能性がある。

#### SI2（図10～12）

**検出状況** AG18グリッドで検出した。遺構埋土と基盤土の色調が明確に異なり、平面形は明瞭であったが、東辺のみは遺構埋土と基盤土の色調が近似するため平面形は不明瞭であった。本遺構は、SK50、SK51、SD6と重複し、本遺構はSK51より新しく、SK50とSD6より古い。南辺と東辺の一部は発掘区外に延びる。

**規模・形状** 長軸3.1m、短軸2.75m以上で、平面形は方形と考えられる。長軸方位（P1～P4間）は、N-88°～Eである。なお、東辺北部は、遺構埋土と基盤土の判別が困難で東側に掘りすぎたため、C-C'断面で壁面の立ち上がりを確認し、想定される部分を破線で示した（図10 破線部分）。

**埋土** 3層に分層した。堆積状況は、3層が東辺のみに堆積する。1層にブロック土をわずかに含む。

**床面** 東辺を除いた床面で、ブロック土を多量に含み硬くしまる貼床（4層）を確認した。貼床の上面で主柱穴4基（P1～P4）、土坑4基（P5～P8）、地床炉を検出した。貼床を掘り込む壁際溝は認められない。

**主柱穴** 床面の四隅で方形に並ぶP1～P4を主柱穴とした。P1は埋土が基盤土と近似する色調で、礫を含まない部分を基に平面形を判断した。P2～P4は、遺構埋土の色調が基盤土と明確に異なり、平面形は明瞭であった。平面形は、P1、P3、P4は円形で、P2は発掘区外へ延びるが円形と考えられる。断面形は、一様では無くP1が三角形、P2が2段の掘り込み、P3が台形、P4が半円形である。堆積状況は、P2は南部にのみ2層が堆積する。P3の1層とP4の1層と2層は柱痕跡の可能性がある。P2の1層と2層にブロック土をわずかに含む。

**炉** 床面の中央部からやや東寄りに位置する。平面形は円形で、断面形は半円形で貼床を掘り込んで構築される。炉の南側に長さ約0.38mで角柱状のチャートの礫を配置する。礫は上端がほぼ水平となるように、2層上面に設置される。このことから、2層は地床炉掘方の埋土、2層上面が火床と考えられる。

**遺物出土状況** 土師器12点、石器4点が散在して出土した。位置は建物の北東部からが多く、土師器8点が出土した。いずれも1層～3層からの出土で、貼床である4層からは出土しなかつた。この他、床面直上の南東部P5上面と、西部中央壁際で建築部材の一部と考えられる炭化材（分析No.1とNo.2）が出土した。炭化材について樹種同定分析を実施した結果、分析No.1がクリで、分析No.2がカヤであった（第4章第2節参照）。付属遺構からは遺物は出土しなかつた。

**遺物** 1はb層から出土した土師器高壺の脚部で三方透かしをもつ。壺部と脚端部は欠損する。SI3の高壺よりも厚手で長脚であることから、SI3よりも古い段階と考えられる。2はa層から出土した

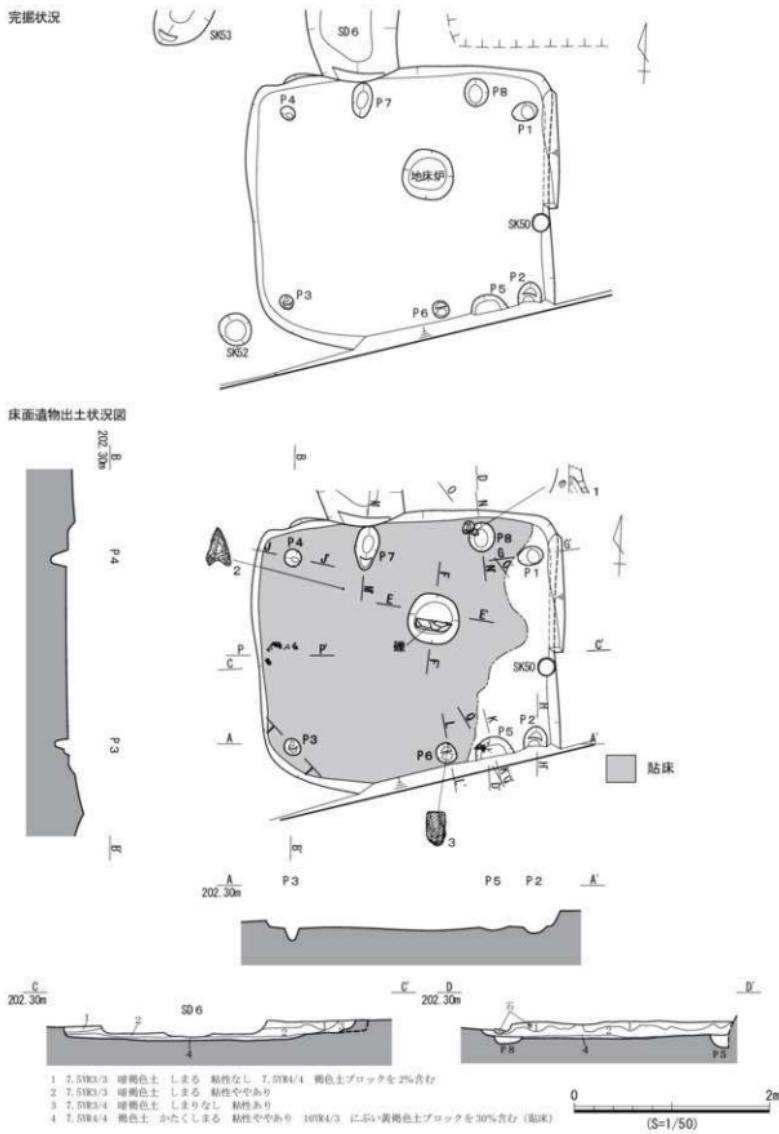


図10 S12 遺構図（1）

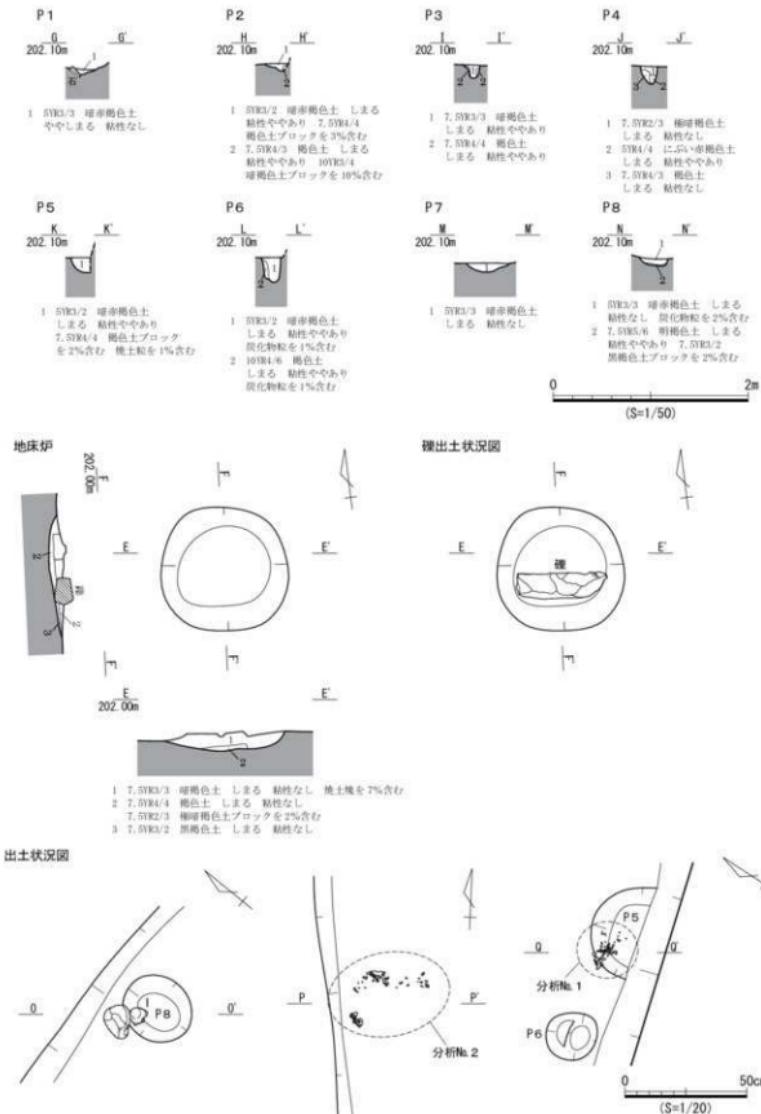


圖11 S12遺模圖（2）

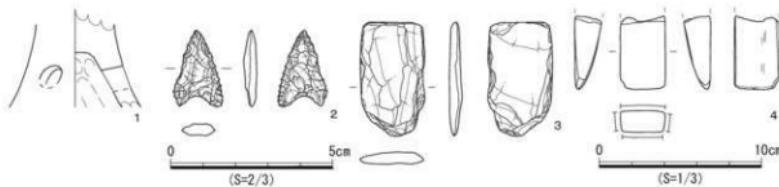


図12 SI 2出土遺物実測図

下呂石製の石鏃である。基部に挿入がある凹基無茎鏃で重さ1.1gである。3はb層から出土した泥岩製の打製石斧である。両側縁が平行する短冊形の形状である。刃部の平面形は一方に偏る扁刃で、断面は両面からの調整による両平刃である。4は3層から出土した凝灰岩製の砥石である。4面を砥面とし、使用により残存する狭端面は楔状に薄くなる。

**時期** 埋土下位のb層から出土した1から、本遺構は古墳時代初頭の堅穴建物と考えられる。

### SI 3（図13～17）

**検出状況** AE・AF13グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土と明確に異なり、平面形は明瞭であった。SK68と重複し、本遺構はSK68より古い。北辺と南辺の一部を擾乱によって消失する。

**規模・形状** 長軸4.94m、短軸4.48mで、平面形は東西にやや長い方形である。長軸方位（P1-P4間）は、N-75° -Wである。壁面の形状は台形である。

**埋土** 4層に分層した。1層は2層～4層を掘り込む堆積であるが、平面上では認識することはできなかった別遺構の可能性がある。2層と3層は中央部が窪む堆積で、A-A'断面とB-B'断面共に共通する。4層は壁際にのみ堆積する。すべての層に礫をわずかに含み、4層のみ焼土粒と炭化物を含む。

**床面** 貼床は認められず、掘方底面を床面とした。床面で主柱穴4基（P1～P4）と、土坑3基（P4～P7）検出した。

**主柱穴** 床面の四隅で方形に並ぶP1～P4を主柱穴とした。平面形は円形で、断面形は台形といずれも共通し、床面からの深さや埋土の色調も近似する。埋土は、いずれも単層で、P1とP3は礫をわずかに含む。

**遺物出土状況** 土師器360点、須恵器2点、石器4点が散在して出土した。出土層位は、埋土下位のd層～e層が土師器176点で最も多く、次いでa層の土師器125点が多い。また北東部の床面上直上から壺、甕、高坏など土師器273点がまとまって出土した。土器の出土状況は、横位や逆位のものが多く、いずれも破片で完形になるものは無かった。また、高坏はすべて脚部のみで坏部は認められなかった。接合関係についても、まとまって出土した部分での接合に限定される。出土状況から、堅穴建物の機能消失時に廃棄されたと考えられる。この他、P6のa層から、土師器のミニチュア土器が出土した。なお、南東部のe層やf層から出土した古墳時代後期の須恵器18と19は、出土状況の詳細な記録が無いが、SI 3の他の出土遺物の内容から考えると混入の可能性が高い。この他、床面の北西部の3ヶ所で建築部材の一部と考えられる炭化物（分析No. 3～5）が出土した。樹種同定分析を実施した結果、分

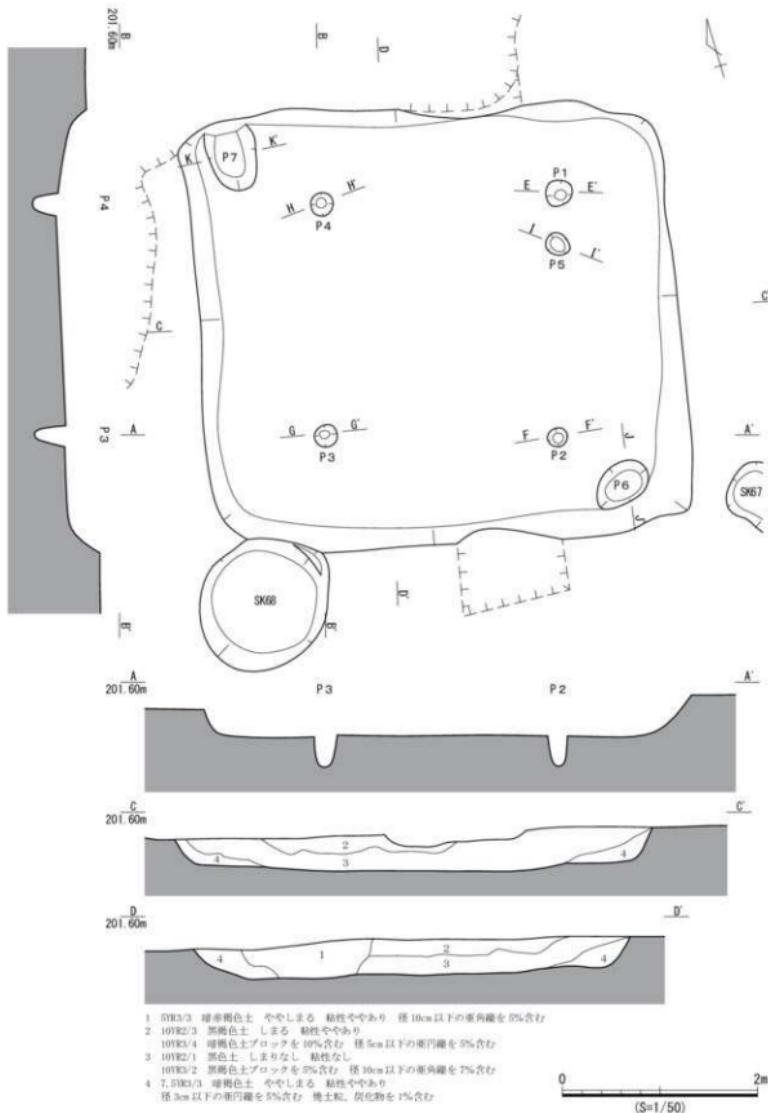
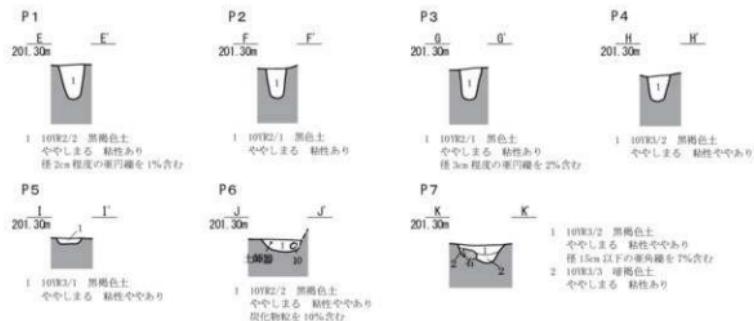


図13 SI 3 遺構図（1）



遺物出土狀況圖

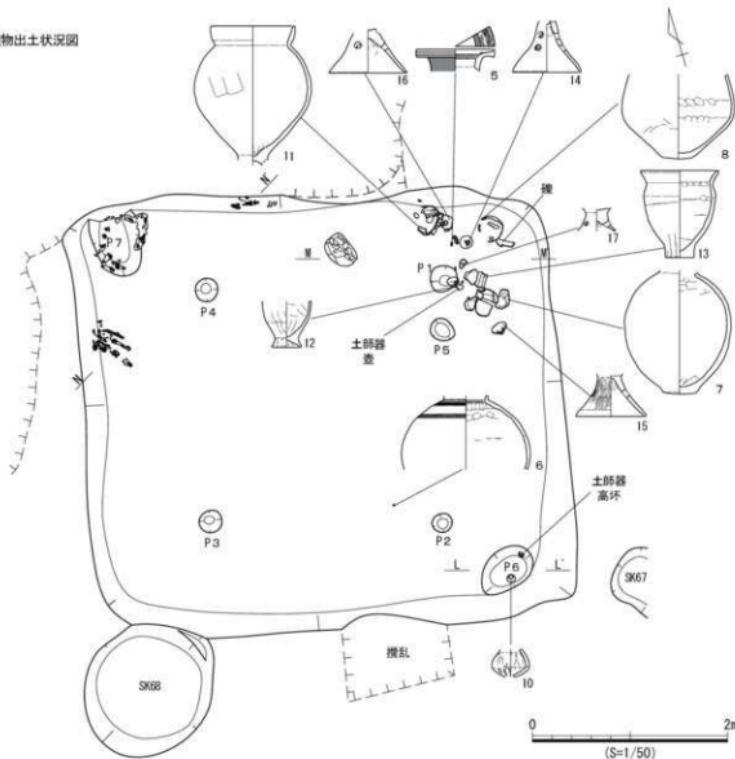


図14 SI3遺構図(2)

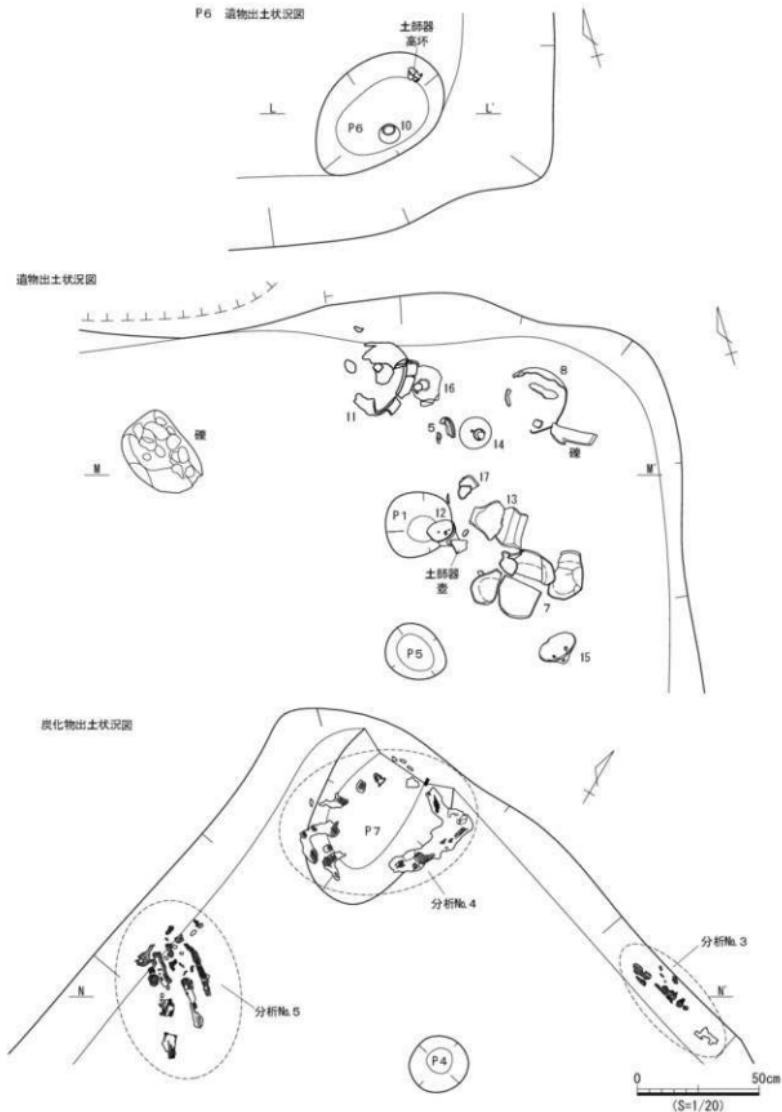


図15 SI 3 遺構図 (3)

析No. 3がモミ属、分析No. 4と5がクリであった（第4章第2節参照）。付属遺構からは、P6で土師器14点と石器1点が散在して出土した。

**遺物** 5～17は土師器で、5、7、8、11～17は遺物出土状況図で示した北東部からまとまって出土したものである。5～9は壺である。5はバレス壺の口縁部で、拡張口縁部に2条の疑回線を施し、口縁部内面に羽状文を配する。赤彩は、口縁部外面と、内面の羽状文下段に施す。6はバレス壺の体部で、最大径は体部半ばに位置する。体部上半に5条1単位の横線文を2段に配する。赤彩は、頸部から体部にかけての外面と、下端の内面に施す。7と8は壺の底部～体部で、口縁部を欠損する。7の最大径は、体部半ばに位置する。8は体部下半に最大径が位置するがゆがみが大きい。7と8のいずれも器壁表面の剥離が著しく、一部で外面の板ナデや内面のオサエが確認できる。9は壺の底部である。10はP6から出土したミニチュア土器の壺で、体部はすべて残るが、口縁部を欠損する。底部には穿孔が認められる。最大径は体部下半に位置し、くの字に折れる。調整は外面に縦方向のミガキを施し、内面は縦方向のユビナデを施す。11と12は台付甕である。11の脚部は欠損する。体部半ばに最大径を有し、口縁部はくの字に折り返して、口縁端部は内湾気味である。12は小型の台付甕で、口縁部は欠損する。体部の張りは弱い。13は平底の甕である。口縁部はくの字に折り返し、口縁端部は丸く収める。体部の最大径は上半に位置し、口縁部は体部の最大径よりも外側に開く。外面の調整は行わざず省略される。14～17はd層から出土した高壺の脚部である。14はラッパ状に開く脚部で、脚端部は垂下する。2段の三方透かしをもつ。15と16は外側に開く脚部で、17も同様と考えられる。1段の三方透かしをもつ。調整は器壁の剥離により不明瞭なものが大半であるが、15は縦方向のミガキが明瞭に残る。これらの遺物は、廻間II式前半～半ばと考えられる。

18と19は須恵器甕である。18は体部上半である。下端に1条の沈線を巡らせ、沈線の下部に列点文を配する。19は体部下半である。1条の沈線を巡らせ、沈線の上部に列点文を配する。体部下半には反時計回りの回転ヘラケズリを施す。接点は無いが、18と19は同一個体の可能性がある。いずれも猿投窓I-101号窓式期である。

20は打製石斧で基部は欠損する。刃部の平面形は一方に偏った扁刃で、断面は両面からの調整を施す。4や35などの打製石斧と比較すると厚さが半分程度しかないが、これは一面が板状節理面に沿って剥離したことによると考えられる。なお、剥離部分の打痕が基部側に位置することから、製作時の剥離と考えられる。

**時期** 床面の北東部でまとまって出土した廻間II式前半～半ばの土師器から、本遺構は古墳時代初頭に廢棄された竪穴建物と考えられる。

#### SI 4 (図18・19)

**検出状況** AF・AG11～12グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土と明確に異なり、平面形は明瞭であった。SK80、SK81、SK82、SK84、SK121、SD9と重複し、本遺構は、SK81とSK82より新しく、SK80、SK84、SK121、SD9より古い。

**規模・形状** 長軸3.96m、短軸3.82mで、ほぼ正方形の平面形である。長軸方位（北東壁）は、N-29°-Wである。

**埋土** 5層に分層した。2層は西部から南部にかけて堆積し、1層に炭化物、2層にブロック土をわずかに含む。3層～5層はカマドに伴う堆積と考えられる。4層に焼土ブロックを多量に含む。

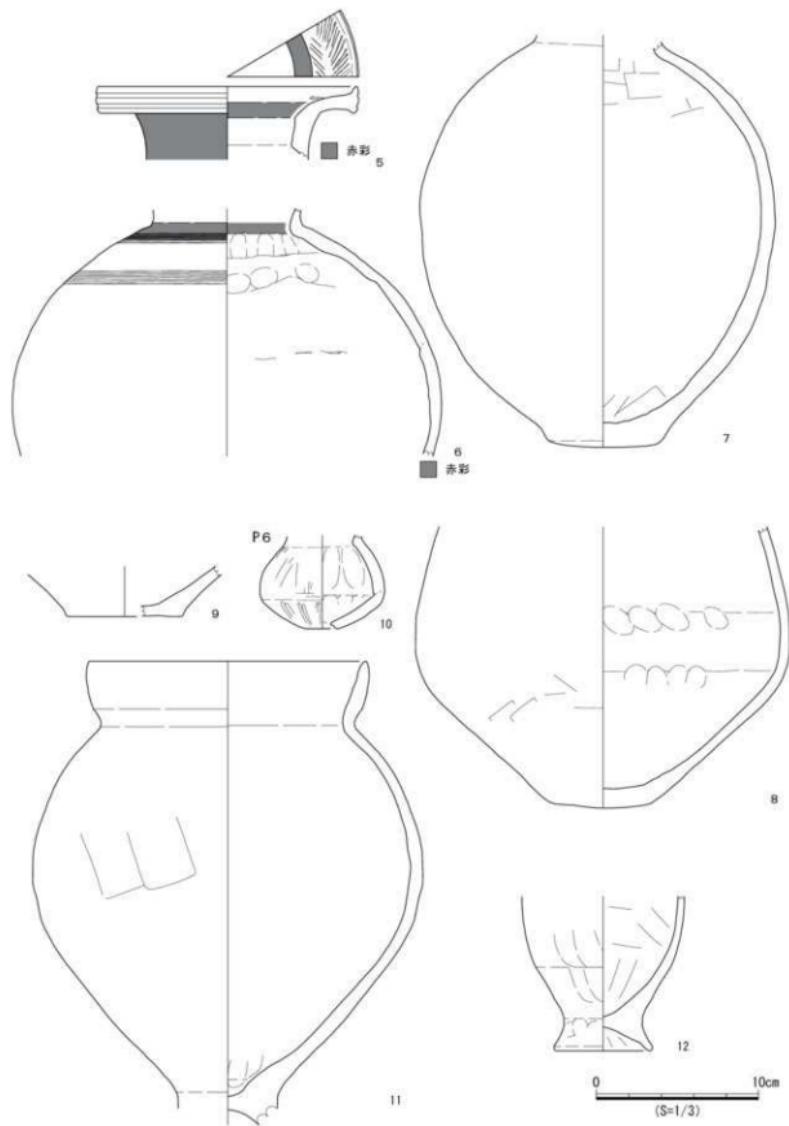


図16 SI 3出土遺物実測図（1）

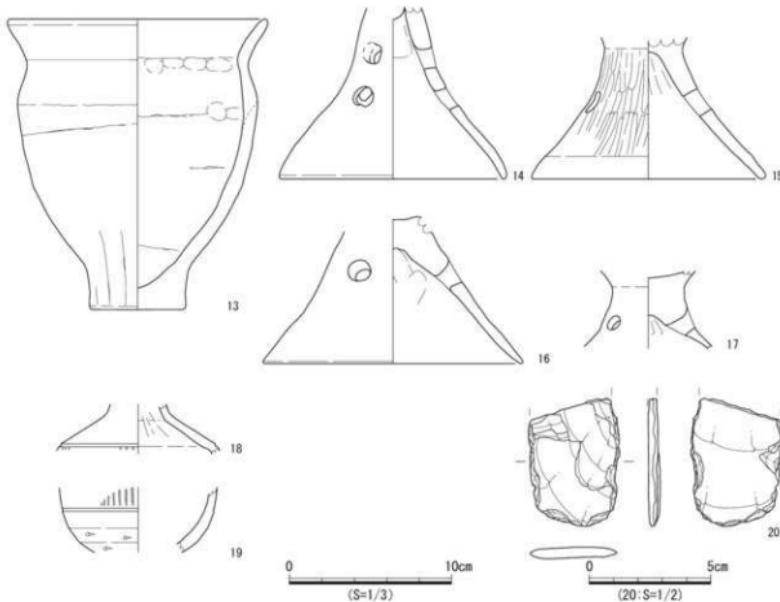


図17 S13出土遺物実測図（2）

**床面** 貼床は認められず、掘方底面を床面とした。床面でカマド、壁際溝、主柱穴と土坑（P1～P10）を検出した。

**主柱穴** 明確な対になる主柱穴は確認できなかった。竪穴建物の四隅部分に位置するP3とP5を主柱穴と想定した場合、壁際溝と接するP2が主柱穴の可能性がある。残る1基はP9との重複を見落とした可能性がある。

**カマド** 中央部の北辺壁際で、被熱して変色した範囲と袖の一部を確認した。変色した範囲（1層）は、カマド掘方と概ね一致する。袖は東部の一部で確認した。西部は亜角礫が散在しており、袖構築材の可能性がある。2層と3層がカマド掘方の埋土であり、被熱の状況（1層）から2層上面に焚口の火床が存在したと考えられる。

**遺物出土状況** 土師器8点、山茶碗4点、石器1点がa層から散在して出土した。山茶碗は、竪穴建物の北部から出土したが、土師器よりも小さな破片が多く、また、本遺構とSK80やSK84など中世の遺構と重複することから、これらの遺物が混入した可能性がある。付属遺構は、P5からほぼ完形の須恵器が正位で出土した他、P1から須恵器1点、P5から土師器3点、壁際溝④から土師器1点が散在して出土した。

**遺物** 21はP5から出土した須恵器壺身である。口縁端部の一部が欠損するのみで、ほぼ完形である。底面は凹凸があり、口縁部は外側に広がって立ち上がる。底部外面は、手持ちによるヘラケズリを施

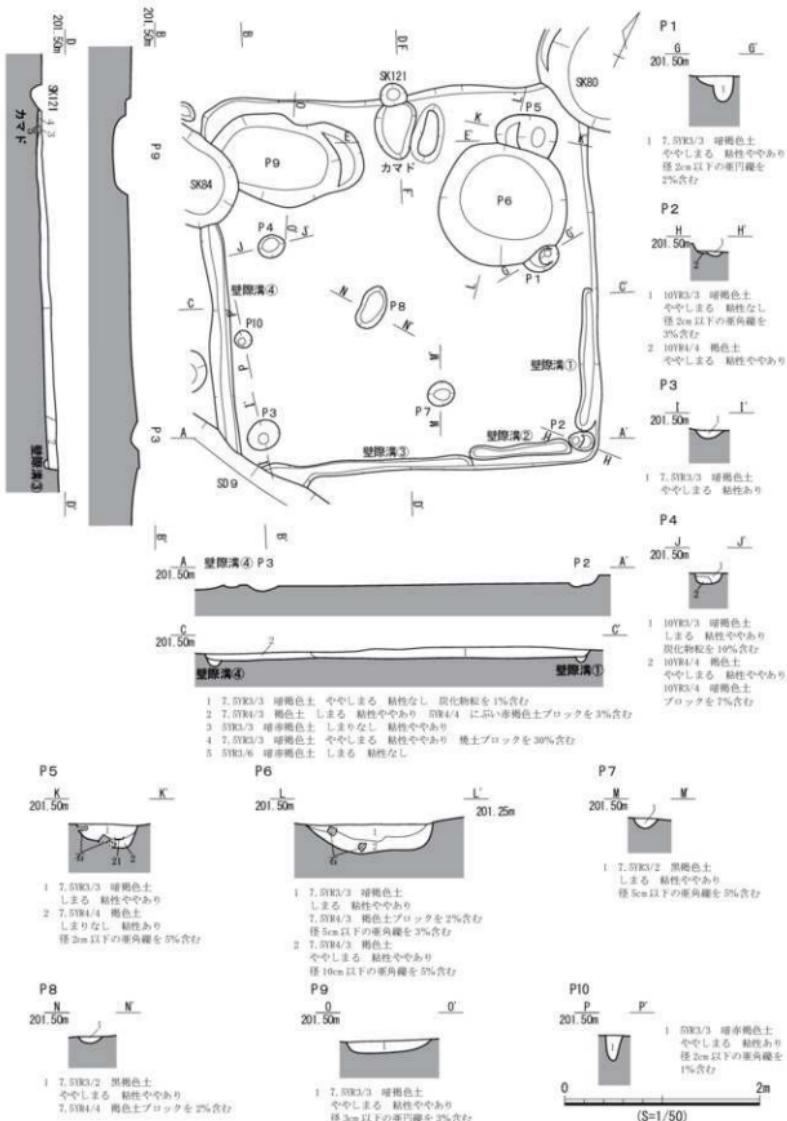
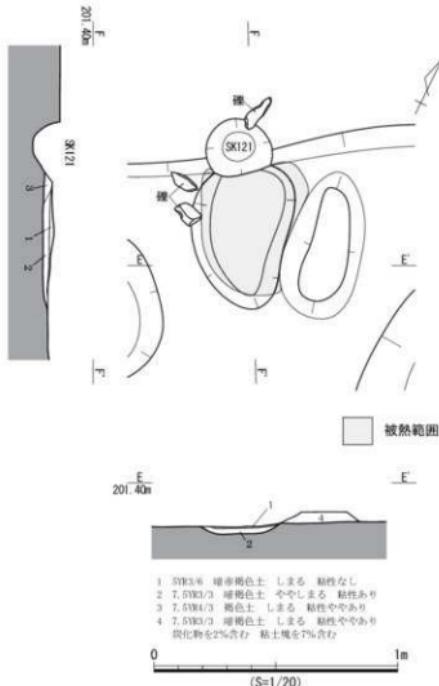


図18 SI 4 遺構図 (1)

カマド 実機状況



### P5 遗物出土状况图

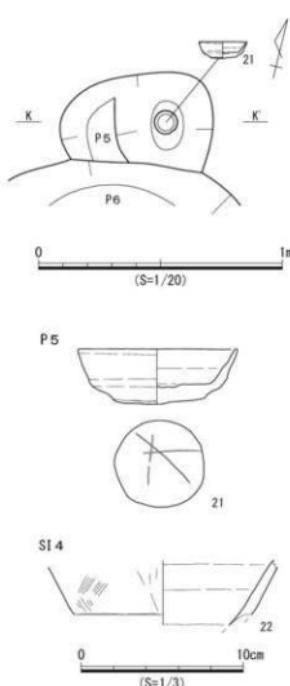


圖19 SJ4遺擲圖(2)：出土遺物審測圖

し、3条のヘラ描きによる線刻が認められる。猿投窓I-101号窓式期である。22は土師器甕である。底部上端と体部下端の接合部分で、外面に縱方向のハケメがわずかに残る。内外面の粘土紐接合痕は明瞭で、底部側の欠損部は、いわゆる「相欠はぎ接合」<sup>5)</sup>と呼ばれる特徴を示す。

時期 21と22から、本遺構は古墳時代後期と考えられる。

SI 5 (図20・21)

検出状況 AG・AH12～13グリッドで検出した。遺構埋土と基盤土との境が不明瞭で、平面形は不明瞭であった。SP15、SK78、SK122、SD9と重複し、本遺構はSP15より新しく、SK78、SK122、SD9より古い。

**規模・形状** 長軸4.00m、短軸3.85mで、北端がやや突出する不定形な平面形である。長軸方位（南北壁）は、N-36°-Wである。

**埋土** 5層に分層した。1層はほぼ水平堆積で、2層にブロック土をわずかに含む。3層～5層はカマドに伴う堆積と考えられる。3層と4層に焼土粒をわずかに含む。

床面 南西部でブロック土を少量含む貼床（6層）が認められた。南西部を除き、掘方底面を床面と

完掘状況

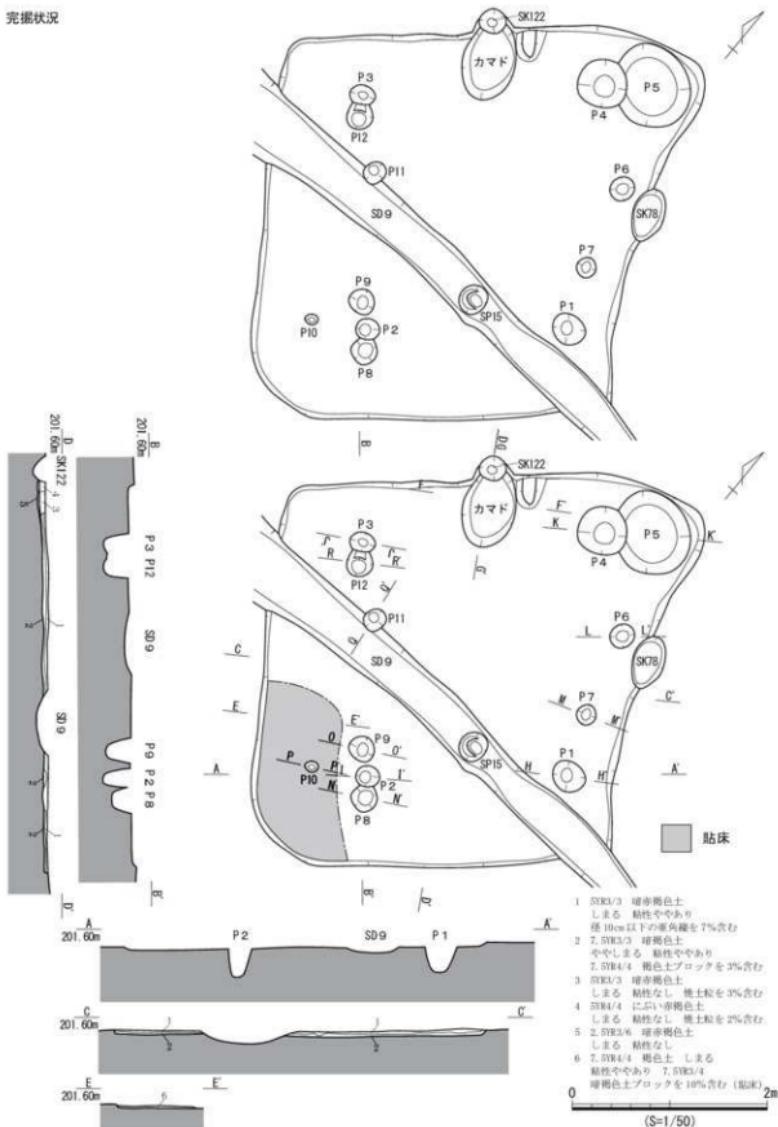
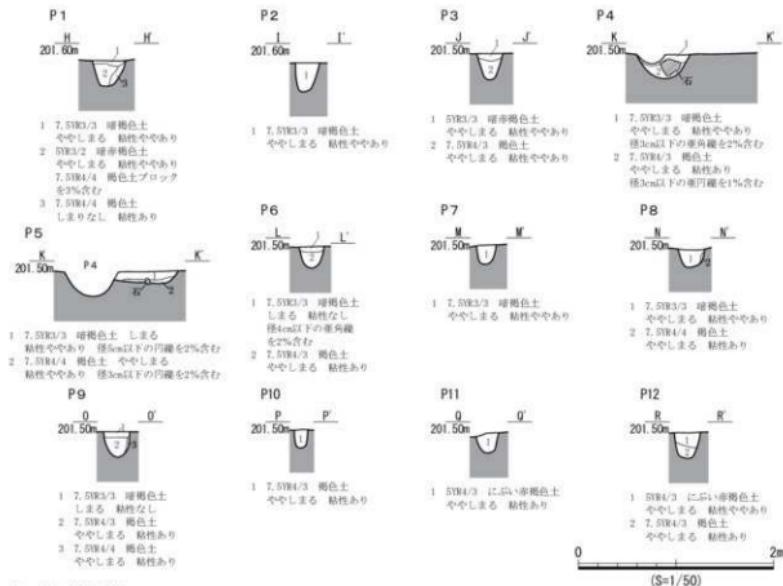


図20 SI 5造構図(1)



## カマド 完掘状況

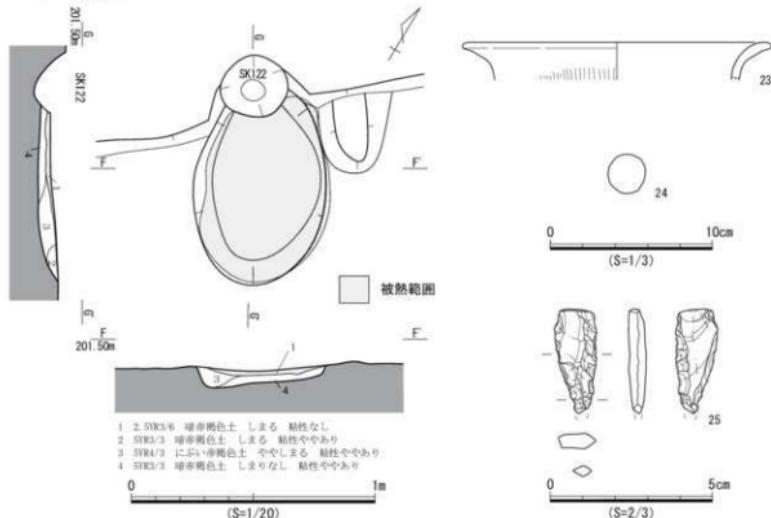


図21 SI 5造構図(2)・出土遺物実測図

した。カマド、主柱穴（P1～P3）と土坑（P4～P12）を検出した。壁際溝は認められない。

**主柱穴** 床面の南西部と南東部の壁際からほぼ等距離に位置するP1～P3を主柱穴と想定した。北東部P4は柱通りが悪いことや、遺構の重複関係でP4より古いP5から山茶碗が出土したため主柱穴では無いと考えられる。埋土は、P1を3層、P2を単層、P3を2層に分層した。埋土の色調や土質は近似する。P1の2層にブロック土をわずかに含む。

**カマド** 中央部の北西辺壁際で、被熱して変色した範囲と袖の一部を確認した。変色した範囲（1層）は、カマド掘方と概ね一致する。3層と4層はカマド構築時の掘方で、被熱の状況（1層）から3層と4層の上面に焚口の火床が存在したと考えられる。1層は3層と4層が燃焼に伴って变成了と考えられる。

**遺物出土状況** 埋土から土師器18点、山茶碗1点、石器1点が散在して出土した。堅穴建物北東部からの出土が多く、土師器13点と山茶碗1点が出土した。出土層位はすべてa層あるいは1層からである。P5から出土した山茶碗の陶丸（24）は混入したと考えられ、付属遺構の埋土1層の多くが本遺構埋土1層と同一あるいは近似する色調であることから、本遺構より新しい別遺構であった可能性がある。また、付属遺構からは、P4から土師器1点、P5から山茶碗2点、カマドから土師器4点が散在して出土した。

**遺物** 23はa層から出土した土師器甕の口縁部である。口縁部は外反し、口縁端部に向かって肥厚する。調整は、外面に縱方向のハケメがわずかに残る。24はa層から出土した山茶碗の陶丸である。真円に近い形状で、東濃型山茶碗と同じ胎土である。25は下呂石製の石錐である。錐部の断面形は菱形で、基部に自然面を残す。

**時期** SI4と長軸方位が近似することや23から、本遺構は古墳時代後期と考えられる。

## 2 掘立柱建物

### SB1（図22）

**検出状況** BE・BF1グリッドで検出した。同規模の柱穴（P1～P4）が等間隔に配置されることから1間×1間の掘立柱建物とした。遺構埋土の色調が基盤土と明確に異なり、平面形はいずれも明瞭であった。P2はSP8と、P3はSP9とSK41と重複する。本遺構は、SP9より新しく、SP8とSK41より古い。

**規模・形状** 平面形はほぼ正方形で、P4は南西にやや外れる。規模は、桁行1間（柱間1.58m～1.61m）、梁行1間（1.41m～1.51m）、床面積2.33m<sup>2</sup>である。桁行の長軸方位はN-72°～Eである。なお、本遺構の周辺は、SI1と同様に遺構面が大きく削平を受けており、他の堅穴建物より柱間隔が狭いものの、堅穴建物の主柱穴であった可能性もある。

**柱穴** 平面形はP1とP4は円形で、他の遺構と重複するP2とP3も円形と考えられる。柱穴の埋土は、いずれも単層で、柱痕跡は確認できなかった。P2～P4はブロック土をわずかに含む。遺物はP1とP3からそれぞれ土師器1点が出土した。

**遺物** 26はP2から出土した土師器甕の口縁部である。口縁部をくの字に折り返し、口縁端部は欠損する。SI3の11よりも口縁部は外側に開く。

**時期** 26から、本遺構は古墳時代初頭の掘立柱建物と考えられる。

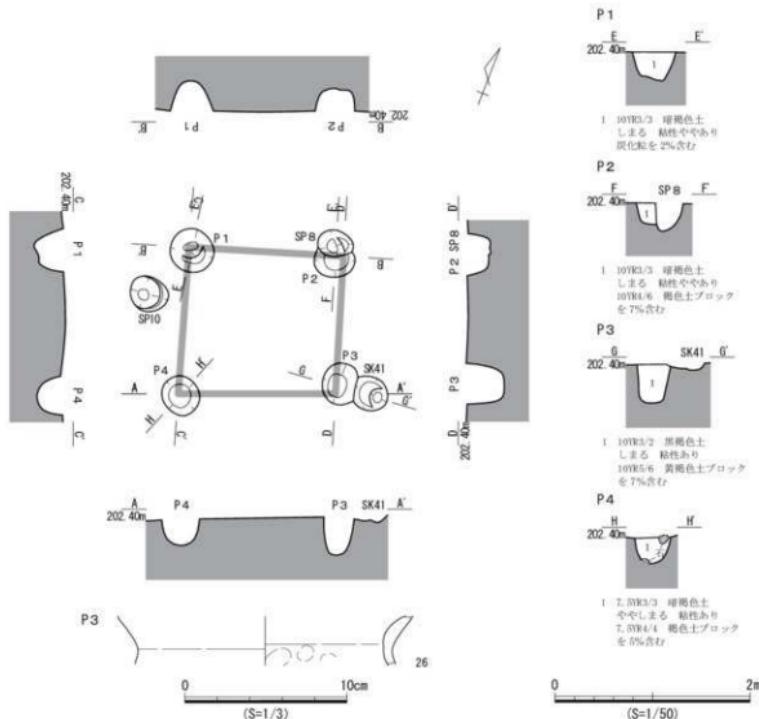


図22 SB 1遺構図・出土遺物実測図

### 3 土坑

SK99（図23）

**検出状況** AH12グリッドで検出した。遺構埋土と基盤土の色調が明確に異なり、平面形は明瞭であった。

**規模・形状** 長軸長0.66m、短軸長0.64m、深さ0.26mである。平面形は円形で、断面形は半円形である。

**埋土** 2層に分層した。2層は、土坑東部の一部に堆積する。1層に礫をわずかに含む。

**遺物出土状況** a層と1層からそれぞれ土器1点が出土した。

**遺物** 27はa層から出土した土器平底甕である。内外面の器面剥離のため、調整は不明である。底部の作りや胎土から、古墳時代後期のB類甕とは胎土や底部の作りが異なることから、古墳時代初頭と考えられる。

**時期** 27から、本遺構は古墳時代初頭以降と考えられる。

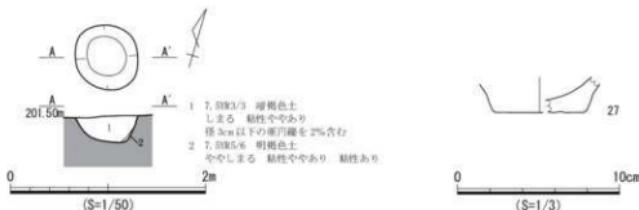


図23 SK99遺構図・出土遺物実測図

## 4 表土出土遺物（図24）

28はAE19グリッドのI層から出土した須恵器高杯の口縁部である。下間に1条の線を巡らせる。猿投窯I-101号窯式期である。

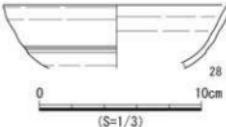


図24 表土出土遺物実測図

## 第5節 中世以降の遺構・遺物

今回の調査では、中世については共伴遺物である東濃型山茶碗により、白土原1号窯式期～明和1号窯式期の中世前期と、大畑大洞4号窯式期古段階～脇之島3号窯式期の中世後期に分けた。また、近世以降や、出土遺物や遺構重複なども無く時期不明の遺構のうち、特徴的なものについて本節で報告する。

### 1 堀立柱建物

SB 2 (図25)

**検出状況** BE 2、BE 3、BF 2 グリッドで検出した。いずれの柱穴も遺構埋土の色調が基盤土と明確に

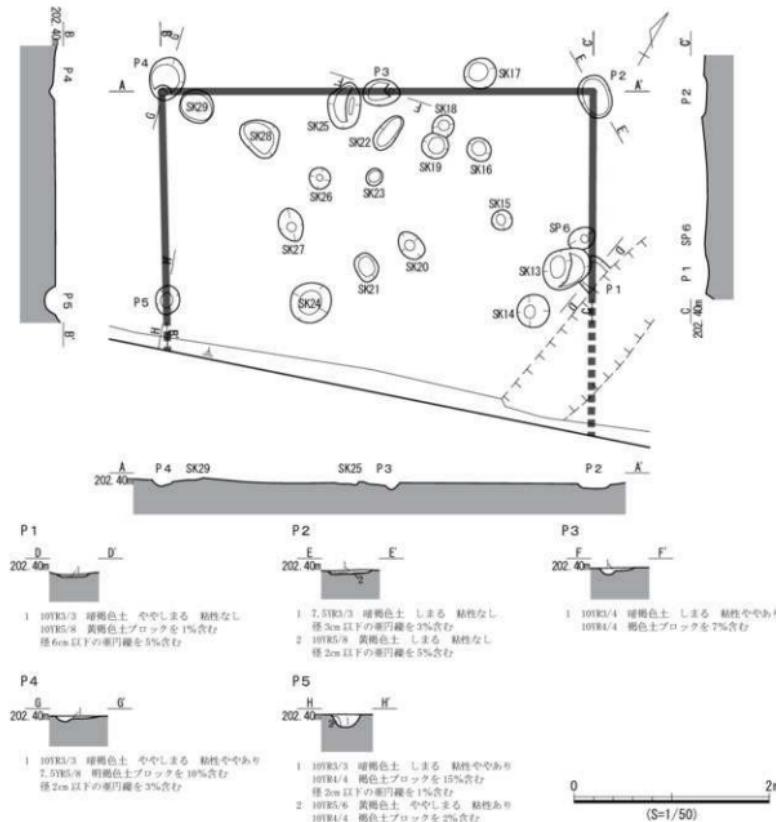


図25 SB 2 遺構図

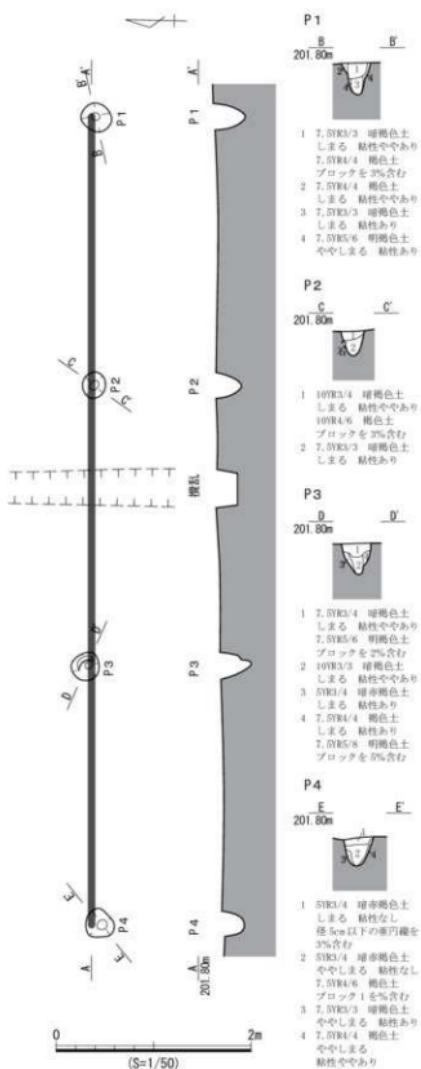


図 26 SA 1 遺構図

異なり、平面形は明瞭であった。3基の柱穴(P2～P4)が等間隔で直線的に配置され、P2とP4でそれぞれ直角に折れるP1とP5を検出したことから、掘立柱建物と判断した。建物の西辺と東辺は発掘区外に続く。P1はSK13と重複し、本遺構はSK13より新しい。

**規模・形状** 北辺の長軸長は4.42mで、柱間は2.21mである。東辺の柱間は1.89m、西辺の柱間は2.14mである。北辺の長軸方位はN-30°-Wである。西辺と東辺の柱間の位置が合わないが、P1を切る擾乱内に西辺と等間隔の柱穴が存在した可能性もある。

**柱穴** 平面形はP1が方形の他は円形である。深さは、P5を除いて0.1m以下で非常に浅い。堆積状況は、P2は中央が壅む堆積で、P5の1層は壅みが一方に偏った堆積である。P1の1層、P2の1層と2層、P4の1層、P5の1層に疊をわずかに含み、P3の1層、P4の1層、P5の1層と2層にブロック土をわずかに含む。

**遺物** 柱穴から遺物は出土しなかった。

**時期** SK13との重複関係から、本遺構は古墳時代後期と考えられ、中世まで下る可能性もある。

## 2 檻

### SA 1(図26)

**検出状況** AF15～17グリッドで検出した。いずれの柱穴も遺構埋土の色調が基盤土と明確に異なり、平面形は明瞭であった。4基の柱穴(P1～P4)が等間隔で直線的に配置されることから檻とした。

**規模・形状** 長軸長は8.26mで、柱間は東より順に2.76m-2.85m-2.65mである。長軸方位はN-89°-Eである。

**柱穴** 平面形はいずれも円形である。堆積状況は、P1の1層と2層が3層と4層を掘り込むような堆積であり柱痕跡と考えられる。P2は一方に偏る堆積である。P3は、2層が3層と4層を掘り込むような堆積であり柱痕跡と考えられる。P4は、中央が窪む堆積である。P4の1層に礫をわずかに含み、P1の1層、P2の1層、P3の1層と4層、P4の2層にブロック土をわずかに含む。

**遺物** いずれの柱穴からも遺物は出土しなかった。

**時期** 遺物は出土せず、遺構の重複も無いため、本遺構は時期不明である。

### 3 土坑

#### SK12（図27）

**検出状況** BE3グリッドで検出した。遺構埋土にブロック土を含み、色調も基盤土と明確に異なることから、平面形は明瞭であった。

**規模・形状** 長軸長1.17m、短軸長0.95m、深さ0.19mである。平面形は東西にやや長い方形で、断面形は方形である。

**埋土** 単層である。ブロック土をわずかに含む。

**遺物出土状況** 1層から山茶碗1点と石器1点が散在して出土した。

**遺物** 29は大烟大洞4号窯式に比定した東濃型山茶碗の碗である。30はスクレイバーである。平面形は丸みをもった三角形状で、側縁に連続する調整による刃部を作り出す。表面には自然面を残す。

**時期** 29から、本遺構は13世紀後葉～14世紀後葉である。

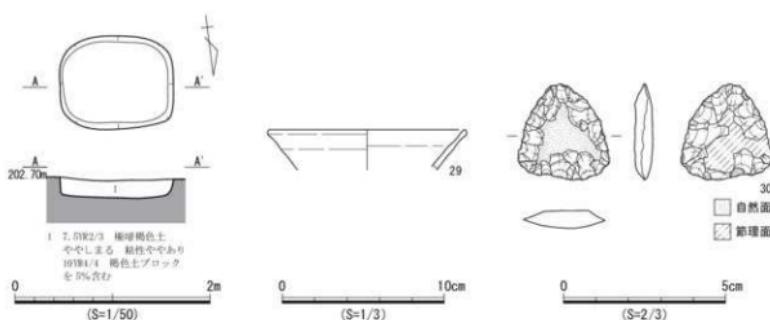


図27 SK12遺構図・出土遺物実測図

#### SK53（図28）

**検出状況** AG18グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土と明瞭に異なり、埋土に礫を多量に含んで検出面で露出していたことから、平面形は明瞭であった。

**規模・形状** 長軸長0.97m、短軸長0.55m、深さ0.31mである。平面形は東西に長い円形で、断面形は半円形である。

**埋土** 単層である。径20cm以下の礫を多量に含み、ブロック土をわずかに含む。

**遺物出土状況** 1層から近世陶器1点、瓦1点、砥石1点が散在して出土した。

**遺物** 31は瀬戸・美濃の瓶掛である。短く外折する口縁部で、頸部に文様は認められない。内外面は全面に施釉され、緑釉の垂らし掛けの上にハケ塗りによる白色釉を施す。1790年代以降に出現する。32は凝灰岩製の中砥である。正面と、側面のうちの3面を砥面として用い、正面と側面の一部に敲打痕が認められる。

**時期** 31から、本遺構は18世紀末以降と考えられる。

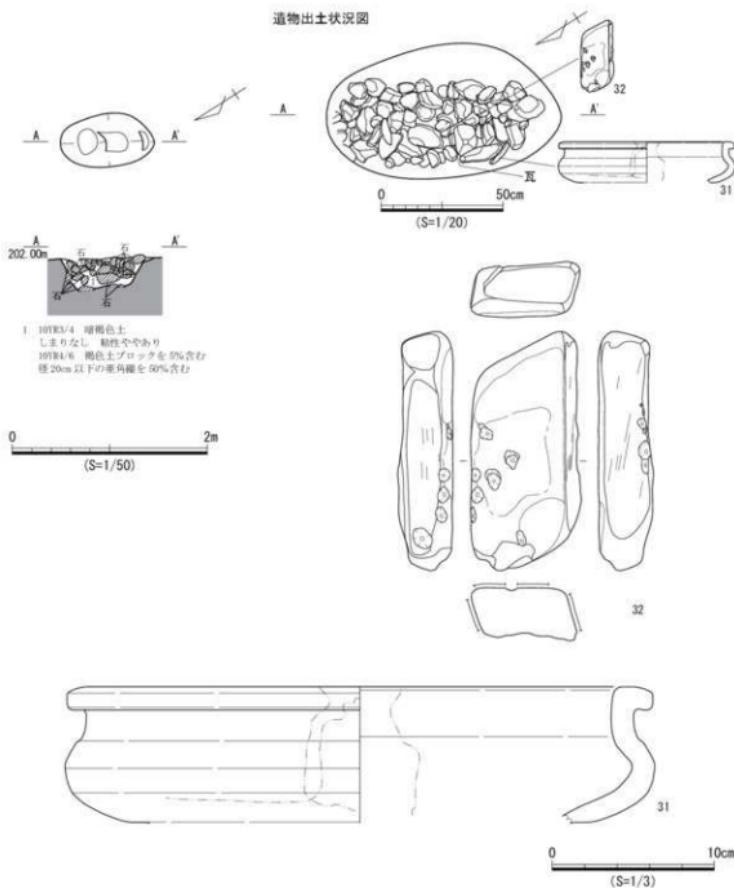


図28 SK53遺構図・出土遺物実測図

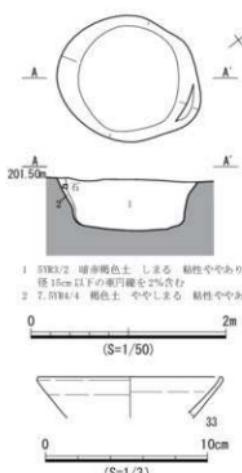


図29 SK68遺構図・出土遺物実測図

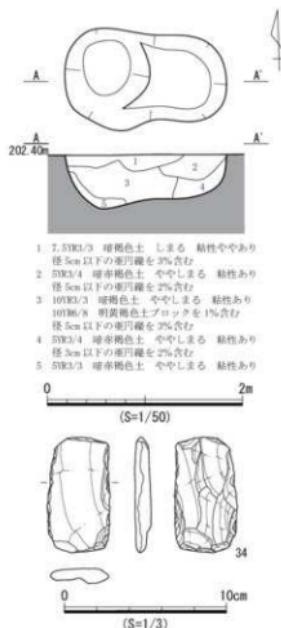


図30 SK84遺構図・出土遺物実測図

## SK68（図29）

**検出状況** AF13グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土と明確に異なり、平面形は明瞭であった。SI 3と重複し、本遺構はSI 3より新しい。

**規模・形状** 長軸長1.50m、短軸長1.28m、深さ0.53mである。平面形は円形で、北東部の一部にテラスをもつ。

**埋土** 2層に分層した。堆積状況は、2層が土坑の南西部の一部にのみ薄く堆積する。1層に疊をわずかに含む。

**遺物出土状況** a層から山茶碗3点と石器1点が散在して出土した。

**遺物** 33は大洞東1号窯式に比定した東濃型山茶碗の碗口縁部である。2次焼成によるものか、赤褐色系の色調で、器面もやや粗い。

**時期** 33から、本遺構は14世紀末～15世紀前葉と考えられる。

## SK84（図30）

**検出状況** AG11・AG12グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土やSI 4埋土と明瞭に異なり、平面形は明瞭であった。SI 4、SK82、SK83と重複し、本遺構はこれらの遺構より新しい。

**規模・形状** 長軸長1.66m、短軸長0.95m、深さ0.55mである。平面形は東西に長い円形で、断面形は半円形である。

**埋土** 5層に分層した。疊やブロック土をわずかに含み、短期間に人為的に埋め戻されたと考えられる。

**遺物出土状況** a層から山茶碗1点と1層から石器1点が散在して出土した。

**遺物** 石器1点を図示した。34は打製石斧である。短冊形の形状である。刃部は直刃で、断面は両面からの調整による両平刃で、一部は欠損する。

**時期** a層から出土した山茶碗の小片から、本遺構は中世後半と考えられる。

## SK90（図31）

**検出状況** AH12グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土よりも暗く、平面形は明瞭であった。SP22、SK91、SK92と重複し、本遺構はSK92より古く、SP22とSK91より新しい。

**規模・形状** 長軸長1.02m、短軸長0.77m、深さ0.13mである。平面形は東部がSK92にむかって突出する不定形な形状で、

断面形は台形である。

**埋土** 単層である。礫をわずかに含む。

**遺物出土状況** a 層から山茶碗 2 点と石器 1 点が散在して出土した。

**遺物** 石器 1 点を図示した。35は打製石斧である。刃部に向かってやや幅広となる楕円形の形状である。

刃部の平面形は円形で、断面は両面からの調整による両平刃である。

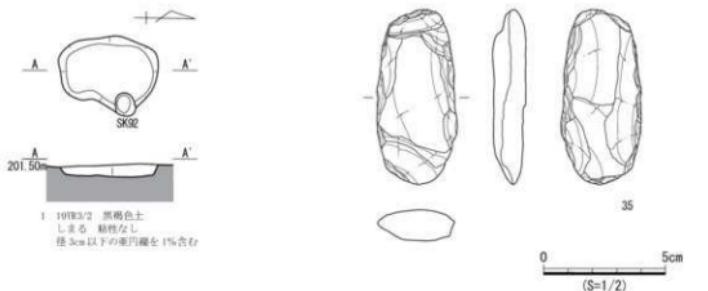
**時期** a 層から出土した山茶碗の小片から、本遺構は中世後半と考えられる。

SK93 (図31)

**検出状況** AG・AH12グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土とあまり差が無く、平面形は不明瞭であった。SD 9 と重複し、本遺構はSD 9 より古い。

**規模・形状** 長軸長 1.12m 以上、短軸長 0.88m、深さ 0.25m である。平面形は二つの円形が重なったような形状で、断面形は台形で北部が一段落ち込む。

SK90



SK93

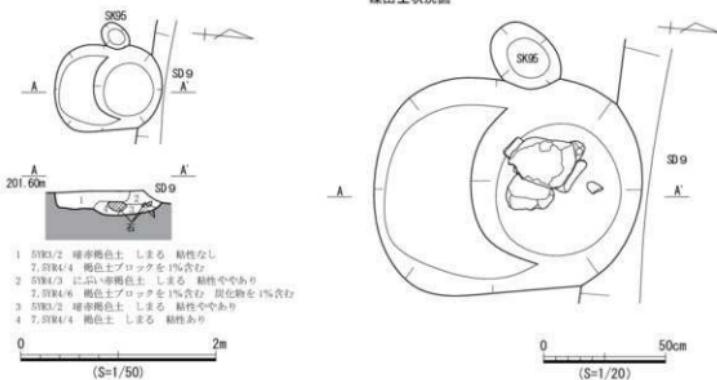


図31 SK90遺構図・出土遺物実測図 SK93遺構図

**埋土** 4層に分層した。堆積状況は、1層が2層と4層を掘り込むような堆積である。堆積状況から、1層と2層～4層は別遺構であった可能性がある。1層と2層にブロック土をわずかに含み、2層には炭化物をわずかに含む。

**遺物出土状況** 北部の3層と4層中から、礫がまとまって出土した。礫は1辺5cm～30cmの扁平な亜角礫で、底面から少し浮いた状態であった。遺物は出土しなかった。

**時期** SD9との重複関係から、本遺構は18世紀以前と考えられる。

#### SK96(図32)

**検出状況** AH12グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土とあまり差が無く、平面形は不明瞭であった。

**規模・形状** 長軸長0.87m、短軸長0.76m、深さ0.24mである。平面形は方形で、断面形は方形で上部がやや外側に開く。

**埋土** 3層に分層した。堆積状況は、1層は南寄りに堆積し、3層は南壁から底面にかけて薄く堆積し、崩落土の可能性がある。1層に礫をわずかに含み、2層と3層にブロック土をわずかに含む。

**遺物出土状況** a層から山茶碗2点、b層から山茶碗1点と古漁戸1点、1層から山茶碗3点が散在して出土した。

**遺物** 38はb層から出土した大洞東1号窯式に比定した東濃型山茶碗の碗である。見込みにも粗穀痕が認められる。36と37はa層と1層から出土した明和1号窯式に比定した東濃型山茶碗の碗底部である。いずれも見込みにも粗穀痕が認められ、37の見込みは使用に伴うと考えられる研磨により平滑である。

**時期** b層から出土した38からa層と1層から出土した36と37は混入と考えられ、本遺構は14世紀末～15世紀前葉である。

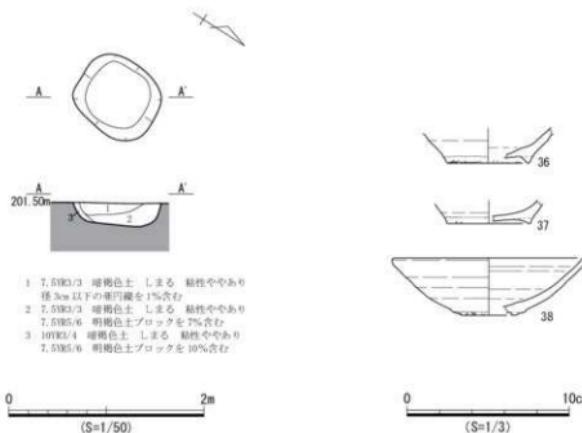


図32 SK96遺構図・出土遺物実測図

## SK97（図33）

**検出状況** AG11～AH12グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土とあまり差が無く、平面形は不明瞭であった。SP25、SK100、SD9と重複し、本遺構はこれらの遺構より古い。

**規模・形状** 長軸長1.99m、短軸長1.57m、深さ0.50mである。平面形は東側にやや突出した円形で、断面形は台形で東部の突出部にテラスを持つ。

**埋土** 2層に分層した。堆積状況は、1層が2層を掘り込む堆積で、1層と2層は別遺構であった可能性がある。2層に礫をわずかに含む。

**遺物出土状況** a層～c層から山茶碗4点、c層から山茶碗1点、d層～g層から須恵器1点、山茶碗5点、2層から土器1点、山茶碗6点、石器2点が散在して出土した。

**遺物** 39はd層～g層、40はa層～c層、41は2層から出土し、いずれも明和1号窯式～大畠大洞4号窯式古段階に比定した東濃型山茶碗の碗と小皿である。40は見込みに粗粒痕が認められる。41は底部中央の厚みが約1mmで極めて薄手である。42は打製石斧である。刃部に向かってやや幅広となる楔形の形状である。刃部は偏刃で、断面は両面からの調整による両平刃である。

**時期** 39～41から、本遺構は13世紀中葉～14世紀前葉と考えられる。

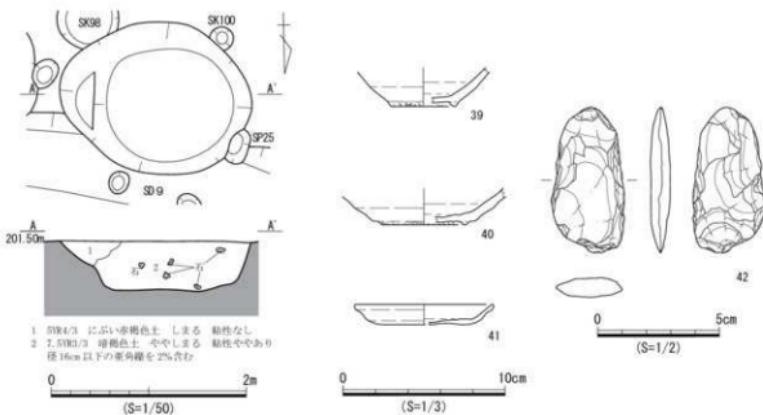


図33 SK97遺構図・出土遺物実測図

## SK102（図34）

**検出状況** AH11グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土とあまり差が無く、平面形は不明瞭であった。

**規模・形状** 長軸長0.75m、短軸長0.65m、深さ0.20mである。平面形は円形で、断面形は北部が方形で、その他は半円形である。

**埋土** 2層に分層した。1層は極暗赤褐色の他の土坑には無い色調で、礫をわずかに含む。また、2層にブロック土をわずかに含む。

**遺物出土状況** a層から山茶碗2点、1層から山茶碗1点と石器1点が散在して出土した。

**遺物** 43はa層、44は1層から出土し、いずれも明和1号窯式～大畑大洞4号窯式新段階に比定した東濃型山茶碗の碗である。45は打製石斧である。短冊形の形状で、基部の一部は欠損する。刃部は偏刃で、断面は両面からの調整による両平刃である。

**時期** 43と44から、本遺構は13世紀中葉～14世紀前葉である。

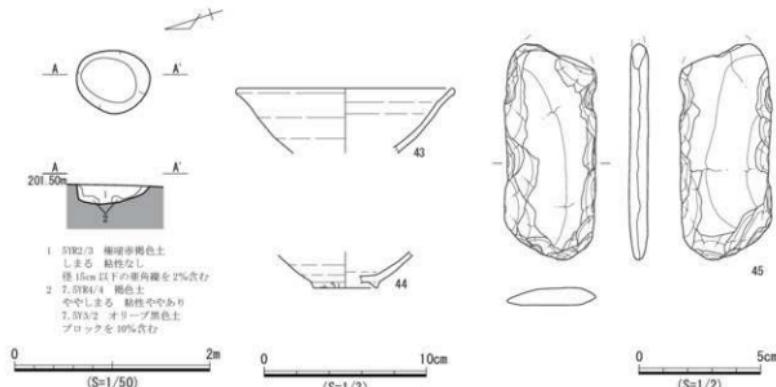


図34 SK102遺構図・出土遺物実測図

### SK109 (図35)

**検出状況** AG10グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土とあまり差が無く、平面形は不明瞭であった。SK110と重複し、本遺構はSK110より新しい。

**規模・形状** 長軸長0.49m、短軸長0.34m、深さ0.10mである。平面形は円形で、断面形は半円形である。

**埋土** 単層である。礫をわずかに含む。

**遺物出土状況** 1層から山茶碗6点、古瀬戸1点が散在して出土した。

**遺物** 46と47は、いずれも大畑大洞4号窯式新段階に比定した東濃型山茶碗の碗である。47は内面見込みに楕円痕が認められる。48は古瀬戸後II期の折縁小皿である。外面底部は回転糸切りで、内面見込みには、4ヶ所のトチ痕が残る。

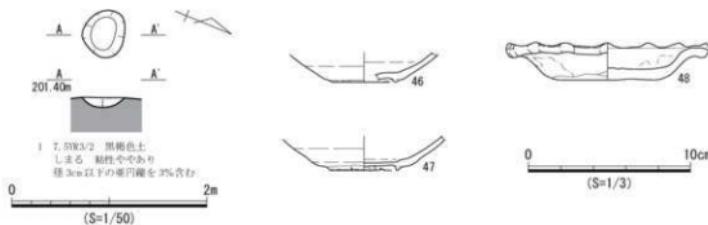


図35 SK109遺構図・出土遺物実測図

**時期** 48と46、47とは時期が異なるが46と47は混入と考えられ、本遺構は14世紀末～15世紀初頭と考えられる。

#### SK115（図36）

**検出状況** AH・AI10グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土とあまり差が無く、平面形は不明瞭であった。SK116と重複し、本遺構はSK116より新しい。

**規模・形状** 長軸長1.44m、短軸長1.15m、深さ0.13mである。平面形はやや東西に長い円形で、断面形は半円形である。

**埋土** 3層に分層した。堆積状況は、1層が2層を掘り込むような堆積で土坑の西部に、2層が土坑の東部に堆積する。3層は底面の一部に堆積する。1層と2層は別遺構で、3層は基盤土ブロックの可能性がある。すべての層に礫をわずかに含む。

**遺物出土状況** 1層から古墳時代後期の土師器1点、山茶碗2点が散在して出土した。

**遺物** 49はB2類の土師器甕である。外反する口縁部で、外面は体部に斜め方向のハケメ、内面は口縁部に横方向のハケメを施す。

**時期** 本遺構よりも古いSK116に山茶碗の小片を含むことから49は混入と考えられ、本遺構は13世紀後葉～14世紀前葉以降である。

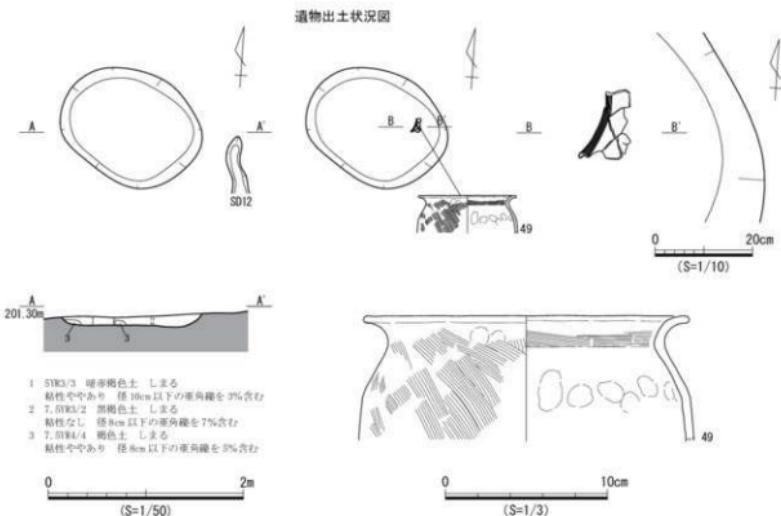


図36 SK115遺構図・出土遺物実測図

#### SK116（図37）

**検出状況** AH・AI10グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土とあまり差が無く、平面形は不明瞭であった。SK115と重複し、本遺構はSK115より古い。

**規模・形状** 長軸長0.85m、短軸長0.63m、深さ0.18mである。平面形と断面形はいずれも不定形で

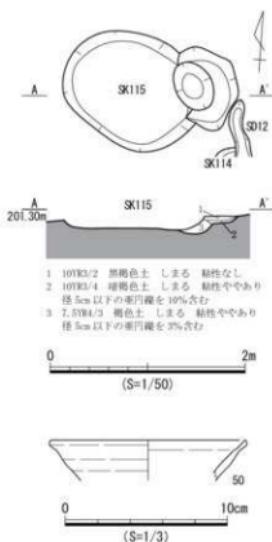


図37 SK116遺構図・出土遺物実測図

丘崖の北に向かって傾斜する。

**埋土** 3層に分層した。堆積状況は、中央がやや凹む堆積で、埋土は、1層～3層に礫を少量含み、B-B'断面では3層にブロック土を少量含む。

**遺物出土状況** a層～b層から土師器1点、山茶碗1点、石器1点、a層～c層から土師器1点、山茶碗1点、c層から須恵器1点、d層から土師器1点、3層から山茶碗1点が散在して出土した。

**遺物** 51はa層～c層から出土し、白土原1号窯式に比定した東濃型山茶碗の碗底部である。

**時期** 古墳時代初頭、古墳時代後期、中世の遺物を含むが、SI2との重複関係や、本遺構底面直上の3層から山茶碗の小片が出土していること、図示した51から、本遺構は13世紀前葉と考えられる。

#### SD 7 (図39)

**検出状況** AE14～AF15グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土と明確に異なり、平面形は明瞭であった。北端は段丘崖と擾乱によって消失する。

**規模・形状** 幅1.8m、長さ5.88m以上、深さ0.44mである。平面形は南から北に向かって屈曲して幅が広がり、断面形は半円形である。溝底面の標高は、南端で201.31m、北端で200.73mと南から北に向かって傾斜する。

**埋土** A-A'断面を6層、B-B'断面を5層に分層した。各断面は混入物に差が認められ、1層～2層は礫をわずかに含み、5層～6層はブロック土を含む。

**遺物出土状況** a層から土師器1点、a層～b層から土師器2点、山茶碗1点、c層～d層から土師

ある。

**埋土** 3層に分層した。堆積状況は、2層が3層を掘り込むような堆積で、3層は別遺構であった可能性がある。埋土は、2層と3層に礫をわずかに含む。

**遺物出土状況** a層から土師器1点、1層から山茶碗2点が散在して出土した。

**遺物** 50は大烟大洞4号窯式古段階に比定した東濃型山茶碗の碗である。

**時期** 50から、本遺構は13世紀後葉から14世紀前葉と考えられる。

#### 4 溝状遺構

##### SD 6 (図38)

**検出状況** AF・AG18グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土と明確に異なり、平面形は明瞭であった。北端は擾乱と重複して消失し、南端は発掘区外に延びる。SI2やSK49と重複し、本遺構はこれらの遺構より新しい。

**規模・形状** 幅1.0m、長さ8.74m以上、深さ0.42mである。平面形は直線的に延び、断面形は半円形である。溝底面の標高は、南端で201.87m、北端で201.60mと南から段

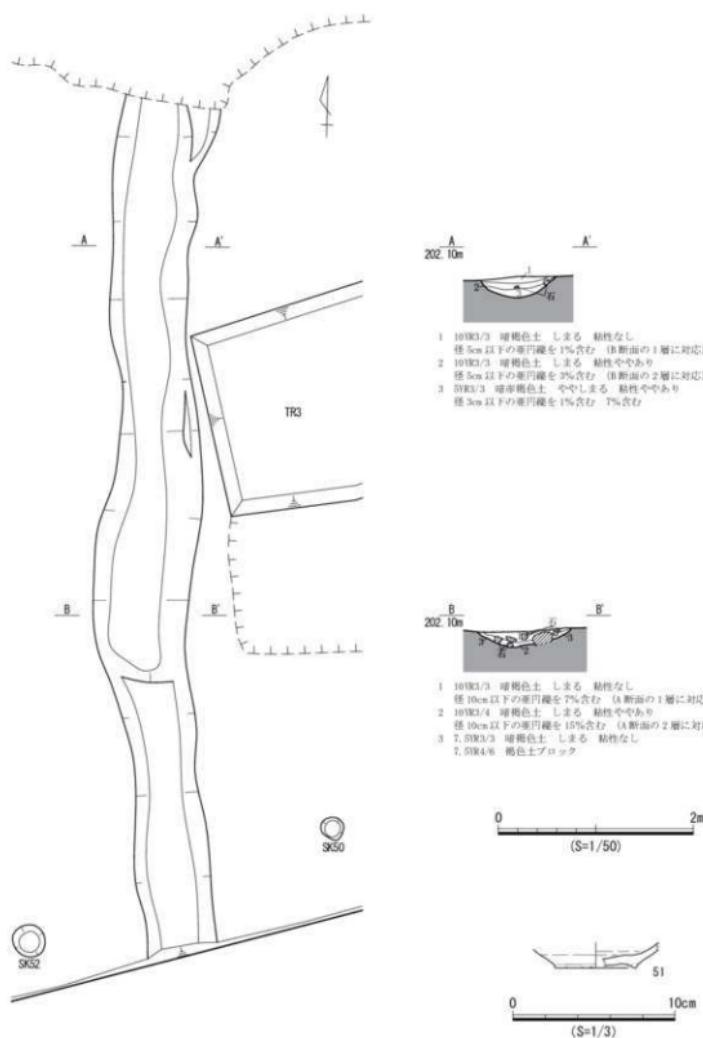


図38 SD 6 遺構図・出土遺物実測図

器2点、山茶碗1点、d層から土師器1点、e層～f層から土師器1点が散在して出土した。

**遺物** 52はa層～b層から出土し、明和1号窯式～大畑大洞4号窯式古段階に比定した東濃型山茶碗の碗である。口縁部はやや肥厚する。

**時期** 図示した52から、本遺構は13世紀中葉～14世紀前葉と考えられる。

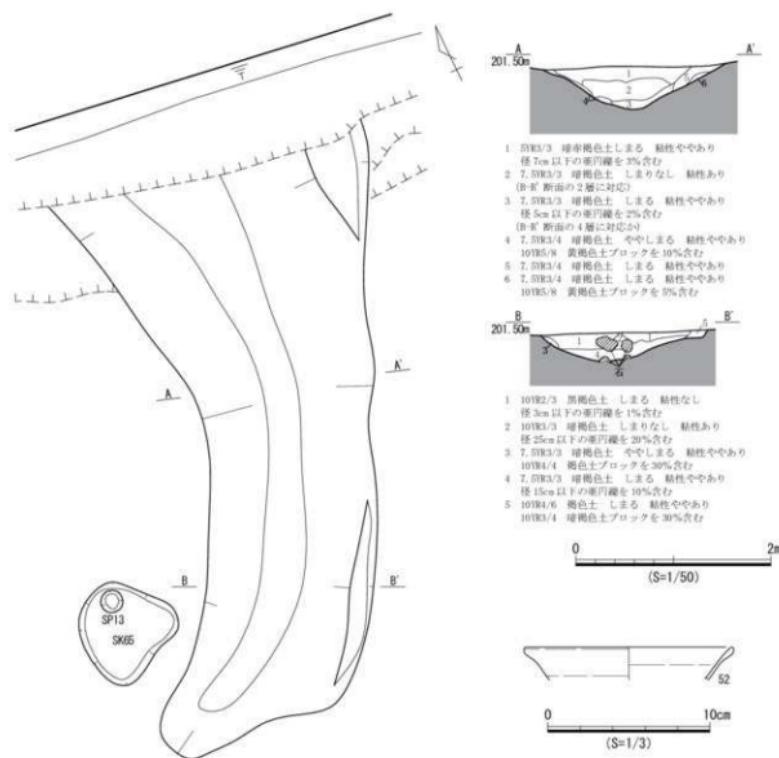


図39 SD 7 遺構図・出土遺物実測図

#### SD 9 (図40・41)

**検出状況** AG10～13グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土と明確に異なり、平面形は明瞭であった。東端は擾乱と重複して消失し、西端は発掘区外に延びる。

**規模・形状** 幅1.32m、長さ17.65m以上、深さ0.18mである。平面形は西に向かって幅が広がりながら直線的に延び、断面形は半円形である。溝底面の標高は、東端で201.43m、西端で201.02mと東から西に向かって傾斜する。

SD 9

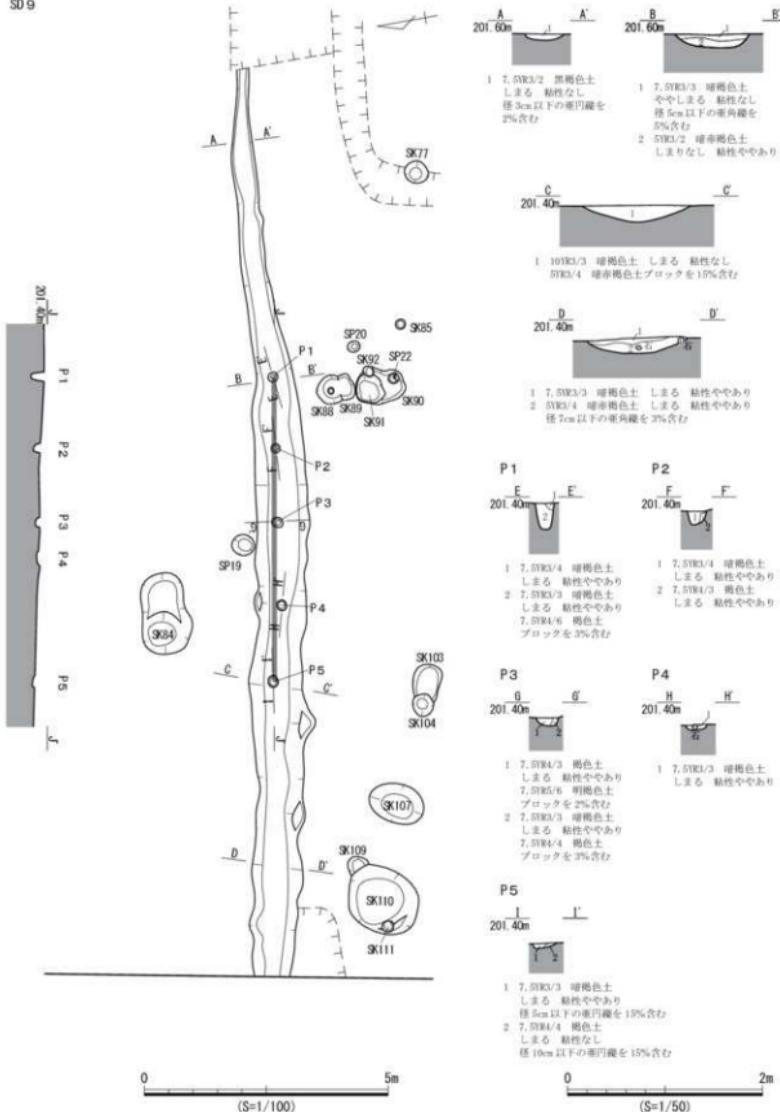


図40 SD 9 遺構図

**埋土** A-A'断面からD-D'断面で単層～2層に分層した。各断面で色調やしまり・粘性は異なり、堆積状況も異なる。堆積状況は、B-B'断面は水平堆積で、D-D'断面は中央が窪む堆積である。埋土は、A-A'断面とB-B'断面の1層では礫をわずかに含み、C-C'断面ではブロック土をわずかに含む。

**付属遺構** 本遺構の底面に沿って5基の柱穴(SD9-P1～P5)を検出した。直線的に並ぶことから、構造遺構内に設けられた柵と考えられる。長軸の長さは6.32mで、柱間は東より順に1.45m-1.51m-1.72m-1.55mである。長軸方位はN-80°-Wである。P1～P5の平面形はいずれも円形である。堆積状況は、P1の1層は東の壁際に偏った堆積で、P2の1層は柱痕跡、P3とP5は一方に偏る堆積である。埋土は、P5の1層に礫を少量含み、P1の2層とP3の1層と2層にブロック土をわずかに含む。

**遺物出土状況** a層から土師器4点、山茶碗15点、古瀬戸1点、a層～c層から山茶碗12点、B-B'断面の1層から山茶碗2点が散在して出土した。なお、付属遺構から遺物は出土しなかった。

**遺物** 53は1層から出土し、大畠大洞4号窯式古段階に、54はa層～c層から出土し、明和1号窯式～大畠大洞4号窯式古段階にそれぞれ比定した東濃型山茶碗の碗である。55はa層から出土したホウロクで、口縁部の形態より金子健一氏分類のD類に近似する<sup>6)</sup>。外面には煤が付着する。

**時期** 55より、本遺構は18世紀から19世紀前半と考えられる。

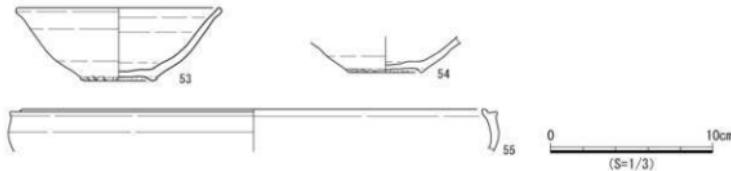


図41 SD9出土遺物実測図

#### SD10(図42)

**検出状況** AE11～AF12グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土とあまり差が無く、平面形は不明瞭であった。南端は、倒木痕5付近で消失し、北端は発掘区外に延びる。当遺構の倒木痕5を挟んだ南側の延長にはSD11が位置し、一連の遺構の可能性がある。

**規模・形状** 幅0.7m、長さ5.4m以上、深さ0.08mである。平面形は直線的に延びる形状で、断面形は半円形である。溝底面の標高は、南端で201.09m、北端で200.86mと南から北に向かって傾斜する。

**埋土** 2層に分層した。堆積状況は、ほぼ水平堆積である。

**遺物出土状況** a層から山茶碗1点、中近世陶器1点、c層から山茶碗6点が散在して出土した。

**遺物** 56は1層から出土し、明和1号窯式に比定した東濃型山茶碗の小皿である。

**時期** 56から、本遺構は13世紀中葉と考えられるが、SD11と一連の遺構とした場合、14世紀末～15世紀中葉まで存続した可能性がある。

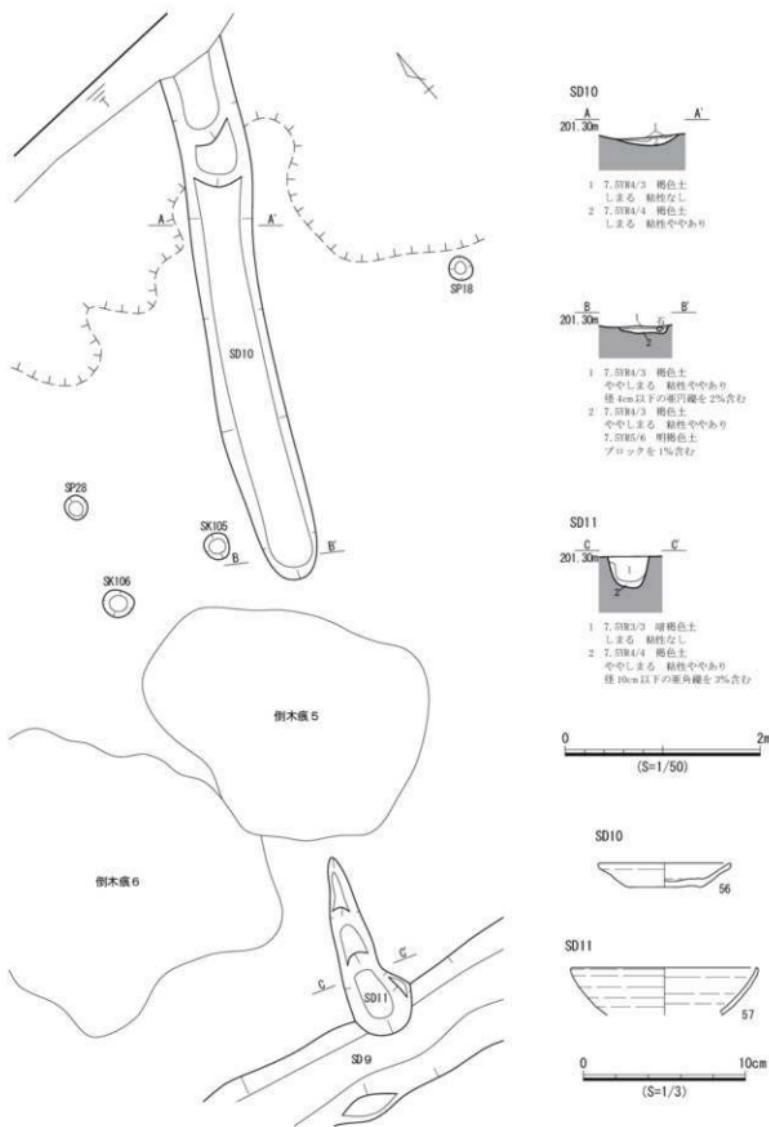


図42 SD10・SD11遺構図・出土物実測図

## SD11(図42)

**検出状況** AG11グリッドで検出した。遺構埋土の色調が基盤土と明確に異なり、平面形は明瞭であった。北端は倒木痕5付近で消失し、南端はSD9と重複する。本遺構はSD9より古い。また、倒木痕5を挟んだ北側では本遺構の延長部分にSD10が位置する。

**規模・形状** 幅0.4m、長さ1.9m、深さ0.31mで、平面形は南から北に向かって収束しつつ延びる形状で、断面形は半円形である。溝底面の標高は、南端で200.90m、北端で201.18mと北から南に向かって傾斜する。本遺構はSD9の南では延長を確認できないことから、SD9に接続しており、SD9よりも先に埋没したと考えられる。SD10と埋土は共通するが、本遺構が北から南に向かって傾斜するのに対し、SD10は南から北に向かって傾斜する。

**埋土** 2層に分層した。堆積状況は、1層が東壁に偏る堆積である。埋土は、2層に礫をわずかに含む。

**遺物出土状況** a層～c層から山茶碗1点が出土した。

**遺物** 57は大洞東1号窯式～脇之島3号窯式に比定した東濃型山茶碗の小皿である。

**時期** 57から、本遺構は14世紀末～15世紀中葉と考えられるが、SD10との位置関係から、13世紀中葉に遡る可能性がある。

## 5 表土・倒木痕出土遺物(図43)

58は倒木痕1から出土した土師器平底甕の底部である。胎土は砂粒を多く含み、調整は外外面に指頭圧痕が認められる。59はAE12グリッドのI層から出土し、明和1号窯式に比定した東濃型山茶碗の小皿である。60はAG19グリッドのI層から出土した砂岩製の荒砥である。3面を砥面として使用し、1面に連続する敲打痕が認められる。

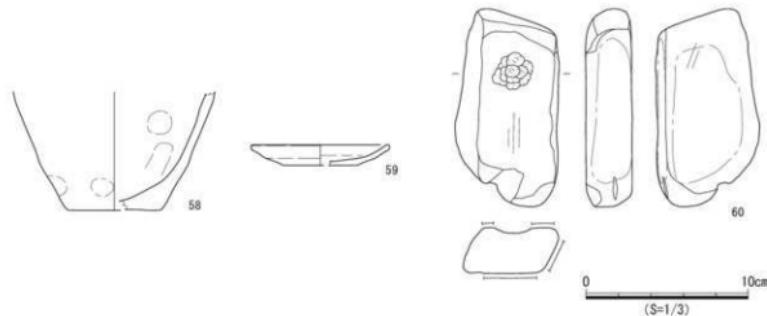


図43 表土・倒木痕出土遺物実測図

## 注

- 1) 中世前期と中世後期の区分については、内堀信雄他 2002「美濃地域における中世集落の様相」の区分に依拠し、山茶碗の編年に基づいて尾張型第7型式に併行する明和1号窯式までを中世前期、第8型式に併行する大畑大洞4号窯古段階以降を中世後期とした。
- 2) 赤塚次郎1996「濃尾平野低地部における古墳時代の甕」『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム  
内堀信雄、井川祥子1996「美濃における古代土器煮炊具の様相」『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム  
愛知県史編さん委員会2015「第2節 古墳時代の須恵器生産」『愛知県史 別編 窯業1 古代 猿投系』、愛知県各務原市教育委員会1984『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』(各務原市資料調査報告書第4号)  
斎藤孝正1995「猿投、美濃、美濃須衛窯編年と他窯編年対比表」『須恵器集成図録 第3巻 東日本I』、雄山閣  
渡邊博人2008「美濃須衛窯について」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会2008年度愛知大会実行委員会  
愛知県史編さん委員会2015「第4節 平安時代の瓷器生産」『愛知県史 別編 窯業1 古代 猿投系』、愛知県  
愛知県史編さん委員会2007「第2節 灰釉陶器から山茶碗生産～」『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 潟戸系』、愛知県  
愛知県史編さん委員会2007「第3節 古瀟戸生産の成立と展開」『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 潟戸系』、愛知県  
愛知県史編さん委員会2007「第5節 尾張藩政下の瀟戸窯業」『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 潟戸系』、愛知県
- 3) 鈴木道之助1991『図録・石器入門事典(範文)』、柏書房
- 4) 宇野隆夫1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集、国立歴史民俗博物館
- 5) 財団法人岐阜県文化財保護センター1998『牧野小山遺跡 C地点』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第39集)：158頁
- 6) 金子健一1996「尾張・三河地方のホウロク」『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム

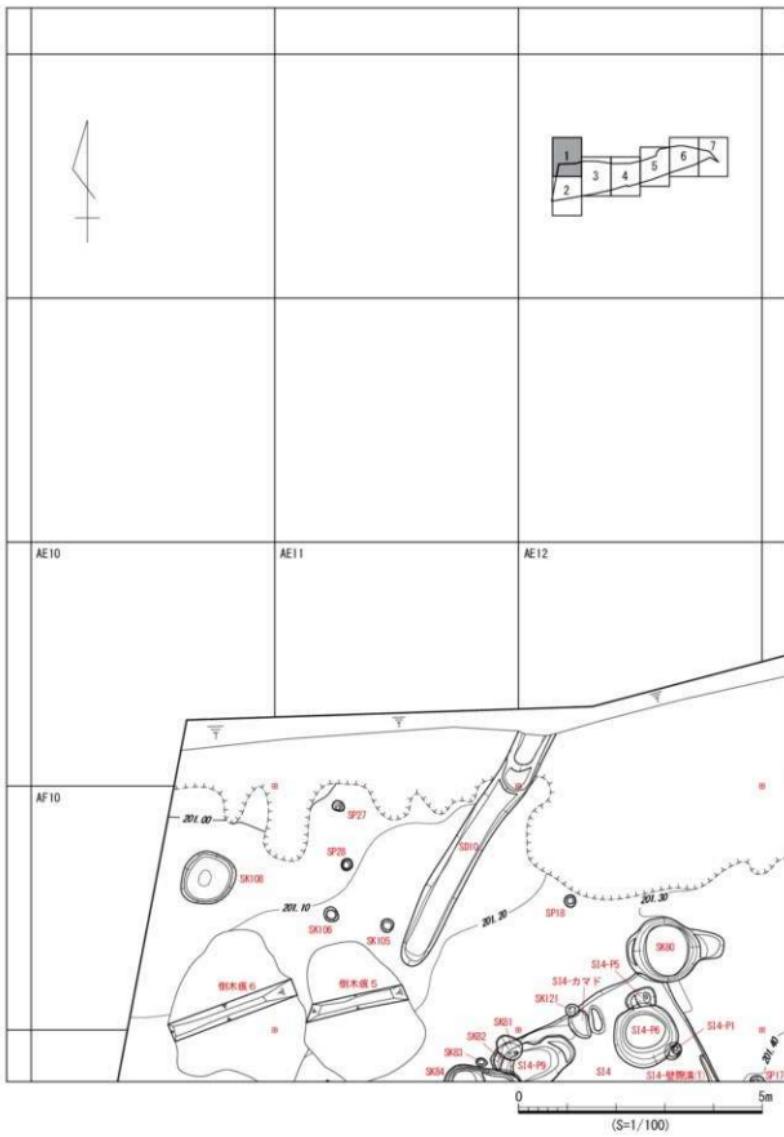


図44 発掘区全域図 分割図1

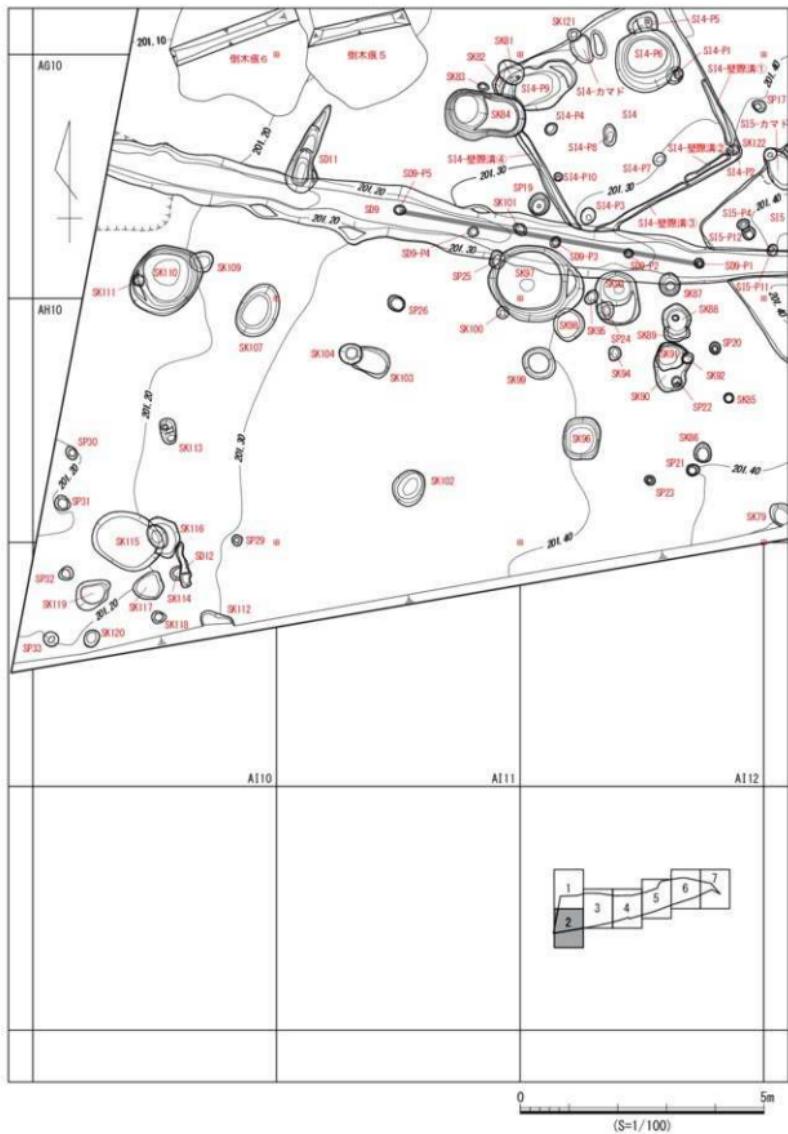


図45 発掘区全城図 分割図 2

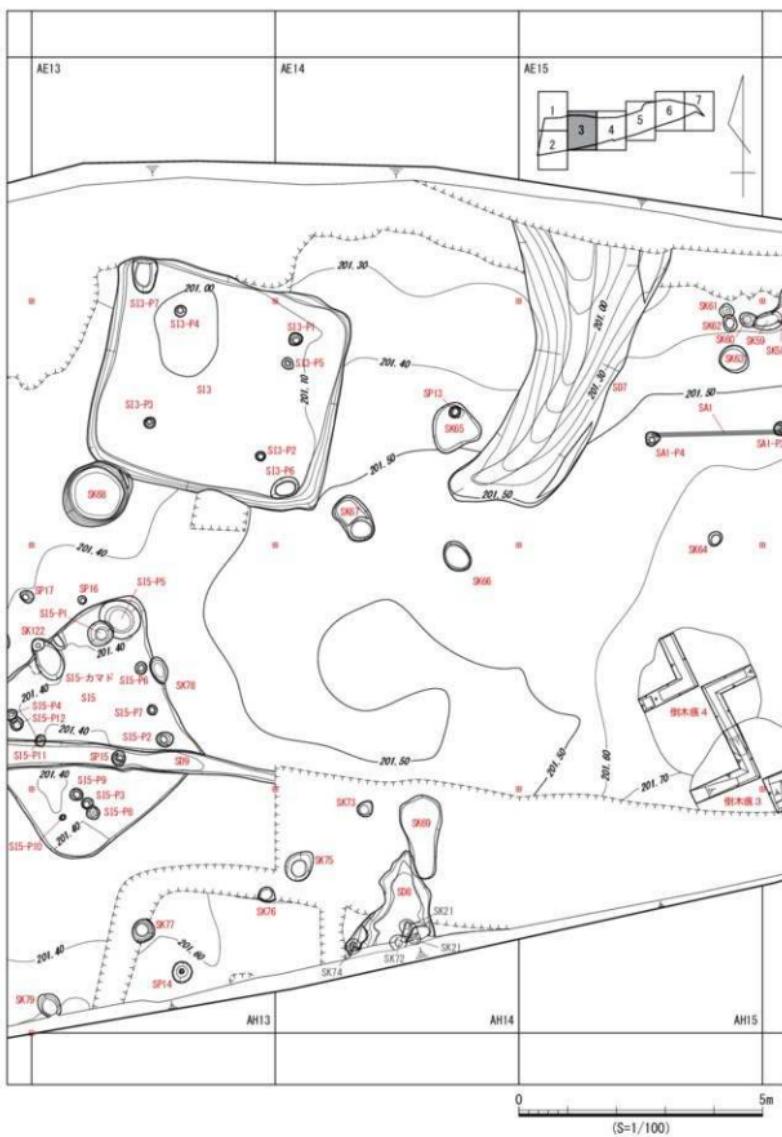


図46 発掘区全域図 分割図3

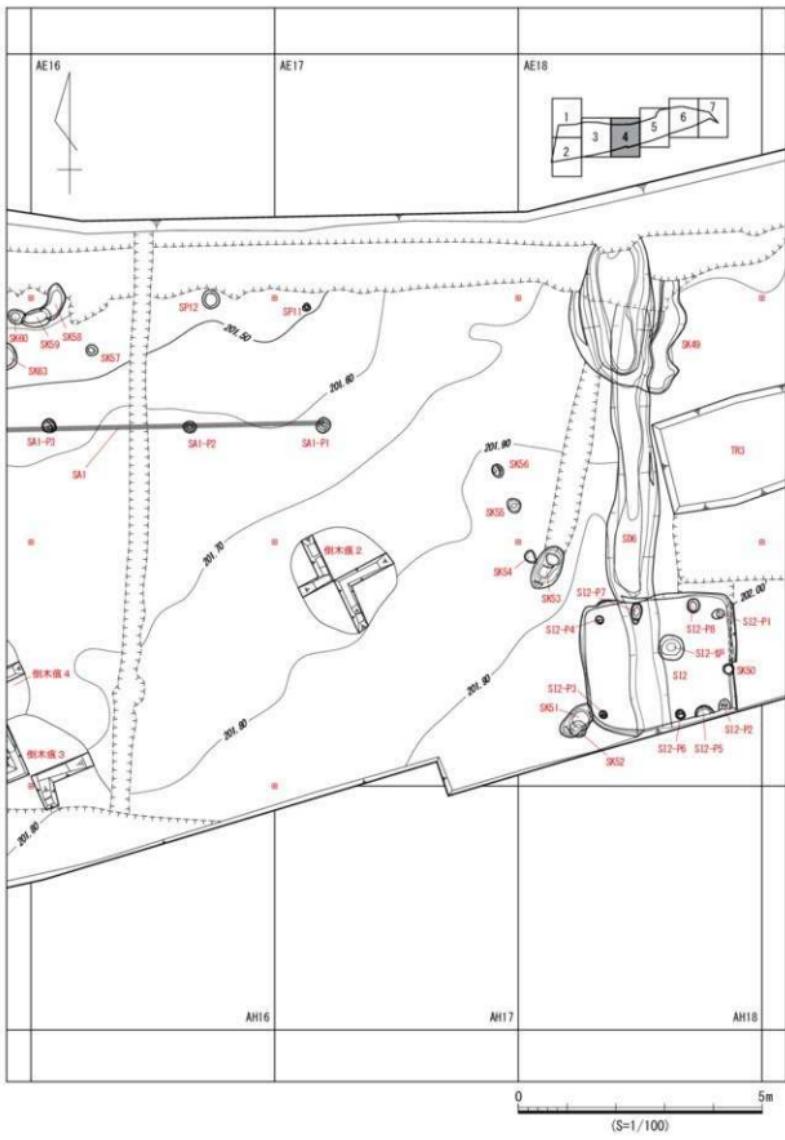


図47 発掘区全域図 分割図4



図48 発掘区全域図 分割図5



図49 発掘区全図 分割図 6

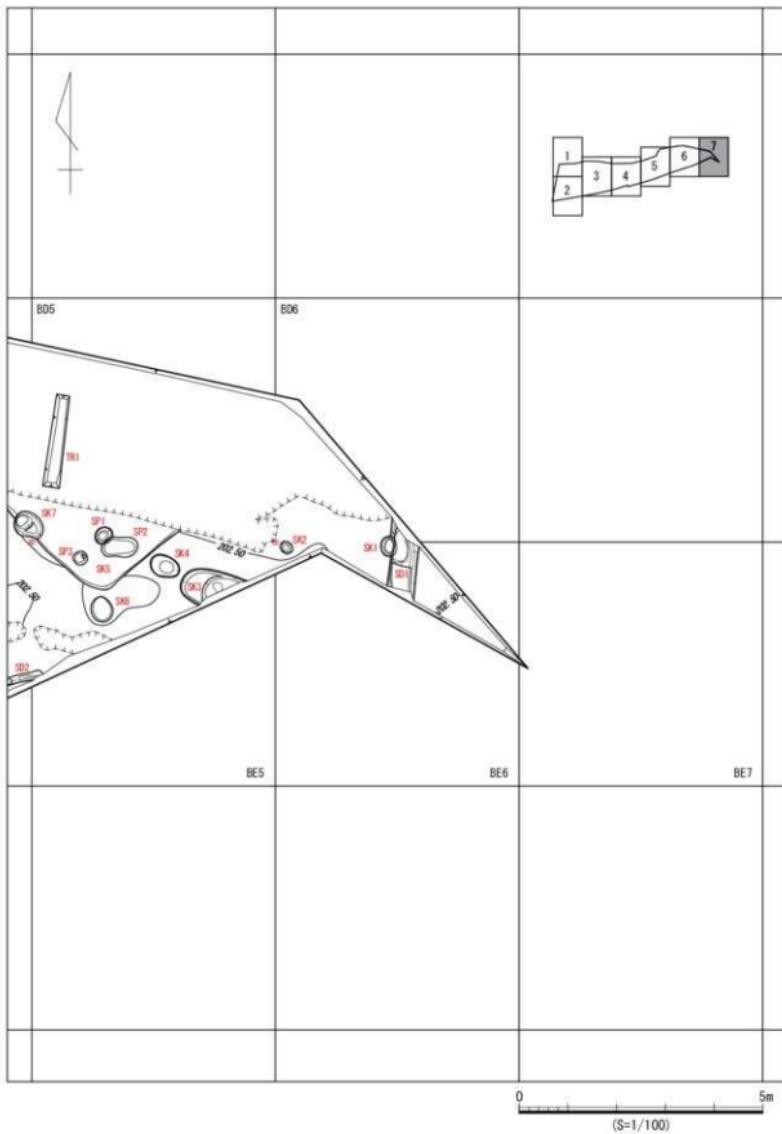


図50 発掘区全域図 分割図 7

表6 壇穴建物一覧表

遺構番号	調査番号	地区割り				規模(m)						重複関係			出土遺物	種別	図版				
		大ダグラス	小ダグラス	小葉(モミ)	小葉(モミ)	断面形状		平面形状		底面形状	上端	下端	長軸長	短軸長	幅軸長	深さ	新	旧			
						横積状況	直積状況	横積状況	直積状況												
S11	S040	B	E-F	3	b	-	z	2	(2.14)	(1.70)	(2.69)	(1.52)	0.11					9	2		
S12	S107	A	G	18	b	-	z	2	3.16	(2.75)	2.94	2.60	0.16	SK56, SD6	SK51	H12, S4, C2	19 ~ 12	2	3		
S13	S222	A	E-F	13	e	-	z	2	4.94	4.48	4.50	4.02	0.49	SK67, SK68		SD60, P2, S4, C3	13 ~ 17	4	5		
S14	S248	A	F-G	11-12	e	-	z	2	3.96	3.82	3.90	3.70	0.10	SK66, SK84, SK121, SD9	SK81, SK82	HA, TA, S1	18 ~ 19	5	6		
S15	S250	A	G-H	12-13	b	-	z	2	4.00	3.85	3.94	3.70	0.07	SK78, SK122, SD9	SP15	H16, Y1, S1	20 ~ 21	7			

表7 壇穴建物付属遺構一覧表(1)

遺構番号	調査番号	地区割り				規模(m)						重複関係			出土遺物	種別	図版				
		大ダグラス	小ダグラス	小葉(モミ)	小葉(モミ)	断面形状		平面形状		底面形状	上端	下端	長軸長	短軸長	幅軸長	深さ	新	旧			
						横積状況	直積状況	横積状況	直積状況												
S1-1-堆積遺(1)	S074①	B	E-F	3	a	I	-	-	(0.60)	0.15	(0.53)	0.63	0.04					9			
S1-1-堆積遺(2)	S074②	B	E-F	3	a	I	-	-	(0.92)	0.15	(0.86)	0.66	0.05					9			
S12-P1	S286	A	G	18	a	III	I	I	0.26	0.19	0.14	0.05	0.06					11			
S12-P2	S195	A	G	18	a	VI	I	I	0.24	(0.21)	0.12	0.06	0.08					11			
S12-P3	S198	A	G	18	f	VI	I	I	0.18	0.16	0.05	0.04	0.14					11			
S12-P4	S226	A	G	18	f	I	I	I	0.18	0.17	0.06	0.06	0.18					11			
S12-P5	S196	A	G	18	a	I	I	I	0.49	(0.20)	0.27	0.12	0.16					11			
S12-P6	S197	A	G	18	f	VI	I	I	0.21	0.29	0.10	0.07	0.25					11			
S12-P7	S199	A	G	18	a	I	I	I	0.46	0.23	0.17	0.11	0.10					11			
S12-P8	S209	A	G	18	b	IV	I	I	0.30	0.27	0.19	0.13	0.07					11			
S12-P9	S234	A	G	18	b	IV	I	I	0.52	0.51	0.37	0.22	0.07	SD6			11	3			
S13-P1	S274	A	F	14	a	I	I	I	0.27	0.26	0.12	0.11	0.35					14			
S13-P2	S276	A	F	13	a	I	I	I	0.23	0.19	0.11	0.11	0.30					14			
S13-P3	S278	A	F	13	a	I	I	I	0.23	0.23	0.11	0.08	0.33					14			
S13-P4	S279	A	F	13	a	I	I	I	0.23	0.23	0.10	0.10	0.25					14			
S13-P5	S275	A	F	14	a	IV	I	I	0.26	0.22	0.16	0.13	0.06					14			
S13-P6	S277	A	F	13-14	a	I	I	I	0.56	0.41	0.41	0.26	0.12					H14, S1	14		
S13-P7	S284	A	E	13	b	I	I	I	(0.60)	0.53	(0.46)	0.30	0.18					14			
S14-P1	S259	A	G	12	a	VI	I	I	0.38	0.32	0.07	0.07	0.26					S14-P6	P1	18	
S14-P2	S257	A	G	12	c	VI	I	I	0.27	0.20	0.08	0.08	0.05							18	
S14-P3	S256	A	G	12	a	I	I	I	0.35	0.30	0.12	0.10	0.08							18	
S14-P4	S253	A	G	12	b	I	I	I	0.29	0.23	0.18	0.13	0.11							18	
S14-P5	S282	A	F	12	c	VI	2	2	0.64	(0.39)	0.29	0.13	0.23	S14-P6		SD1, P1	18	6			
S14-P6	S269	A	F-G	12	c	IV	I	I	1.33	1.31	0.96	0.85	0.30	S14-P1	S14-P5			18			
S14-P7	S258	A	G	12	a	I	I	I	0.27	0.25	0.17	0.11	0.10							18	
S14-P8	S256	A	G	12	a	I	I	I	0.46	0.25	0.35	0.15	0.07							18	
S14-P9	S252	A	G	11-12	a	IV	2	3	1.55	0.95	1.09	0.63	0.12	SK84		SK81, SK82		18			
S14-P10	S254	A	G	12	a	I	I	I	0.18	0.18	0.07	0.07	0.26							18	
S14-カツラ	S247	A	F-G	12	b	VI	3	3	0.77	0.41	0.49	0.28	0.11	SK121				19	6		

表8 壁穴建物付属造構一覧表(2)

造構番号	調査番号	地区割り				断面形状	平面形状	底面形状	規模(m)			重複関係		出土遺物	種別	国策					
		大ダグラス	小ダグラス	小ダグラス	小ダグラス				上端		下端		深さ	新	旧						
									長軸長	短軸長	長軸長	短軸長									
S14-壁脚構①	S2624	A	G	11-12	a	I	-	-	1.46	0.20	1.35	0.09	0.05				18				
S14-壁脚構②	S2625	A	G	11-12	a	I	-	-	1.05	0.12	0.95	0.07	0.05				18				
S14-壁脚構③	S2626	A	G	11-12	a	I	-	-	(2.06)	0.12	(2.01)	0.10	0.05	SD9			18 6				
S14-壁脚構④	S2627	A	G	11-12	a	I	-	-	(2.26)	0.23	(2.26)	0.09	0.07	SK81, SD9	SK81, SK82	H1	18 6				
S15-P1	S273	A	G	13	c	IV	I	I	0.35	0.32	0.15	0.12	0.25				21				
S15-P2	S267	A	H	13	a	I	I	I	0.25	0.22	0.12	0.12	0.29				21				
S15-P3	S263	A	G	12	b	I	I	I	0.27	0.22	0.10	0.08	0.28				21				
S15-P4	S269	A	G	13	b	I	I	I	0.55	0.49	0.22	0.21	0.24				21				
S15-P5	S270	A	G	13	d	IV	I	I	0.85	(0.66)	0.66	(0.53)	0.12	S15-P4			21				
S15-P6	S271	A	G	13	b	I	I	I	0.25	0.24	0.13	0.11	0.22				21				
S15-P7	S272	A	G	13	a	I	I	I	0.22	0.21	0.12	0.09	0.19				21				
S15-P8	S280	A	H	13	e	I	I	I	0.28	(0.20)	0.16	0.15	0.18	S15-P2			21				
S15-P9	S266	A	H	13	b	I	I	I	0.27	0.26	0.13	0.11	0.26				21				
S15-P10	S268	A	G	13	a	I	I	I	0.15	0.06	0.08	0.06	0.18				21				
S15-P11	S265	A	G	13	a	I	I	I	0.25	0.21	0.11	0.10	0.21				21				
S15-P12	S264	A	G	12	d	I	I	I	(0.26)	0.26	0.14	0.14	0.26	S15-P3			21				
S15カマツ	S251	A	G	12-13	e	V1	3	3	0.94	0.54	0.10	0.09	0.11	SK122		H1	21				

表9 据立柱建物一覧表

造構番号	調査番号	地区割り				柱間	規模(m)			長軸方位	重複関係		出土遺物	種別	国策						
		大ダグラス	小ダグラス	小ダグラス	小ダグラス		桁行		梁行												
							桁行	梁行	桁行	梁行											
SB1		B	E-F	I	1間×1間		L.58~1.61		L.41~1.51		N.72°-E	SP8, SK41	SP9		22 8						
SB2		B	E-F	2-3	2間×1間以上		4.42		2.14以上		N.36°-W		SK13		25 9						

表10 据立柱建物付属造構一覧表

造構番号	調査番号	地区割り				柱間	規模(m)			長軸方位	重複関係		出土遺物	種別	国策						
		大ダグラス	小ダグラス	小ダグラス	小ダグラス		上端		下端												
							長軸長	短軸長	長軸長	短軸長											
SB1-P1	S077	B	F	I	a	IV	1	1	0.45	0.44	0.15	0.08	0.28			H1	22 8				
SB1-P2	S076	B	E-F	I	a	IV	1	1	0.42	(0.26)	0.25	(0.14)	0.22	SP8			22 8				
SB1-P3	S081	B	F	I	a	II	1	1	0.42	(0.31)	0.23	0.19	0.39	SK41	SP9	H1	22 8				
SB1-P4	S079	B	F	I	a	I	1	1	0.46	0.39	0.23	0.23	0.36				22 8				
SB2-P1	S041	B	E	3	a	IV	2	2	0.33	(0.21)	0.25	0.18	0.02	SK13			25 9				
SB2-P2	S055	B	E	2-3	c	II	1	1	0.44	0.32	0.38	0.24	0.01				25 9				
SB2-P3	S062	B	E	2	a	VI	1	1	0.38	0.26	0.06	0.06	0.06				25				
SB2-P4	S063	B	E-F	2	a	VI	1	1	0.45	0.36	0.10	0.08	0.06				25 9				
SB2-P5	S066	B	F	2	e	IV	1	1	0.30	0.21	0.16	0.13					25 9				

表11 棚一覧表

遺構番号	調査番号	地区割り	柱間	幅模(m)	長軸方位	垂轍關係		出土遺物	種別	図版
						新	旧			
SA1	A F	15-17	3間	8.26	N-89°-E					26 10

表12 棚付属遺構一覧表

遺構番号	調査番号	地区割り	柱間	幅模(m)				垂轍關係		出土遺物	種別	図版			
				上端		下端		深さ	新						
				長軸長	短軸長	長軸長	短軸長								
SA1-P1	S121	A F	17	f	III	I	I	0.30	0.30	0.08	0.08	0.33			
SA1-P2	S127	A F	16	d	IV	I	I	0.26	0.24	0.10	0.08	0.25			
SA1-P3	S128	A F	16	f	I	I	I	0.30	0.29	0.08	0.06	0.31			
SA1-P4	S139	A F	15	f	I	I	I	0.23	0.28	0.11	0.10	0.30			

表13 柱穴状遺構一覧表(1)

遺構番号	調査番号	地区割り	幅模(m)				垂轍關係		出土遺物	種別	図版			
			上端		下端		深さ	新						
			長軸長	短軸長	長軸長	短軸長								
SP1	S006	B D-E	5	e	I	I	I	0.38	0.36	0.24	0.20	0.12		
SP2	S006	B D-E	5	a	IV	2	2	0.74	0.49	0.62	0.27	0.06 SK5		
SP3	S097	B E	5	a	VI	I	I	0.28	0.28	0.19	0.04	0.06 SK5		
SP4	S029	B D-E	4	f	I	I	I	0.30	0.29	0.13	0.08	0.08		
SP5	S029	B E	3	f	I	I	I	0.25	0.23	0.07	0.06	0.15		
SP6	S042	B E	3	f	III	I	I	0.29	0.22	0.09	0.08	0.07 SK13		
SP7	S068	B E	1	f	VI	I	I	0.59	0.41	0.22	0.07	0.21		
SP8	S075	B E	1	a	III	I	I	0.36	0.28	0.14	0.11	0.28 SB1-P2		
SP9	S102	B F	1	a	III	2	2	0.34	0.20	0.17	0.05	0.29 SB1-P3		
SP10	S078	B F	1	b	I	I	I	0.49	0.35	0.11	0.11	0.22		
SP11	S125	A F	17	c	III	I	I	0.36	0.16	0.08	0.07	0.31		
SP12	S126	A F-F	16	f	II	I	I	0.38	0.36	0.28	0.25	0.09		
SP13	S151	A F	14	f	II	I	I	0.23	0.22	0.16	0.13	0.34 SK65		
SP14	S155	A H	13	f	VI	I	I	0.44	0.40	0.04	0.04	0.19 Y1		
SP15	S220	A G	13	a	VI	I	I	0.31	0.29	0.14	0.10	0.18 S15		
SP16	S192	A G	13	a	II	I	I	0.18	0.17	0.10	0.09	0.12		
SP17	S191	A G	12-13	a	I	I	I	0.39	0.24	0.13	0.10	0.27		
SP18	S229	A F	12	f	I	I	I	0.25	0.25	0.13	0.12	0.23		
SP19	S201	A G	12	f	I	I	I	0.45	0.43	0.28	0.25	0.38		
SP20	S159	A H	12	a	II	I	I	0.26	0.23	0.14	0.11	0.37		
SP21	S164	A H	12	f	I	I	I	0.28	0.26	0.16	0.14	0.38		
SP22	S211	A H	12	f	VI	I	I	0.23	0.22	0.04	0.04	0.07 SK96		
SP23	S166	A H	12	f	I	I	I	0.23	0.20	0.11	0.10	0.32		
SP24	S281	A H	12	f	I	I	I	0.36	0.35	0.23	0.18	0.31 SK93		
SP25	S296	A G	11	f	I	I	I	0.38	0.30	0.22	0.16	0.37 SK97		
SP26	S296	A G-H	11	a	II	I	I	0.37	0.31	0.25	0.21	0.27		

表14 柱穴状遺構一覧表(2)

遺構番号	調査番号	地区割り				規格(m)				重複関係				出土遺物	種別	医歴			
		大 ダ ラ リ ア ン ド	小 ダ ラ リ ア ン ド	堆 積 状 況	断 面 形 状	上端		下端		長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SP27	S215	A	F	11	b	I	I	0.25	0.21	0.14	0.08	0.21							
SP28	S214	A	F	11	c	II	I	0.25	0.23	0.15	0.14	0.19							
SP29	S188	A	H-I	10	f	I	I	0.24	0.23	0.19	0.09	0.20							
SP30	S173	A	H	10	c	I	I	0.29	0.22	0.15	0.13	0.16							
SP31	S174	A	H	10	e	II	I	0.33	0.29	0.20	0.19	0.18							
SP32	S175	A	I	10	a	I	I	0.31	0.28	0.20	0.16	0.10							
SP33	S179	A	I	10	a	III	I	0.32	0.30	0.17	0.11	0.12							

表15 土坑一覧表(1)

遺構番号	調査番号	地区割り				規格(m)				重複関係				出土遺物	種別	医歴			
		大 ダ ラ リ ア ン ド	小 ダ ラ リ ア ン ド	堆 積 状 況	断 面 形 状	上端		下端		長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SK1	S001	B	D-E	6	b	IV	I	I	0.41	0.33	0.27	0.18	0.23		SD1				
SK2	S003	B	D-E	6	b	II	I	I	0.28	0.23	0.21	0.16	0.09						
SK3	S004	B	E	5	b	I	I	(1.28)	0.37	(0.38)	0.34	0.67							
SK4	S005	B	E	5	b	I	I	0.64	0.45	0.29	0.24	0.11							
SK5	S012	B	D-E	4-5	a	II	2	2	2.91	(1.90)	2.89	(1.76)	0.65	SP1	SP2, SP3, SK7				
SK6	S007	B	E	5	b	IV	I	I	0.53	0.45	0.48	0.37	0.04						
SK7	S163	B	D	3-4	a	I	I	I	0.65	0.52	0.25	0.19	0.23	SK5					
SK8	S021	B	E	4	a	IV	I	I	0.44	0.41	0.30	0.23	0.20						
SK9	S022	B	E	4	b	IV	I	I	1.09	0.52	0.84	0.38	0.09						
SK10	S023	B	E	4	a	IV	I	I	0.73	0.68	0.63	0.55	0.04						
SK11	S026	B	E	3	c	II	I	I	0.30	0.24	0.20	0.14	0.30						
SK12	S038	B	E	3	a	II	2	1	1.17	0.95	1.07	0.82	0.19			Y1, S1	27 16		
SK13	S044	B	E	3	b	IV	I	I	0.51	0.39	0.23	0.16	0.09	SR2-P1, SP6	H7, C1				
SK14	S072	B	F	3	a	I	I	I	0.24	0.33	0.14	0.11	0.17						
SK15	S043	B	E	2-3	a	I	I	I	0.22	0.20	0.11	0.09	0.07						
SK16	S045	B	E	2	a	I	I	I	0.26	0.24	0.15	0.11	0.03						
SK17	S054	B	E	2	e	IV	I	I	0.34	0.32	0.21	0.19	0.06						
SK18	S047	B	E	2	a	I	I	I	0.23	(0.22)	0.12	0.11	0.01	SK19					
SK19	S046	B	E	2	c	I	I	I	0.28	0.26	0.17	0.15	0.05						
SK20	S071	B	F	2	a	I	I	I	0.32	0.23	0.11	0.10	0.04						
SK21	S070	B	F	2	a	IV	I	I	0.30	0.24	0.20	0.16	0.04						
SK22	S049	B	E	2	a	IV	I	I	0.42	0.20	0.36	0.13	0.04						
SK23	S048	B	E	2	a	IV	I	I	0.18	0.18	0.17	0.15	0.03						
SK24	S069	B	F	2	a	IV	I	I	0.42	0.41	0.26	0.22	0.27						
SK25	S059	B	E	2	a	VI	I	I	0.47	0.31	0.18	0.05	0.05						
SK26	S066	B	E-F	2	a	I	I	I	0.22	0.22	0.67	0.67	0.01						
SK27	S067	B	F	2	e	I	I	I	0.35	0.25	0.10	0.10	0.15						
SK28	S065	B	E-F	2	a	II	I	I	0.43	0.35	0.35	0.25	0.02						
SK29	S064	B	E-F	2	a	II	I	I	0.36	0.34	0.33	0.26	0.03						
SK30	S053	B	E	2	d	VI	I	I	0.90	0.82	0.45	0.25	0.23						

表16 土坑一覧表(2)

遺構番号	調査番号	地区割り		堆積状況	断面形状	底面形状	幅員(m)				重複関係			出土遺物	種別					
		大(アリヤマツ)	小(アリヤマツ)				上端		下端		開口	新	既							
							長軸長	短軸長	長軸長	短軸長										
SK31	S061	B	E	2	a	I	1	1	0.18	0.18	0.10	0.08	0.04		SK32					
SK32	S057	B	E	2	a	IV	1	1	0.88	0.68	0.50	0.42	0.05	SK31						
SK33	S051	B	E	2	c	IV	1	1	0.39	0.34	0.24	0.17	0.09		III					
SK34	S087	B	E	1	d	VI	1	1	0.34	0.34	0.13	0.06	0.12							
SK35	S089	B	E	1	b	IV	1	1	0.62	0.52	0.40	0.32	0.11							
SK36	S091	B	E	1	a	VI	1	1	0.24	0.24	0.11	0.10	0.13							
SK37	S091	B	E	1	b	VI	1	1	0.54	(0.40)	0.25	(0.10)	0.23	SK38						
SK38	S090	B	E	1	n	IV	1	1	0.83	0.77	0.60	0.58	0.19		SK37, SK39					
SK39	S092	B	E	1	c	VI	2	1	1.50	0.95	0.47	0.47	0.24	SK38						
SK40	S093	B	E	1	b	III	1	1	0.28	0.27	0.12	0.10	0.09							
SK41	S080	B	F	1	b	I	1	1	0.39	0.34	0.11	0.09	0.06		SB1-P3					
SK42	S082	B	F	1	a	IV	1	1	0.61	0.61	0.41	0.41	0.04		SD3					
SK43	S134	A-E	F	20-1	b	IV	3	3	(3.00)	(1.80)	(2.80)	(1.60)	0.12	SK46, SD5	III					
SK44	S083	B	F	1	c	IV	1	1	0.52	0.46	0.33	0.28	0.22		SD4					
SK45	S098	A	F-F	20	c	IV	1	1	0.38	0.30	0.18	0.14	0.25							
SK46	S114	A-E	F-G	20-1	e	II	2	3	(1.49)	1.20	(1.10)	1.04	0.10	SK47	SD5, SK43					
SK47	S113	A	F-G	20	b	III	1	1	0.41	0.28	0.30	0.16	0.06		SK46					
SK48	S122	A	G	19	a	VI	2	3	0.58	(0.28)	(0.08)	0.05	0.26							
SK49	S112	A	E-F	18	d	I	3	5	(3.02)	2.40	(2.54)	0.63	0.49	SD6	III, Y1					
SK50	S123	A	G	18	a	II	1	1	0.24	0.23	0.17	0.16	0.19		SI2					
SK51	S111	A	G	18	d	I	1	1	(0.06)	0.46	0.34	0.30	0.17		SK12, SK52					
SK52	S168	A	G	18	n	I	1	1	0.31	0.32	0.22	0.20	0.07		SK51					
SK53	S116	A	G	18	a	IV	2	1	0.97	0.55	0.26	0.29	0.31		TI, DI, SI					
SK54	S117	A	G	18	a	II	1	1	0.26	0.22	0.20	0.19	0.05							
SK55	S118	A	F	17-18	b	I	1	1	0.30	0.27	0.11	0.09	0.12							
SK56	S119	A	F	17	n	VI	1	1	0.27	0.23	0.10	0.06	0.10							
SK57	S129	A	F	16	b	I	1	1	0.25	0.23	0.15	0.12	0.09							
SK58	S131	A	F	15-16	b	II	2	3	(0.70)	0.35	(0.60)	0.22	0.16	SK59						
SK59	S130	A	F	15-16	b	I	1	1	(0.62)	0.37	(0.52)	0.20	0.13	SK60	SK58					
SK60	S144	A	F	15	c	I	1	1	0.36	0.30	0.17	0.16	0.17		SK59					
SK61	S142	A	F	15	n	I	1	1	0.30	0.28	0.18	0.17	0.11		SK62					
SK62	S143	A	F	15	e	II	2	2	(0.34)	0.27	0.23	0.20	0.10	SK61						
SK63	S141	A	F	15	e	II	1	1	0.59	0.58	0.50	0.44	0.67							
SK64	S139	A	F-G	15	d	II	1	1	0.32	0.27	0.20	0.16	0.09							
SK65	S166	A	F	14	e	II	2	3	1.04	1.00	0.94	0.90	0.09	SP13						
SK66	S148	A	F-G	14	b	II	1	1	0.59	0.57	0.52	0.48	0.07							
SK67	S159	A	F	14	d	VI	2	2	1.09	0.63	0.38	0.37	0.20		SI3					
SK68	S221	A	F	13	e	II	1	1	1.50	1.28	1.09	1.08	0.53		SI3, SI					
SK69	S194	A	H	14	e	IV	2	3	1.72	0.75	1.66	0.67	0.05		SD8					
SK70	S168	A	H	14	d	VI	1	1	0.42	0.32	0.17	0.11	0.25		SD8					
SK71	S169	A	H	14	c	II	1	1	0.24	(0.21)	(0.17)	0.14	0.13	SD8						
SK72	S170	A	H	14	d	IV	1	1	0.35	(0.29)	0.14	0.14	0.34	SD8						
SK73	S193	A	H	14	c	I	1	1	0.31	0.28	0.19	0.18	0.13							

表17 土坑一覧表(3)

遺構番号	調査番号	地区割り		規模(m)						重複関係		出土遺物	種別	回数				
				断面形状		平面形状	底面形状	上端		下端								
		大(アリヤダ)	小(スモリヤ)	横積状況	長軸長			長軸長	短軸長	長軸長	短軸長							
SK74	S152	A	H	14	a	V1	I	1	0.30	0.28	0.14	0.07	0.12	SD8				
SK75	S158	A	H	14	e	I	I	1	0.55	0.54	0.34	0.28	0.23					
SK76	S157	A	H	13	d	IV	I	1	0.39	(0.31)	0.24	0.23	0.27		Y1			
SK77	S156	A	H	13	a	I	I	1	0.50	0.46	0.25	0.25	0.37					
SK78	S249	A	G	13	e	II	I	1	0.57	0.35	0.45	0.27	0.09	SI5				
SK79	S165	A	H	13	e	II	I	1	0.48	0.44	(0.35)	0.29	0.21		Y1			
SK80	S223	A	F	12	e	I	3	3	2.03	1.34	1.06	0.90	0.36	SI4				
SK81	S283	A	G	11-12	c	I	I	1	(0.58)	0.56	0.23	0.10	0.25	SI4, SI4-P9, SI4-要跡調(1)	SK82			
SK82	S285	A	G	11	d	IV	3	3	0.46	(0.32)	(0.36)	0.21	0.16	SI4, SI4-P9, SI4-要跡調(4), SK81, SK84				
SK83	S263	A	G	11	d	II	I	1	0.22	0.16	0.14	0.09	0.08	SK84				
SK84	S202	A	G	11-12	e	VII	I	1	1.66	0.95	0.56	0.19	0.55	SI4, SI4-P9, SI4-要跡調(4), SK82, SK83	Y1, SI	30	11	
SK85	S162	A	H	12	a	H	I	1	0.21	0.21	0.14	0.14	0.30					
SK86	S163	A	H	12	e	IV	I	1	0.42	0.35	0.27	0.23	0.23					
SK87	S229	A	G	12	e	III	I	1	0.47	0.43	0.18	0.16	0.42	SB9				
SK88	S166	A	H	12	c	VI	I	1	0.65	0.60	0.10	0.08	0.28	SK89	Y1			
SK89	S224	A	H	12	e	I	3	3	0.54	(0.34)	0.38	(0.28)	0.19	SK88				
SK90	S182	A	H	12	a	IV	3	3	1.02	0.77	0.89	0.62	0.13	SK92	SP22, SK91	Y2, SI	31	11
SK91	S216	A	H	12	a	I	3	3	0.58	0.55	0.41	0.37	0.09	SK96, SK92				
SK92	S161	A	H	12	b	H	I	1	0.24	0.22	0.18	0.14	0.17	SK96, SK91				
SK93	S212	A	G-H	12	e	VII	2	2	(1.12)	0.88	0.54	0.52	0.25	SB9, SK95	SP24		31	11
SK94	S231	A	H	12	e	I	I	1	0.29	0.25	0.19	0.13	0.05					
SK95	S230	A	G-H	12	e	I	I	1	0.33	0.24	0.19	0.15	0.11		SK93			
SK96	S167	A	H	12	e	H	3	3	0.87	0.76	0.64	0.61	0.24		Y6, T1	32	11	
SK97	S245	A	G-H	11-12	c	IV	I	1	1.99	1.57	1.32	1.16	0.58	SP25, SD9, SK98, SK100	HI, PI, Y17, S2	33	11	
SK98	S244	A	H	12	e	IV	I	1	0.65	0.62	0.59	0.50	0.05		SK97			
SK99	S222	A	H	12	e	I	I	1	0.66	0.61	0.49	0.46	0.26		Y2	23	11	
SK100	S243	A	H	11	c	I	I	1	0.25	0.24	0.12	0.12	0.07		SK97			
SK101	S239	A	G	11-12	a	IV	I	1	0.31	0.24	0.19	0.15	0.05	SD9				
SK102	S171	A	H	11	e	VII	I	1	0.75	0.65	0.56	0.45	0.20		Y3, SI	34	12	
SK103	S199	A	H	11	a	I	2	2	(0.62)	0.57	(0.56)	0.43	0.10	SK104	Y1			
SK104	S189	A	H	11	d	I	I	1	0.50	0.44	0.23	0.20	0.19		SK103			
SK105	S212	A	F	11	c	I	I	1	0.38	0.27	0.17	0.15	0.10					
SK106	S213	A	F	11	a	I	I	1	0.32	0.28	0.18	0.17	0.17					
SK107	S183	A	G-H	10-11	e	I	I	1	1.15	0.80	0.65	0.47	0.27					
SK108	S216	A	F	10	e	IV	I	1	1.11	1.05	0.89	0.81	0.17					
SK109	S208	A	G	10	a	I	I	1	0.49	0.44	0.34	0.25	0.10	SK110	Y6, T1	35	12	
SK110	S209	A	G-H	10	a	IV	I	1	1.44	1.33	0.98	0.96	0.50	SK109	Y4			
SK111	S228	A	G	10	a	I	I	1	(0.24)	0.23	(0.19)	0.14	0.14	SK110				
SK112	S180	A	F	10	e	H	3	3	0.65	(0.20)	0.55	(0.10)	0.08					
SK113	S172	A	H	10	d	VII	2	1	0.54	0.33	0.08	0.07	0.30					

表18 土坑一览表 (4)

遺構番号	調査番号	地盤割り		堆積状況	断面形状	底面形状	掘幅(m)				重複関係			出土遺物	種別	図版						
							上端		下端		深さ	新	旧									
		長	幅				長軸長	短軸長	長軸長	短軸長												
SK114	S106	A	I	10	e	I	1	1	0.27	(0.21)	0.17	(0.15)	0.06	SD12								
SK115	S106	A	H-I	10	n	I	1	1	1.44	1.15	1.19	0.97	0.13		SH16	H1,Y2	36 12					
SK116	S107	A	H-I	10	e	VI	3	3	0.85	(0.63)	0.26	0.21	0.18	SK115								
SK117	S101	A	I	10	n	I	3	3	0.59	0.59	0.47	0.45	0.09			H1,Y2	37 12					
SK118	S105	A	I	10	c	I	1	1	0.27	0.26	0.17	0.15	0.05									
SK119	S177	A	I	10	a	IV	3	3	0.81	0.58	0.55	0.44	0.06									
SK120	S178	A	I	10	d	I	1	1	0.37	0.30	0.23	0.19	0.07									
SK121		A	F	12	c	I	1	1	0.28	0.26	0.13	0.12	0.11		SI3-カマド							
SK122		A	G	13	b	I	1	1	0.26	0.25	0.10	0.09	0.12		SI5-カマド							
SK123	S024	B	E	13	c	IV	1	1	0.27	0.27	0.18	0.14	0.08									
SK124	S028	B	E	14	c	IV	1	1	0.22	0.20	0.07	0.06	0.10									
SK125	S029	B	E	14	f	IV	1	1	0.21	0.20	0.11	0.10	0.12									
SK126	S031	B	E	3-4	e	I	1	1	0.25	0.24	0.12	0.11	0.15									

表19 溝状遺構一覽表

遺構番号	調査番号	東西南北		地区割り	堆積状況	断面形状	規模(m)				重複関係			出土遺物	種別	回数						
							上端		下端		隣さ	新	旧									
		大(アリヤカンド)	小(アリヤカンド)				長軸前	短軸長	長軸後	短軸長												
S01	S002	B	D-E	6	e	IV	(1.50)	0.56	(0.64)	0.28	0.45	SK1										
S02	S025	E	F	4-5	e	I	(1.75)	0.16	(0.40)	0.08	0.04											
S03	S085	B	F	1	e	IV	1.50	0.45	0.30	0.09	0.18	SK42, SD4										
S04	S084	A-B	F	20-1	e	IV	(1.70)	0.75	3.12	0.53	0.25	SK44	SD5									
S05	S115	A	F	20	e	Ia	(0.95)	0.67	(0.70)	0.36	0.10		SK43									
S06	S165	A	F-G	18	e	I	8.70	1.00	5.80	0.52	0.42		S12, S12-4P, SK49	H3, P1, Y3 , S1	28	12						
S07	S147	A	E-F	14-15	b	I	(5.88)	1.80	(5.52)	0.40	0.44			J1, B6, T2	39	13						
S08	S227	A	H	14	e	VI	1.86	(1.84)	(1.66)	1.11	0.38	SK69~SK72, SK74										
S09	S264	A	G	10-12	b	Ia	(17.65)	1.32	(17.65)	0.66	0.18		S14, S14-櫛頭器③ ④, S15, SP25, SK07 , SK93, SK97, SK101 , SD11	H4, Y29, T2	40	13						
S010	S217	A	E-F	11-12	b	Ia	(5.40)	0.70	(0.66)	0.37	0.08			T7, T1	42	11						
S011	S205	A	G	11	d	I	1.90	0.40	0.53	0.28	0.21	SD9		Y1	42	14						
S012	S181	A	I	10	c	II	0.94	0.20	0.20	0.14	0.12		SK114									

表20 清状遗稿付属遗稿一覽表

遺構番号	調査番号	地区割り	板模 (m)										重複関係			出土遺物	種別	図版			
			上端					下端					深さ	新	既						
			長軸反	短軸反	長軸正	短軸正		長軸反	短軸反	長軸正	短軸正										
SD9-P1	S236	A G 12	d	IV	I	I	0.21	0.20	0.10	0.09	0.27					40	13				
SD9-P2	S237	A G 12	e	IV	I	I	0.20	0.19	0.12	0.10	0.14					40	13				
SD9-P3	S238	A G 12	e	I	I	I	0.24	0.21	0.15	0.13	0.08					40	11				
SD9-P4	S240	A G 11	e	IV	I	I	0.23	0.20	0.15	0.13	0.05					40					
SD9-P5	S241	A G 11	e	IV	I	I	0.25	0.21	0.16	0.13	0.07					40	14				

表21 土器観察表(1)

出 土 編 番 号	種 別	器種	出土位置			大きさ (cm)	口縁部 径(内径 ×外径 ×底径)	胎土	色調 (内面 ×外面 ×断面)	器面調整 内面/外面	分類 ・時 期	備 考	補 足	圖 版	
			出土区・ グリット	遺構番号	層位										
1	土師器	高杯	-	S12	②	b 3	- (6.0)	-	やや粗(φ 1mm以下) のチャート、雲母を わざかに含む	5YR 5/6 5YR 5/6 5YR 5/6	指ナデ/不明	昭和Ⅲ- L. 213油	穿孔3方向	12	17
5	土師器	バレス壺	-	S13	②	d	(16.0) ③ e,f	4.0	壺(φ 1mm以下の長 石、石英、チャートをわ ざかに含む)	7,5YR 7/4 10YR 6/4 7,5YR 7/4	羽伏文、ナデ/輪 目線(2条)、ナデ	昭和Ⅲ- L. 2	内外面赤彩	16	15
6	土師器	バレス壺	-	S13	③	f	- (15.0)	-	壺(φ 4mm以下の長 石、石英、チャートをわ ざかに含む)	10YR 7/6 10YR 7/6 10YR 7/6	指面压痕、輪 目線、ナデ/模様文 (5条)2段	昭和Ⅲ- L. 2	内外面赤彩	16	15
7	土師器	壺	-	S13	②	d d~e	- 6.8 (25.0)	-	壺(φ 5mm以下の長 石、石英、チャート、赤色 釉化土粒、雲母をわ ざかに含む)	10YR 5/4 10YR 4/4 10YR 7/3	板ナデ/不明	昭和Ⅲ- L. 2		16	15
8	土師器	壺	-	S13	②	d	- (6.2) (17.20)	-	やや粗(φ 1mm以下) の長石、チャートをわ ざかに含む)	10YR 7/6 10YR 7/6 10YR 7/6	ナデ、輪健痕、指 面压痕/ナデ、板 ナデ	昭和Ⅲ- L. 2		16	15
9	土師器	壺	-	S13	③	f,d	- (7.0) ② (3.1)	-	壺(φ 5mm以下の長 石、チャートをわ ざかに含む)	7,5YR 7/6 10YR 7/6 10YR 7/6	不明/不明	昭和Ⅲ- L. 2		16	17
10	土師器	ミニチュ ア瓶	-	S13-96	①	a	- (5.7)	-	壺(φ 1mm以下の長 石、チャート、雲母 をわざかに含む)	10YR 6/6 10YR 6/6 10YR 6/6	指ナデ/ミガキ	昭和Ⅲ- L. 2		16	17
11	土師器	く字状口 縁付甕	-	S13	②	a	(17.0) - (28.5)	3.0	やや粗(φ 0.5mm以 下)の長石をわざかに 含む)	10YR 6/8 7,5YR 6/6 7,5YR 6/6	指ナデ/板ナデ	昭和Ⅲ- L. 2		16	16
12	土師器	小型口付 甕	-	S13	②	d	- (5.8) (9.5)	-	やや粗(φ 1mm以下) の長石、チャート、 雲母をわざかに含 む)	10YR 5/2 5YR 5/6 5YR 5/6	板ナデ/ナデ、指 面压痕	昭和Ⅲ- L. 2		16	15
13	土師器	条文底部 平底甕	-	S13	②	d	(15.8) 5.8 17.7	2.7	やや粗(φ 7mm以下) の長石、石英、 チャート、雲母を わざかに含む)	10YR 5/4 7,5YR 4/4 10YR 5/4	ナデ、輪健痕、指 面压痕/ナデ、輪 目線、板ナデ	昭和Ⅲ- L. 2		17	16
14	土師器	高杯	-	S13	②	d	- (13.7) (10.5)	-	壺(φ 1mm以下の長 石をわざかに含む)	7,5YR 6/6 5YR 5/6 5YR 6/6	タコナ デ/不明	昭和Ⅲ- L. 2	穿孔3方向 内面スス付着	17	16
15	土師器	高杯	-	S13	②	d	- (14.1) (8.7)	-	壺(φ 2mm以下の長 石、チャートをわ ざかに含む)	10YR 6/6 10YR 6/6 10YR 6/6	タコナ デ/ココナ デ/ガガリ、ココ ナデ	昭和Ⅲ- L. 2	穿孔3方向 外面スス付着	17	16
16	土師器	高杯	-	S13	②	d	- (15.8) (9.0)	-	やや粗(φ 5mm以下) の長石、チャートを わざかに含む)	5Y 6/6 5Y 6/6 5Y 6/6	指ナデ/不明	昭和Ⅲ- L. 2	穿孔3方向	17	16
17	土師器	高杯	-	S13	②	d	- (4.7)	-	壺(φ 1mm以下の長 石、チャートをわ ざかに含む)	7,5Y 7/6 7,5Y 7/6 7,5Y 7/6	ナデ/不明	昭和Ⅲ- L. 2	穿孔3方向	17	16
18	須恵器	甕	-	S13	③	e	- (3.0)	-	壺(φ 1mm以下の長 石をわざかに含む)	2,5Y 6/2 2,5Y 6/4 2,5Y 7/3	回転ナデ、絞り込 み模様/回転ナデ、 沈線、列点文	I-101		17	17
19	須恵器	甕	-	S13	③	f	- (3.8)	-	壺(φ 1mm以下の長 石をわざかに含む)	2,5Y 6/2 2,5Y 7/2 2,5Y 7/3	回転ナデ/回転ナ デ、列点文、沈 線、回転ナリ	I-101		17	17
21	須恵器	环身	-	S14-45	① ②	1	9.8 5.6 3.4	11.3	壺(φ 1mm以下の長 石をわざかに含む)	7,5Y 5/1 7,5Y 5/1 7,5Y 5/1	回転ナデ/回転ナ デ、手持シフケ ズ	I-101	底部外面刻3角	19	17
22	土師器	甕	-	S14	①	a	- (3.9)	-	やや粗(φ 2mm以下) の長石、石英、 チャート、雲母をわ ざかに含む)	10YR 3/2 10YR 3/2 10YR 3/2	ハケ/ナデ	B1小402類		19	17
23	土師器	甕	-	S15	②	a	(19.0) (2.3)	1.3	やや粗(φ 2mm以下) の長石、赤色陶化土 粒、雲母をわざかに 含む)	10YR 7/3 10YR 7/4 10YR 8/3	ナデ/ナデ、ハケ	B1小402類		20	17
24	山茶碗	脚丸	-	S15	②	a	タテ 2.4 2.3 2.3	-	やや粗(φ 1mm以下) の長石をわざかに含 む)	10YR 8/3 10YR 8/3 10YR 8/3	ナデ	不明 重量: 33.7g		21	18

表22 土器観察表(2)

両 側 番 号	種別	部種	出土位置			大きさ (cm)	口縁 残存率 (N/12)	胎土	色調 (内面) (外面)	器面調整 内面/外面	分類 ・ 時期	備考	補 足	圖 版
			出土区・ ダリット	遺構番号	層位									
26	土師器	く字状口 縁甕	-	SB1-P2	②	1 - (3.0)	-	やや粗 (φ 1mm以下) の長石、チャートを わずかに含む)	10YW 7/2 10YW 7/3 10YW 7/3	ナザ、指輪压痕/ ナザ	古墳時代 初頭		22	17
27	土師器	平底甕	-	SK99	②	a - (5.6) (2.2)	-	やや粗 (φ 1mm以下) の長石、チャートを わずかに含む)	10YW 7/4 10YW 7/4 10YW 7/4	ナザ/ナザ	古墳時代 初頭		23	17
28	須恵器	高环	AE39	-	1	14.0 - (3.9)	1.2	直 (φ 1mm以下)の長 石をわずかに含む)	5Y 5/1 2.5G 4/1 5Y 6/2	回転ナザ/回転ナ ザ、沈綻	I-10I		24	17
29	山茶瓶	瓶	-	SK12	②	1 (12.0) - (2.5)	1.0	直 (φ 1mm以下)の長 石をわずかに含む)	10Y 8/2 10Y 8/2 10Y 8/2	回転ナザ/回転ナ ザ	大頭大腹 4		27	18
31	近世陶器	瓶掛	-	SK53	①	1 (36.0) - (8.4)	1.3	やや粗 (φ 1mm以下) のチャートを わずかに含む)	5Y 8/1 10W 8/1 10W 8/3	回転ナザ/回転ナ ザ	18C末	内面施釉(長石 釉)、一部熱帯 液滴(縫隙)、外 面ハケ織り(白色 釉)	28	17
33	山茶瓶	瓶	-	SK68	②	a (1.2) - (2.5)	1.0	直 (φ 1mm以下) のチャートをわずかに 含む)	10YW 7/3 10YW 7/3 10YW 7/3	回転ナザ/回転ナ ザ	大頭I		29	18
36	山茶瓶	瓶	-	SK96	②	a - (5.0) (2.2)	-	直 (φ 1mm以下)の長 石をわずかに含む)	7.5YW 8/2 10YW 8/2 10YW 8/3	回転ナザ/回転ナ ザ、回転系切削、 底面貼付	明和I	轉盤瓶	32	18
37	山茶瓶	瓶	-	SK96	①	1 (5.0) - (1.4)	-	直 (φ 1mm以下)の長 石をわずかに含む)	2.5Y 7/2 2.5Y 7/2 2.5Y 7/2	回転ナザ、静止指 ナザ/回転ナザ、 回転系切削、高台 貼付	明和I	轉盤瓶	32	18
38	山茶瓶	瓶	-	SK96	②	b (11.7) (3.4) 3.5	1.7	直 (φ 1mm以下)の長 石、チャートをわずか に含む)	2.5Y 8/1 2.5Y 8/1 2.5Y 8/1	回転ナザ、静止指 ナザ/回転ナザ、 回転系切削、高台 貼付	大頭I	轉盤瓶	32	18
39	山茶瓶	瓶	-	SK97	①	d~g (4.0) (2.4)	-	直 (φ 1mm以下)の長 石をわずかに含む)	2.5Y 8/2 2.5Y 8/2 2.5Y 8/2	回転ナザ/回転ナ ザ、回転系切削、 高台貼付	明和I～ 大頭大腹 4古	轉盤瓶	33	18
40	山茶瓶	瓶	-	SK97	①	a~e - (2.5) (2.2)	-	直 (φ 1mm以下)の長 石をわずかに含む)	2.5Y 7/3 2.5Y 7/3 2.5Y 7/3	回転ナザ、静止指 ナザ/回転ナザ、 回転系切削、高台 貼付	明和I～ 大頭大腹 4古	轉盤瓶	33	18
41	山茶瓶	小瓶	-	SK97	②	2 (8.2) (5.8) 1.3	1.5	直 (φ 1mm以下) のチャートをわずかに 含む)	7.5YW 8/3 7.5YW 8/4 7.5YW 8/4	回転ナザ、静止指 ナザ/回転ナザ、 回転系切削、板目 压痕	明和I～ 大頭大腹 4古		33	18
43	山茶瓶	瓶	-	SK102	①	a (13.0) - (4.0)	1.0	直 (φ 0.5mm以下) のチャートをわずかに 含む)	2.5Y 7/2 2.5Y 7/2	回転ナザ/回転ナ ザ	明和I～ 大頭大腹 4古		34	18
44	山茶瓶	瓶	-	SK102	②	1 (4.0) (2.2)	-	直 (φ 1mm以下)の長 石をわずかに含む)	5Y 8/1 5Y 8/1 5Y 8/1	回転ナザ、静止指 ナザ/回転ナザ、 回転系切削、高台 貼付	明和I～ 大頭大腹 4古	轉盤瓶	34	18
46	山茶瓶	瓶	-	SK109	①	1 - (4.0) (1.8)	-	直 (φ 1mm以下)の長 石をわずかに含む)	2.5Y 8/2 2.5Y 8/2 2.5Y 8/2	回転ナザ、静止指 ナザ/回転ナザ、 回転系切削、板目 压痕	明和I～ 大頭大腹 4折	轉盤瓶	35	18
47	山茶瓶	瓶	-	SK109	①	1 - (4.2) (2.1)	-	直 (φ 1mm以下)の長 石をわずかに含む)	5Y 7/2 5Y 7/2 5Y 7/2	回転ナザ/回転ナ ザ、回転系切削、 高台貼付	大頭大腹 4折	轉盤瓶	35	18
48	古瓶口	折縁小瓶	-	SK109	①	1 (12.4) 6.0 2.2	3.8	直 (φ 1mm以下)の長 石をわずかに含む)	10YW 8/1 10YW 8/1 10YW 8/1	回転ナザ/回転ナ ザ、回転系切削	後II期	トランボ、重ね 巻き瓶	35	17
49	土師器	甕	-	SK115	①	1 - (7.6)	3.1	やや粗 (φ 2mm以下) の長石、石英、黄玉 をわずかに含む)	10YW 5/3 10YW 4/3 10YW 4/3	ハガ、指輪压痕、 ナザ/ハケ、指輪 压痕	B15-42類		36	17
50	山茶瓶	瓶	-	SK116	②	1 (12.6) (2.5)	2.3	直 (φ 1mm以下)の長 石をわずかに含む)	2.5Y 8/1 2.5Y 8/1 2.5Y 8/1	回転ナザ/回転ナ ザ	大頭大腹 4古		37	18

表23 土器観察表（3）

発 見 番 号	種類	器種	出土位置			大きさ (cm)	口縁部 横存半 (X/12)	胎土	色調 (内面) (外面) (断面)	器面調整 内面/外面	分類・ 時期	備考	種 別	國 別	
			出土区・ グリット	遺構番号	層位										
51	山茶輪	輪	-	SD6	① a~c	-	(3.6) (1.6)	-	透（φ1m以下の長 石、チャートをわず かに含む）	2.3V 8/3 2.3V 8/3 2.3V 7/4	回転ナデ、静止指 ナデ/回転ナデ、 回転系切削、高台 貼付	自土原1	輪鉢底	38	18
52	山茶輪	輪	-	SD7	① a~b	(12.6) (3.0)	1.3	透（φ1m以下の長 石をわずかに含む）	2.3V 7/2 2.3V 7/2 2.3V 7/2	回転ナデ/回転ナ デ	明和～ 大正大鋼 4店		39	18	
53	山茶輪	輪	-	SD9	② I	(12.2) (4.2) 4.5	2.3	透（φ1m以下の長 石をわずかに含む）	2.3V 8/3 2.3V 8/2 2.3V 8/3	回転ナデ、静止指 ナデ/回転ナデ、 回転系切削、高台 貼付	大正大鋼 4店	輪鉢底	41	17	
			AE11 復元	-											
54	山茶輪	輪	-	SD9	③ a~c	-	(4.4) (2.2)	-	透（φ0.5mm以下 のチャートをわずかに 含む）	2.3V 8/4 2.3V 8/4 2.3V 8/4	回転ナデ、静止指 ナデ/回転ナデ、 回転系切削、高台 貼付、板面圧痕	明和1～ 大正大鋼 4店	輪鉢底	41	18
55	土師器	ホウロク	-	SD9	② a	(26.2) -	1.0	透（φ1m以下の長 石、置母をわずかに 含む）	7.5H 5/5 7.5H 5/5 5H 6/6	回転ナデ/回転ナ デ	0類	外面保有	41	17	
56	山茶輪	小盤	-	SD10	① e	(8.0) (4.4) 1.5	1.8	透（φ1m以下の長 石をわずかに含む）	10H 8/3 10H 8/2 10H 8/3	回転ナデ、静止指 ナデ/回転ナデ、 回転系切削	明和		42	18	
57	山茶輪	輪	-	SD11	② a~c	(11.2) -	1.4	透（φ1m以下の長 石をわずかに含む）	2.3V 7/1 2.3V 7/1 2.3V 7/1	回転ナデ/回転ナ デ	大正東1 ～築之島 3		42	18	
58	土師器	平底盤	BE1+2	倒木痕1	a~c	(5.8) (7.3)	-	粗（φ1m以下の長 石、チャート、置母を多く含 む）	5H 3/2 7.5H 3/4	指擦压痕、指ナデ ナデ、輪面圧痕	占時代 初期		43	17	
59	山茶輪	小盤	AE12	-	I	(8.0) (4.7) 1.3	2.9	透（φ1m以下の長 石をわずかに含む）	2.3V 8/1 2.3V 8/1 2.3V 8/1	回転ナデ、静止指 ナデ/回転ナデ、 回転系切削	明和		43	18	

表24 石器観察表

発 見 番 号	器種	出土位置			石材	大きさ(cm)			重量(g)	備考	種 別	國 別	
		出土区・ グリット	遺構番号	層位		長さ	幅	厚さ					
2	石鎚	-	SI2	② a	下呂石	2.40	1.50	0.40	1.1			12	18
3	打製石斧	-	SI2	③ b	泥岩	7.00	3.90	0.89	36.4	短錐形		12	18
4	砥石	-	SI2	② 3	緑泥岩	(4.56)	2.30	(1.60)	29.5	仕上げ砥		12	18
20	打製石斧	-	SI3	④ d	泥岩	(5.20)	3.70	0.40	13.3	上磨欠損、短錐形		17	18
25	石鎚	-	SI5	③ a	下呂石	(3.20)	1.20	0.50	2.8	先端欠損、鎌頭断面ひし形、自然面あり		21	18
30	スクレイパー	-	SK12	② I	チャート	2.90	2.70	0.50	5.2	自然面あり		27	18
32	砥石	-	SK33	①② I	緑泥岩	14.70	6.80	3.40	553.5	中砥、正面・側面に敲打痕		28	18
34	打製石斧	-	SK84	① I	ホルシフェルス	7.10	3.80	1.00	38.0	短錐形		30	18
35	打製石斧	-	SK99	② a	ホルシフェルス	7.10	3.20	1.30	45.8	短錐形		31	18
42	打製石斧	-	SK97	② 2	泥岩	6.00	3.00	0.80	19.1	錐形		33	18
45	打製石斧	-	SK102	② I	泥岩	(8.80)	3.70	0.70	42.1	上端欠損、短錐形		34	18
60	砥石	AG19	-	I	砂岩	12.10	6.30	2.80	378.0	荒砥、敲打痕あり		43	18

## 第4章 自然科学分析

### 第1節 分析の概要と成果

**分析の経緯** 分析の対象とした試料は、SI 2 と SI 3 から出土した炭化物 5 点である。SI 2 は貼床上面の東壁際と P5 の上面から、SI 3 は床面の東壁際と北壁際、P7 上面からまとまって出土したもので、いずれも竪穴建物に伴う建築材の一部と考えられる。当該期の竪穴建物の建築材に用いられた樹種の選択に関する知見を得ることを目的として、樹種同定分析を実施した。

**結果の概要と所見** 分析の結果、SI 2 はクリとカヤ、SI 3 はクリとモミ属と確認され、5 点中 3 点がクリという結果を得た。クリが建築材として用いられる状況について、植田弥生氏は、柿田遺跡の報告において岐阜県内の弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡建築材樹種について検討し、アカガシ亞属やシイノキ属などの常緑広葉樹が多く、このほか大垣市や岐阜市の低地遺跡では針葉樹、美濃加茂市や閔市などの丘陵部の遺跡は落葉広葉樹など、多様な樹種が選択される中で、特殊建物や大型建物でクリが多く用いられることを指摘している<sup>1)</sup>。そこで、土岐上平遺跡の所在する東濃地域から隣接する中濃地域にかけての遺跡で、弥生時代後期～古墳時代前期のクリを用いた竪穴建物を集成し、表25に示した<sup>2)</sup>。これらの建物の面積は、当遺跡のSI 2 が部分的な調査にとどまるなどを除けば、美濃加茂市尾崎遺跡の24号住居址の11.41m<sup>2</sup>から、同じ美濃加茂市尾崎遺跡の92号住居址の63.75m<sup>2</sup>まであり、大型の竪穴建物に限らず小型の竪穴建物でもクリが用いられている。また、柿田遺跡SB17で管玉、深橋前遺跡SBA05で銅鏡、尾崎遺跡92号住居址や当遺跡SI 2 で金属加工に用いられた可能性もある砥石が出土するなど特徴的な竪穴建物もあるが、それ以外でもクリが用いられている。以上のように、東濃・中濃地域では、本遺跡も含め一般的な竪穴建物においても、普遍的にクリが用いられていた可能性を指摘できるが、現時点では類例が少ないため、今後の資料の増加を待ちたい。

表25 クリを用いた弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物

遺跡名	所在地	遺構名	時期	長軸 (m)	短軸 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	備考
柿田遺跡	可児市	SB17	山中式～ 廻間 I 式	6.9	6.45	44.51	管玉出土
砂行遺跡	閔市	SBA34	廻間 I 式	3.10	(2.30)	(7.13)	
尾崎遺跡	美濃加茂市	24号住居址	廻間 I 式	3.68	3.10	11.41	
東野遺跡	坂祝町	SI124	廻間 I 式	5.53	4.74	26.21	
東野遺跡	坂祝町	SI127	廻間 I 式	(3.77)	(3.34)	(12.59)	
土岐上平遺跡	瑞浪市	SI2	廻間 II 式	3.10	(2.75)	(8.53)	砥石出土
土岐上平遺跡	瑞浪市	SI3	廻間 II 式	4.94	4.48	22.13	
妻木平遺跡	土岐市	SI3	廻間 III 式	5.90	5.30	31.27	
尾崎遺跡	美濃加茂市	92号住居址	松河戸式	8.50	7.50	63.75	砥石出土
深橋前遺跡	閔市	SBA05	松河戸式～ 宇田式	4.35	(3.30)	(14.36)	銅鏡出土

## 第2節 炭化材の樹種同定

土岐上平遺跡のSI 2 と SI 3 から出土した炭化材について、樹種同定を行なった。なお、分析は小林克也（株式会社パレオ・ラボ）が実施した。

**試料と方法** 試料は、堅穴建物跡 SI 2 から出土した炭化材 2 点、SI 3 から出土した炭化材 3 点の、計 5 点である。樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製 VE-9800）にて検鏡及び写真撮影を行なった。

**結果** 同定の結果、針葉樹ではモミ属とカヤの 2 分類群、広葉樹で

表26 樹種同定結果

はクリのみ 1 分類群の、計 3 分類群がみられた。クリが 3 点で最も多く、モミ属とカヤが各 1 点であった。同定結果を表 26 に、一覧を表 27 に示す。以下に、同定された材の特徴を記載し、図 51 に走査型電子顕微鏡写真を示す。

樹種/造構	SI 2	SI 3	合計
モミ属		1	1
カヤ	1		1
クリ	1	2	3
合計	2	3	5

### (1) モミ属 *Abies* マツ科 図 51 1a-1c(No. 3)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ 1 ~ 8 列となる。分野壁孔は小型のスギ型で、1 分野に 2 ~ 4 個みられる。また、放射組織の末端壁は数珠状に肥厚する。モミ属には高標高域に分布するシラビソ、オオシラビソ、ウラジロモミと、低標高域に分布するモミなどがあり、いずれも常緑高木である。材はやや軽軟で、切削その他の加工は容易、割裂性も大きい。

### (2) カヤ *Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc. イチイ科 図 51 2a-2c(No. 2)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ 1 ~ 5 列となる。分野壁孔は小型のヒノキ型で、1 分野に 2 ~ 4 個みられる。また、仮道管の内壁には 2 本 1 対のらせん肥厚がみられる。カヤは暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材は比較的重硬で、弾力性に富み、切削等の加工は容易で、水湿によく耐える。

### (3) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図 51 3a-3c(No. 5)

年輪のはじめに大型の道管が 1 ~ 3 列並び、晩材部では徐々に径を減じる道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状である。道管は單穿孔を有する。放射組織は同性で、単列である。クリは、北海道の石狩、日高地方以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

**考察** 古墳時代初頭の堅穴建物跡 SI 2 ではカヤとクリ、SI 3 ではモミ属とクリがみられた。いずれも建物跡の焼けた建築材と考えられる。分析で検出したモミ属とカヤは、本理通直で真っすぐに生育する加工性の良い樹種である。また、クリは堅硬な樹種である<sup>3)</sup>。建築材には真っすぐな針葉樹や堅硬なクリが利用されていたと考えられる。

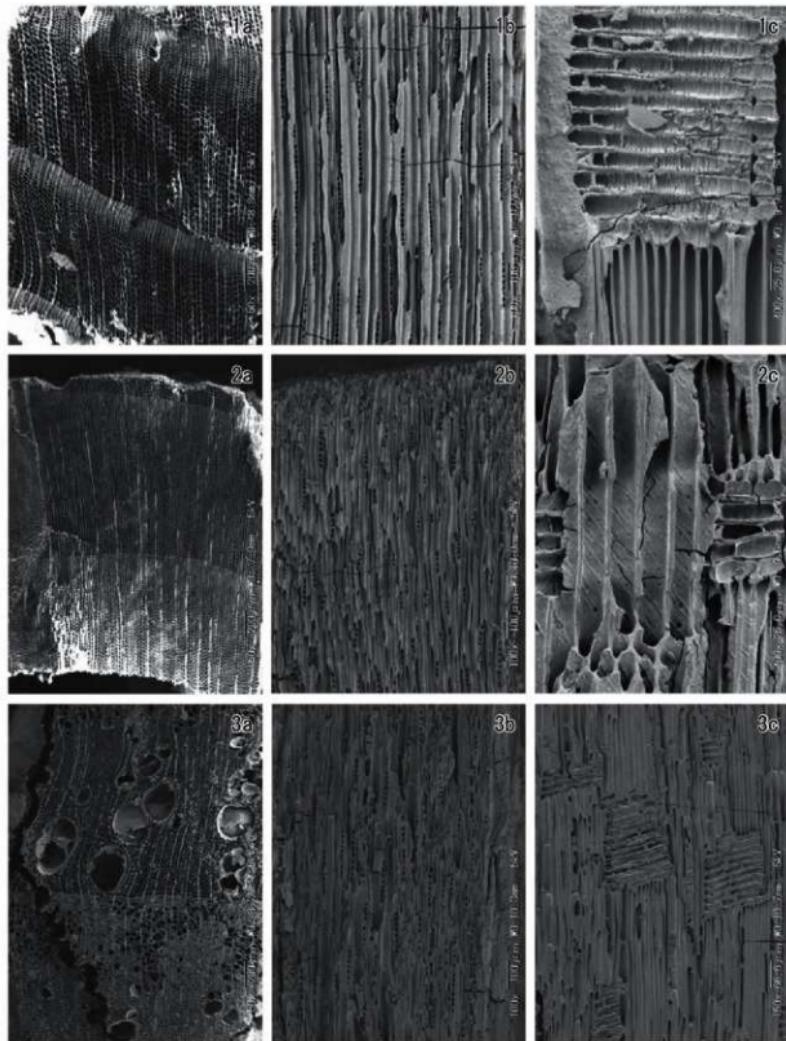
表 25 のように、建築材にクリが多くみられる傾向が確認されており、堅穴建物跡の建築材としてクリが重宝されていた可能性がうかがえる<sup>4)</sup>。今回の土岐上平遺跡でも建築材に複数のクリが確認されており、傾向は一致すると考えられる。

表27 土岐上平遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

分析No.	遺跡番号	取上番号	遺構番号	遺構層位	種類	樹種	時期
1	19TK	97	SI2③	c	炭化材	クリ	古墳時代初頭
2	19TK	98	SI2①	b	炭化材	カヤ	古墳時代初頭
3	19TK	186	SI3①	d	炭化材	モミ属	古墳時代初頭
4	19TK	187	SI3①	d	炭化材	クリ	古墳時代初頭
5	19TK	188	SI3①	d	炭化材	クリ	古墳時代初頭

注

- 植田弥生2005「消失堅穴住居跡（SB17）出土炭化材の樹種同定」『柿田遺跡』(岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第92集)
- 表25の作成にあたり、下記の文献を参考とした。また、長軸・短軸の（ ）は残存長、面積の（ ）は残存面積を示す。  
財団法人岐阜県文化財保護センター1993『尾崎遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第13集)  
財団法人岐阜県文化財保護センター2000『砂行遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第65集)  
財団法人岐阜県文化財保護センター2003『深橋前遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第79集)  
財団法人岐阜県教育文化財団2005『柿田遺跡』(岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第92集)  
岐阜県文化財保護センター2016『東野遺跡II』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第136集)  
美濃加茂市教育委員会2002『尾崎遺跡発掘調査報告書』  
公益財団法人土岐市文化振興財団『妻木平遺跡発掘調査報告書』(－土岐市妻木南部土地区画整理事業に伴う発掘調査－)
- 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和徳2011『日本有用樹木誌』、海青社；238頁
- 小林克也2016『堅穴建物出土炭化材の樹種同定』『東野遺跡II』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第136集)；113頁-121頁



1a-1c. モミ属 (No. 3)、2a-2c. カヤ (No. 2)、3a-3c. クリ (No. 5)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

図51 土岐上平遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

## 第5章 総括

### 第1節 時期区分と遺構について

土岐上平遺跡は、従前は中世の遺物散布地として知られていたが<sup>1)</sup>、今回の発掘調査により、縄文時代～近世の遺構・遺物を確認した。ここでは今回の調査成果に基づいてⅠ期～Ⅵ期の時期を設定し、その概要について示す。なお、Ⅱ期～Ⅴ期の主要な遺構を図52に示した。

**I期（弥生時代以前）** 今回の発掘区では遺構は未確認で、縄文時代～弥生時代の可能性のある石器の散布が認められるのみである。

**II期（古墳時代初頭～中期）** 遺構と遺物が一定量確認できるのは、廻間II式前半～半ばの土師器を伴う段階である。今回の発掘区では、SI2・3・SB1・SK99がこれに属する。発掘区の全域で散在的に分布する。建物の主軸方位は、東に振るもの(SI2とSB1)と西に振るもの(SI3)があり、主軸方位によるまとまりは認められない(表28)。

**III期（古墳時代後期～古代）** 遺構と遺物が一定量確認できるのは、I-101号窯式期の須恵器や、B類の土師器長胴甕を伴う段階である。今回の発掘区ではSI1とSI4～SI5の3軒がこれに属する。II期の竪穴建物が散在するのに対し、III期のSI4とSI5が隣接することや、SI1もSB2やSK13と近接することなど、II期よりもまとまる傾向がある。また、竪穴建物の主軸方位についてもすべて西に振るという点でII期とは異なり、方位を意識した可能性がある(表28)。古代については、灰釉陶器の小片がBE1グリッドから1点出土したのみで、遺構は未確認である。

**IV期（中世前期）** 遺構と遺物が確認できるのは、白土原1号窯式期～明和1号窯式期の東濃型山茶碗を伴う段階である。今回の発掘区では、SK49・SK79・SK88・SD6がこれに属し、新たに溝状遺構が出現する。なお、SD6は、圃場整備後の地割(図2)の方位とは一致しない。

**V期（中世後期）** IV期から継続して遺構・遺物が認められ、大畑大洞4号窯式期古段階～脇之島3号窯式期に比定される東濃型山茶碗を伴う段階である。発掘区の東部にSK97など複数の土坑の他、SD7・SD10・SD11などの溝状遺構が集中する。溝状遺構は、IV期のSD6は南北方向であるが、V期の溝状遺構とは向きが異なる。これらの溝状遺構は圃場整備後の地割(図2)の方位とは一致しない。

**VI期（近世以降）** SK53とSD9がこれに属する。SD9は圃場整備後の地割の延長部分と一致する。

表28 竪穴建物の諸属性

遺構名	時期	規模			付属施設			主軸方位	
		長軸長	短軸長	面積	地床炉	かまど	壁際溝		
SI1	Ⅲ期	(2.14)	(1.70)	(3.60)	-	-	○	-	N-31° -W
SI2	Ⅱ期	3.10	(2.75)	(8.53)	○	-	-	○	N-88° -E
SI3	Ⅱ期	4.94	4.48	22.13	-	-	-	-	N-75° -W
SI4	Ⅲ期	3.96	3.82	15.13	-	○	○	-	N-29° -W
SI5	Ⅲ期	4.00	3.85	15.40	-	○	-	○	N-36° -W

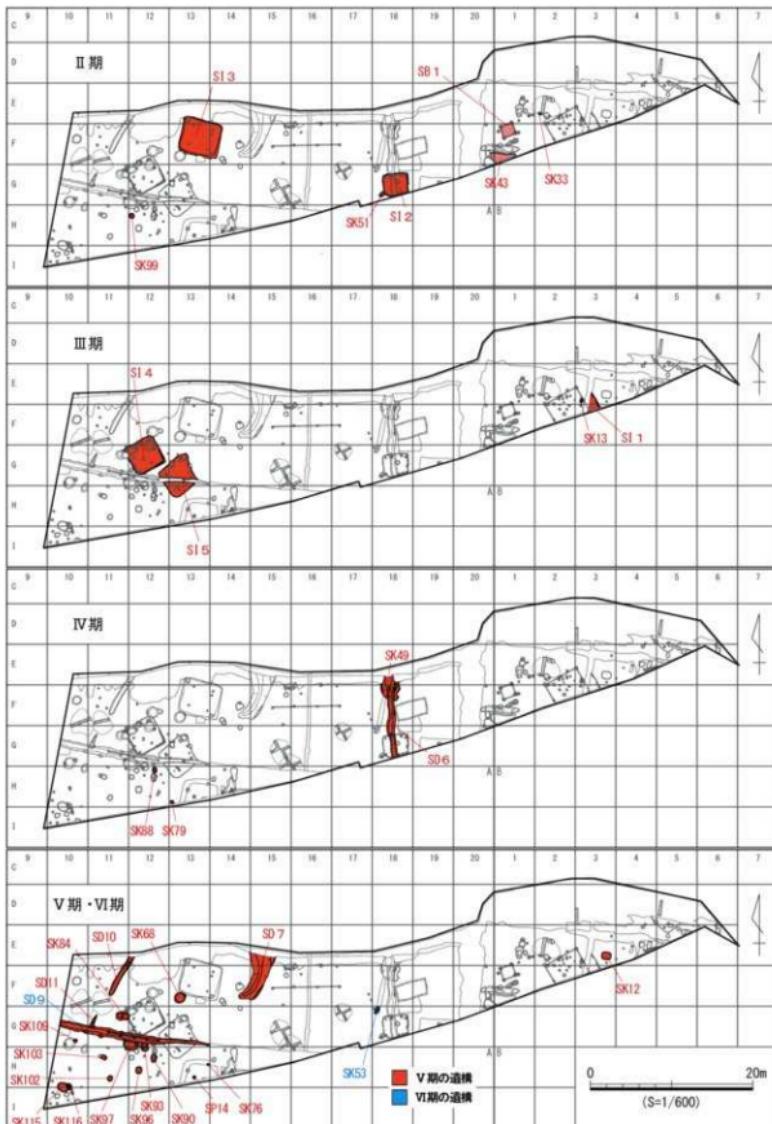


図52 土岐上平遺跡遺構変遷図

## 第2節 遺物について

II期のSI3からは廻間II式期前半の東濃地域としては良好な一括資料が得られた。これらの資料に伴って出土した甕（図17の13・図54の34）は、いわゆる「く字甕」と類似する口縁部であるが、口縁部以外の形状は、「く字甕」が台付きの底部でハケ調整を特徴とするのに対し、この甕は平底で内外面の調整が省略されるという点で大きく異なる。ここでは、このタイプの甕を「土岐上平の平底甕」とし、類例や系譜について検討を行う。取り扱う時期は、今回の一括資料を含む廻間式期とし、対象とする地域は東濃地域（多治見市、土岐市、瑞浪市、恵那市、中津川市）とした。集成した甕は、発掘調査報告書の記載を基に「く字甕」<sup>1)</sup>、「S字甕」<sup>2)</sup>、「その他」に分類し、時期については、原則として報告書の記述に従ったが、掲載された実測図から筆者が判断したものも含む。出土状況については、単一の時期で一括性の高い資料を用いるべきであるが、良好な資料は当遺跡の他には多治見市の喜多町西遺跡など一部の遺跡のみであるため、遺物包含層出土資料や遺構混入資料も取り上げた。以上により抽出した結果、13の遺跡で廻間式期の甕を確認した。今回確認した資料では、器形全体を確認できる資料に乏しく、型式的な変化を考えることは現段階では難しい。ここでは、抽出した甕の器形や器面調整の特徴について概要を述べる。

**多治見市域**（図53）5遺跡で当該期の甕を確認した<sup>3)</sup>。「く字甕」とS字甕が認められ、前者は器形のわかるものを見る限り平底の底部は認められない。また、胴部外面には、ハケ調整を施す。これらは廻間I・II式を主体とするが、喜多町西遺跡の廻間II式後半へIII式とされるSB02では、断片的な資料ではあるものの、17・18のように緩やかに外反する口縁をもつく字甕が存在する。SB03では「近江系」とされる受け口状の甕（10）が出土しているが、今回の集成した資料では類似するものは認められない。また、野中遺跡の3は口縁部を肥厚して頭部との境目にわずかな段を設けており、4は口縁部端部と頭部外面の列点状の刻みを持つ特徴があるが、野中遺跡の他に類例は認められなかった。また、5遺跡の甕の中には、平底の甕は認められなかった。

**土岐市域**（図53）3遺跡で当該期の甕を確認した<sup>4)</sup>。器形の全体を判別し得る資料は無く、いずれも口縁部片のみであるが、「く字甕」とS字甕が認められる。胴部外面には、摩耗したものを除いて外面にはハケ調整を施す。これらは廻間I式～廻間III式であるが、土岐上平の平底甕と類似する甕は認められなかった。

**瑞浪市域**（図54）当遺跡を含めて2遺跡で当該期の甕を確認した<sup>5)</sup>。36は台付甕の台部であるが、小片のため詳細は不明である。

**恵那市域**（図54）3遺跡で当該期の甕を確認した<sup>6)</sup>。「く字甕」とS字甕が認められる。全容がわかる資料は大平遺跡の43と44のみで、その他は口縁部や口縁部～胴部の破片が多い。43は、平底甕であるが、胴部外面はハケ調整を主体としており、土岐上平の平底甕とは異なる調整を施す。胎土、器形から在地のものである可能性が高いと報告されている<sup>7)</sup>。44は小型の台付甕で、口縁部はやや外反しハケメが残る。このほか、桑原遺跡では東三河の欠山式（37～39）や、南信州の中島式（40）といった外來系の甕が出土しているが、これらの甕は他の東濃地域の遺跡では認められなかった。

**中津川市域** 廻間式期の甕が出土する遺跡は認められなかった<sup>8)</sup>。

以上、各遺跡の甕について検討を行った。東濃地域の各遺跡では、「く字甕」とS字甕が主体的に出土

表29 東濃地域出土の主要な縄間式期要素一覧

遺物番号	遺跡名	所在地	遺構	時期	く字彙	S字彙	その他	報告書
1 ①	平尾遺跡	多治見市	第1住居址	縄間I式期	○ ×	×		注1
2 ②	平尾遺跡	多治見市	第1住居址	縄間I式期	○ ×	×		注1
3 ③	野中遺跡	多治見市	SB06	縄間I式期	○ ×	×		注2
4 ④	野中遺跡	多治見市	SB06	縄間I式期	○ ×	×		注2
5 ⑤	野中遺跡	多治見市	SZ01	縄間I式期～II式期前半	○ ×	×		注2
6 ⑥	喜多町東遺跡	多治見市	包含層	縄間I式期	○ ×	×		注3
7 ⑦	喜多町東遺跡	多治見市	SB03	縄間II式期	○ ×	×		注3
8 ⑧	喜多町東遺跡	多治見市	SB03	縄間II式期	× ○B類	×		注3
9 ⑨	喜多町東遺跡	多治見市	SZ1	縄間I式期	○ ×	×		注4
10 ⑩	喜多町西遺跡	多治見市	SB03	縄間I式期後半	× ×	○受口状口縁		注5
11 ⑪	喜多町西遺跡	多治見市	SB05	縄間I式期後半	○ ×	×		注5
12 ⑫	喜多町西遺跡	多治見市	SB19	縄間I式期後半	○ ×	×		注5
13 ⑬	喜多町西遺跡	多治見市	SB23	縄間II式期前半	○ ×	×		注5
14 ⑭	喜多町西遺跡	多治見市	SB14	縄間II式期前半	× ○B類	×		注5
15 ⑮	喜多町西遺跡	多治見市	SB14	縄間II式期前半	× ○B類	×		注5
16 ⑯	喜多町西遺跡	多治見市	SB02	縄間II式期後半～III式期	○ ×	×		注5
17 ⑰	喜多町西遺跡	多治見市	SB02	縄間II式期後半～III式期	○ ×	×		注5
18 ⑱	喜多町西遺跡	多治見市	SB02	縄間II式期後半～III式期	○ ×	×		注5
19 ⑲	喜多町西遺跡	多治見市	SB02	縄間II式期後半～III式期	× ○B類新～C類	×		注5
20 ⑳	喜多町西遺跡	多治見市	SB02	縄間II式期後半～III式期	× ○B類新～C類	×		注5
21 ㉑	喜多町西遺跡	多治見市	SB18	縄間III式期前半	× ○C類	×		注5
22 ㉒	浅野館跡	土岐市	包含層	縄間I式期	○ ×	×		注6
23 ㉓	浅野館跡	土岐市	SK1	縄間III式期	× ○C類	×		注6
24 ㉔	土岐津上田遺跡	土岐市	SB1	縄間I式期	○ ×	×		注7
25 ㉕	土岐津上田遺跡	土岐市	SB1	縄間II式期	× ○B類	×		注7
26 ㉖	土岐津上田遺跡	土岐市	SB1	縄間III式期	× ○C類	×		注7
27 ㉗	土岐津上田遺跡	土岐市	SB1	縄間III式期	× ○C類	×		注7
28 ㉘	土岐津上田遺跡	土岐市	SB1	縄間II式期～III式期	○ ×	×		注7
29 ㉙	土岐津上田遺跡	土岐市	SB1	縄間II式期～III式期	○ ×	×		注7
30 ㉚	妻木平遺跡	土岐市	SX06	縄間II式期～III式期	○ ×	×		注8
31 ㉛	妻木平遺跡	土岐市	SX06	縄間II式期～III式期	○ ×	×		注8
32 ㉜	妻木平遺跡	土岐市	SX06	縄間II式期～III式期	○ ×	×		注8
33 ㉝	土岐上平遺跡	瑞浪市	S13	縄間II式期前半	○ ×	×		
34 ㉞	土岐上平遺跡	瑞浪市	S13	縄間II式期前半	× ×	○平底		
35 ㉟	土岐上平遺跡	瑞浪市	S13	縄間II式期前半	○ ×	×		
36 ㉟	益見遺跡	瑞浪市	SD01	縄間式期～松河戸式期	× ○台部	×		注9
37 ㉟	桑原遺跡	恵那市	SB1	欠山式期（縄間I式期）	○ ×	×		注10
38 ㉟	桑原遺跡	恵那市	SB1	欠山式期（縄間I式期）	○ ×	×		注10
39 ㉟	桑原遺跡	恵那市	SB1	欠山式期（縄間I式期）	○ ×	×		注10
40 ㉟	桑原遺跡	恵那市	SB2	中島式期（縄間I式期）	× ×	○信州系		注10
41 ㉟	桑原遺跡	恵那市	SB3	縄間II式期～III式期	× ○B類～C類	×		注10
42 ㉟	桑原遺跡	恵那市	SB3	縄間II式期～III式期	× ○B類～C類	×		注10
43 ㉟	大平遺跡	恵那市	SB1	縄間I式期新～II式期	× ×	○平底		注11
44 ㉟	大平遺跡	恵那市	SB1	縄間I式期新～II式期	× ×	○東三河系		注11
45 ㉟	花無山遺跡	恵那市	包含層	元履軌期新～右塚期 (縄間III式期～松河戸式期)	× ○C類	×		注12

## 多治見市

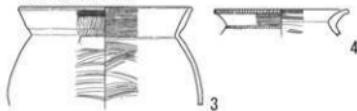
## ①平尾遺跡

第1住居址（廻間I式）

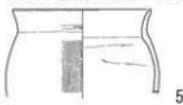


## ②野中遺跡

SB06（廻間I式）

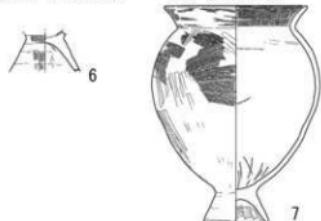


SZ01（廻間I式末～II式前半）



## ③喜多町東遺跡

包含層（廻間I式）



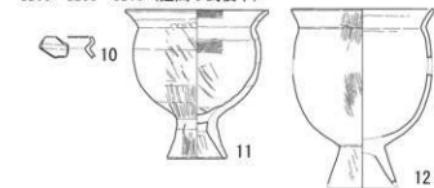
## ④喜多町遺跡

SZ 1（廻間I式）

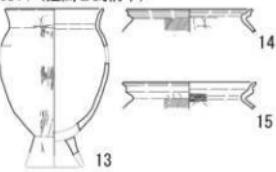


## ⑤喜多町西遺跡

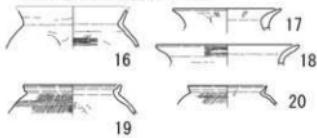
SB03・SB05・SB19（廻間I式後半）



SB14（廻間II式前半）



SB02（廻間II式後半～III式）



SB18（廻間III式前半）

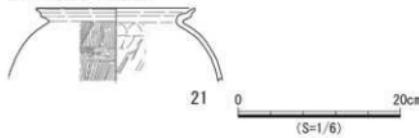


図53 東濃地域内出土廻間式期の壺①

## 土岐市

### ⑥浅野館跡

包含層（廻間Ⅰ式）



22

### SK 1 (廻間Ⅲ式)



23

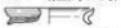
### ⑦土岐津上田遺跡

#### SB 1 (廻間Ⅰ式)



24

#### SB 1 (廻間Ⅱ式)



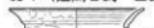
25

#### SB 1 (廻間Ⅲ式)



26

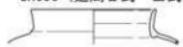
#### SB 1 (廻間Ⅱ式～Ⅲ式)



28

### ⑧妻木平遺跡

#### SX006 (廻間Ⅱ式～Ⅲ式)



30



31

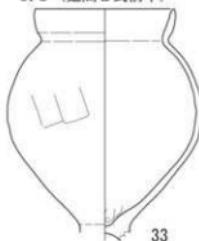


32

## 瑞浪市

### ⑨土岐上平遺跡

#### SI 3 (廻間Ⅱ式前半)



33



34



35

### ⑩益見遺跡

#### SD01 (廻間式～松河戸式)



## 恵那市

### ⑪桑原遺跡

#### SB 1 (欠山式)



37

#### SB 2 (中島式)

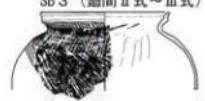


38

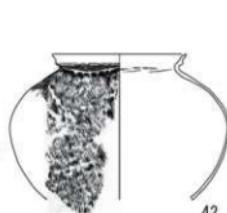


39

#### SB 3 (廻間Ⅱ式～Ⅲ式)



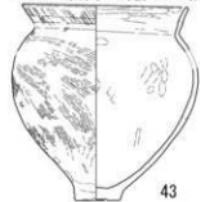
41



42

### ⑫大平遺跡

#### SB001 (廻間Ⅰ式新～Ⅱ式)



43



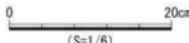
44

### ⑬花無山遺跡

#### 包含層（元屋敷新～石塚）



45



(S=1/6)

図 54 東濃地域内出土廻間式期の壺②

し、土岐上平遺跡や太平遺跡のような平底甕や、三河地域の欠山式、伊那地方の中島式、近江系の受口状口縁甕は少数の出土にとどまり、客体的であると言える。土岐上平の平底甕と類似する甕は確認することができず、太平遺跡の43が唯一平底という点で共通するのみである。また、喜多町西遺跡の報告では、「本遺跡におけるS字甕の登場時期は第Ⅱ期後半段階（廻間Ⅱ式期併行期）以降」と指摘する<sup>9)</sup>、今回集成した廻間Ⅰ式期の東濃地域の資料にはS字甕は伴わず、東濃地域全体に共通する現象と考えられる。また、S字甕が出現する廻間Ⅱ式期においても、土岐上平遺跡や妻木平遺跡のように、S字甕を伴わない遺跡も認められた。



図55 東濃地域内廻間式期の遺跡（図内の番号は表29の遺跡番号に対応）

では、土岐上平の平底甕は、当遺跡において前後関係もなく突如として廻間Ⅱ式期に発生したものであろうか。中濃地域では、弥生時代中期に美濃内陸・山間地域で出現する櫛条痕による「条痕文系土器」が出現する<sup>10)</sup>。砂行遺跡（閖市）の報告書では、平底で頸部が曲線的にくびれ、口縁は長く外反し、細密な櫛痕を施す条痕文系土器の甕を甕A類としている<sup>11)</sup>。成瀬正勝氏は甕A類の甕の分布について「おおよそ長良川中流域の美濃市、閖市から、木曾川中流域の美濃加茂市、八百津町に至る内陸・山間地域に限られるとみることができる」と指摘し、廻間Ⅰ式期を条痕文系土器の最終段階に位置付けている（図55）<sup>12)</sup>。土岐上平の平底甕は、甕A類の最大の特徴である櫛条痕は施されていないが、平底であることや口縁部の形状などが、この甕A類（図56左）との関係を想起させる<sup>13)</sup>。また、恩田知美氏の分類によりE2類とされた美濃東部のVI2期（廻間Ⅰ式期）の資料<sup>14)</sup>の中に、美濃加茂市の尾崎遺跡22号出土の甕がある<sup>15)</sup>（図56右）。この甕では体部外面に縱方向のハケ調整を施すが、

器形は類似する。一方で、続くVI3期（廻間I式期～廻間II式期）のE2類として取り上げられる可児市徳野遺跡（A地点）5号住居址出土の甕は、土岐上平の平底甕とは器形が大きく異なっており<sup>16)</sup>、器形からは直接的な系譜を追うことはできない。このことから、中濃地域で土岐上平の平底甕と器形が類似する甕は廻間I式期には認められるが、廻間II式期では認められず、中濃地域の平底甕との関係は不明である。

今回集成した東濃地域の廻間式期の甕の中には、土岐上平の平底甕と同様な甕は確認できなかった。また、成瀬氏の甕A類や恩田氏のE2類に相当するような甕も東濃地域では未確認であり、土岐上平の平底甕との関係は不明である。中濃地域の類似する平底甕と土岐上平の平底甕と関係について今後の資料の蓄積を待つて再度検討したい。

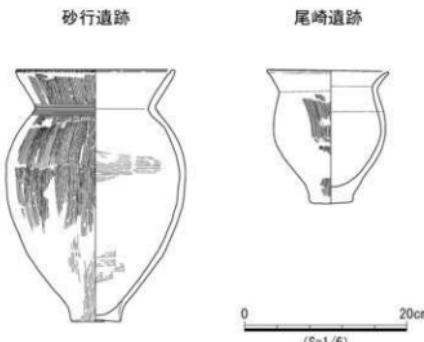


図56 中濃地域で類似する廻間I式期の甕

### 第3節 土地利用の変遷について

今回の発掘区は、VI期以降に発掘区の削平を受けており、遺物も遺構出土を除けば表土や搅乱が主体で、二次的な移動が大きいと考えられる。このような限られた状況下ではあるが、これまでの検討結果に基づいて時期ごとの土地利用の変遷をまとめ、今回の調査の総括とする。

**I期（弥生時代以前）** 打製石斧や石鏃など石器が出土したが、遺構は確認できなかった。

**II・III期（古墳時代～古代）** 発掘区で居住域としての利用が始まるのは、古墳時代初頭の廻間II式前半～半ばの段階である。2軒の竪穴建物（SI2とSI3）や掘立柱建物（SB1）、土坑（SK99）などを確認したが、廻間II式後半以降の遺構や遺物は未確認であることから、継続的な居住域では無かったと考えられる。この古墳時代初頭の居住者は、尾張地方の影響を受けたバレス壺など貯蔵具を用いる一方で、甕については、中濃地方の影響を受けた条痕文系の甕の系譜をひく可能性があるなど、尾張と美濃両方の文化的影響を受けていると思われる。古墳時代前期・中期については、遺構・遺物共に未確認であり、積極的な土地利用は行われていなかったと考えられ、再び発掘区内での土地利用の状況が明確になるのは、古墳時代後期の須恵器や、土師器甕B類を伴う段階である。この古墳時代後期に再び出現した居住域についても、それ以降継続せず、灰釉陶器が1点出土したのみであるため詳細は不明である。

**IV・V期（中世）** 発掘区内で再び土地利用が明確になるのは、13世紀前葉以降である。このころにはSD6が掘削され、何らかの区画があったと考えられる。13世紀後葉以降のV期には遺構・遺物数が増加し、IV期のSD6とは異なる方向の溝状遺構（SD7・SD10等）や、複数の土坑が発掘区の西部に掘削される。遺物は白土原1号窯式期～鷲之島3号窯式期までの山茶碗が主体で若干の古瀬戸を伴うが、中世土師器皿や青磁・白磁などの貿易陶磁器など、一定以上の階層を示すような遺物は出土していないことから、一般的な階層の居住域が付近にあったと考えられる。

**VI期（近世以降）** V期からは遺構・遺物共に大幅に減少し、圃場整備後の地割と一致する溝状遺構（SD9）が掘削される。発掘区の北部から東部にかけては複数の搅乱を検出しており、これらが近世～近代の遺物を含むことから、発掘区を含む周辺はVI期以降に地形の大幅な改変（平坦化）を伴って耕地化したと考えられる。

注

1) 今回集成した甕は破片資料が多く、口縁部あるいは底部片の資料を「く字甕」に分類しているものもある。「く字状口縁台付甕」や、「く」字甕などの報告書記載を「く字甕」にまとめた。

2) S字甕は、口縁部を「S」字状に屈曲させ、底部は台付とする。器壁は薄く、調整は鋭いハケ調整を主体とする。「S字口縁甕」や「S字状口縁甕」、「S字状口縁台付甕」などの報告書記載を「S字甕」にまとめた。

3) 多治見市教育委員会 1970『平尾遺跡・虎渓山遺跡』

多治見市教育委員会 2004『野中遺跡発掘調査報告書(第4次)』－多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第73号－

多治見市教育委員会 2006『野中遺跡発掘調査報告書(第5次)』－多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第80号－

多治見市教育委員会 2001『多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 平成8・9・10年度市内遺跡発掘調査・確認調査』－多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第65号－

多治見市教育委員会 2003『喜多町東遺跡発掘調査報告書(第3次)』—多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第 69 号—  
多治見市教育委員会 1996『多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書 平成 5・6・7 年度市内遺跡発掘調査、確認調査、測量調査報告書』—多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第 51 号—

多治見市教育委員会 2005『喜多町西遺跡発掘調査報告書』—多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第 75 号—

4) 土岐市教育委員会 2009『平成 18・19 年度土岐市市内遺跡発掘調査報告書』

土岐市教育委員会 2011『平成 20・21 年度土岐市市内遺跡発掘調査報告書』

土岐市文化振興事業団 2020『妻木平遺跡発掘調査報告書』

5) 瑞浪市教育委員会 2009『益見遺跡』

6) 上矢作町教育委員会 1998『上村川下流域の考古学的調査』

財團法人岐阜県教育文化財团 2006『大平遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 97 集

恵那市教育委員会 1982『阿木川ダム関係遺跡発掘調査報告書』

7) 財團法人岐阜県教育文化財团 2006『大平遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 97 集；32–33 頁

8) 本曾川流域の中村遺跡からは、「いわゆる S 字状口縁台付甕」と「口縁部がく字状に長く伸び」る 2 種類の甕が「いわゆる元屋敷期より若干下る時期」として報告されているが、元屋敷期=廻間Ⅲ式期より若干下る時期（松河戸式期）に相当すると判断されるため本項では取り上げなかった。

中津川市教育委員会 1979『中村遺跡』

9) 多治見市教育委員会 2005『喜多町西遺跡発掘調査報告書』—多治見市埋蔵文化財発掘調査報告書第 75 号—；123 頁

10) 岐阜県文化財保護センター 2003『砂行遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 65 集；53 頁

11) 前掲 9)；53 頁

12) 前掲 9)；57 頁

13) 成瀬正勝氏に実見していただき、土岐上平の平底甕は、甕 A 類の系譜を引き調整や装飾が省力化され廻間Ⅱ式期まで存続した可能性もあるとのご指摘を得た。

14) E 類を「口縁部が長く外形するく字状口縁平底甕」、E 2 類を「小型品」と規定する。

恩田知美 2004『美濃地方における弥生時代後期から古墳時代初頭の土器様相』『美濃の考古学』第 7 号

15) 財團法人岐阜県文化財保護センター 1993『尾崎遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書第 13 集；148 頁

16) 可児市教育委員会 1998『徳野遺跡』(A 地点)；45 頁

## &lt;参考文献&gt;

- 愛知県史編さん委員会 2010『愛知県史』資料編4 考古4 飛鳥～平安
- 愛知県史編さん委員会 2015『愛知県史』別編 黒葉1 古代 猿投系
- 赤塚次郎 1988「最後の台付甕」『古代』第86号、早稲田大学考古学会
- 石黒立人 2001「尾張に独自性はあるのかー濃尾地方における土器地域色の推移とその背景ー」『第9回春日井シンポジウム資料集』第9回春日井シンポジウム実行委員会
- 大參義一 1968「弥生時代から土師器へ—東海地方西部の場合—」『名古屋大学文学部研究論集』XLVII、名古屋大学文学部編
- 岐阜県教育委員会 1924『濃飛両国通史』
- 財団法人愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集
- 財団法人愛知県埋蔵文化財センター1994『松河戸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第48集
- 財団法人愛知県埋蔵文化財センター1997『西上免遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第73集
- 鈴木正貴 1996「東海地方の内耳鍋・羽付鍋・釜」『第4回東海考古学フォーラム 鍋と甕 そのデザイン』、東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- 早野浩二 2003「東海・中部地方の土器」『考古資料大観 第3巻 弥生・古墳時代 土器III』、小学館
- 原田幹 2002「中部地方の土器」『考古資料大観 第2巻 弥生・古墳時代 土器II』、小学館
- 藤澤良祐 1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター
- 瑞浪市教育委員会 2014『瑞浪市遺跡詳細分布調査報告書』
- 瑞浪市教育委員会 2018『瑞浪市市内遺跡調査報告書—平成12・17～19年度—』
- 瑞浪市教育委員会 2018『瑞浪市市内遺跡調査報告書—平成20～22年度—』
- 瑞浪市陶磁器資料館 2011『瑞浪市歴史資料集 第1集』
- 瑞浪市陶磁器資料館 2012『薬師寺 1200年展』





発掘区全景（西から）



発掘区全景（北から）

図版2 SI1・SI2



SI1 完掘状況（北から）



SI2 完掘状況（北から）



SI2 土層断面（東から）



SI2 土層断面（北から）



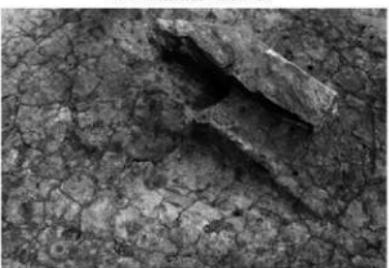
SI2 土層断面（西から）



SI2 土層断面（南から）



SI2 地床炉検出状況（北から）



SI2 地床炉土層断面（北西から）



SI2 炭化物（分析No.2）出土状況（東から）



SI2 遺物（1）出土状況（南から）

図版4 SI 3



SI 3 完掘状況（南から）



SI 3 土層断面（東から）



SI 3 土層断面（北から）

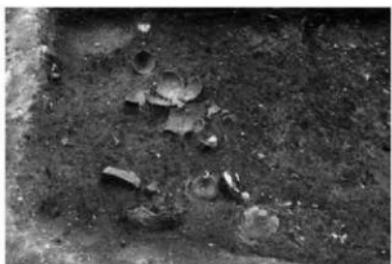


SI 3 土層断面（西から）



SI 3 土層断面（南から）

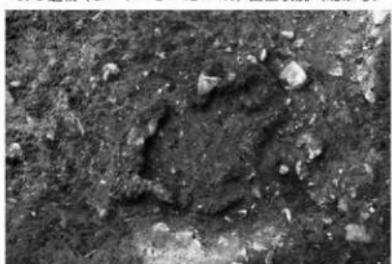
図版5 SI3・SI4



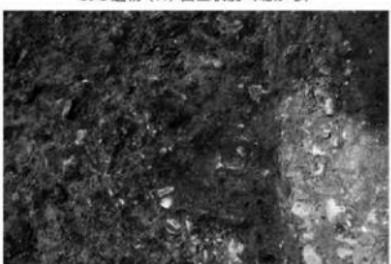
SI3遺物(5・7・8・12~16)出土状況(北から)



SI3遺物(11)出土状況(北から)



SI3炭化物(分析No.4)出土状況(北から)



SI3炭化物(分析No.5)出土状況(北から)



SI4完掘状況(北から)

図版6 SI4



SI4 土層断面 (西から)



SI4 土層断面 (北から)



SI4 土層断面 (東から)



SI4 土層断面 (南から)



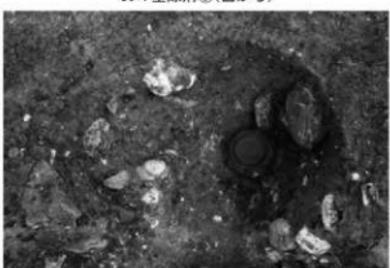
SI4 壁際溝④(南から)



SI4 壁際溝③(西から)



SI4 カマド土層断面 (西から)



SI4-P5 遺物 (21) 出土状況 (南から)



SI5 完掘状況（南から）



SI5 土層断面（南から）



SI5 土層断面（東から）



SI5 土層断面（西から）



SI5 土層断面（北から）

図版8 SB 1



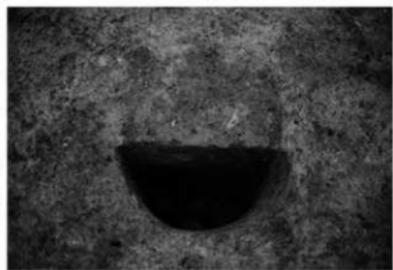
SB 1 完掘状況（北から）



SB 1-P 1 土層断面（東から）



SB 1-P 2 土層断面（東から）



SB 1-P 3 土層断面（南から）



SB 1-P 4 土層断面（南東から）



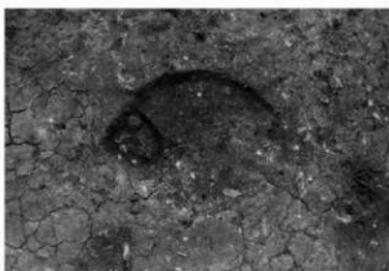
SB 2 完掘状況（北が上）



SB 2-P 1 土層断面（西から）



SB 2-P 2 土層断面（南から）



SB 2-P 4 完掘状況（東から）



SB 2-P 5 土層断面（東から）

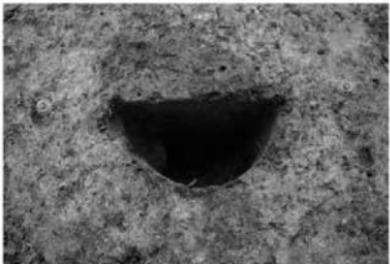
図版 10 SA1・SK



SA 1 完掘状況（西から）



SA 1-P 1 土層断面（南から）



SA 1-P 2 土層断面（西から）



SA 1-P 3 土層断面（南から）



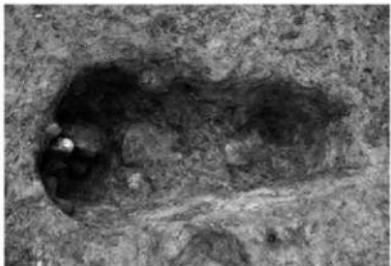
SA 1-P 4 土層断面（南から）



SK12 完掘状況（北から）



SK53 碓模出状況（西から）



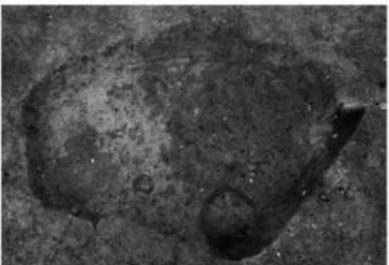
SK53 完掘状況（西から）



SK68 完掘状況（南から）



SK84 完掘状況（北から）



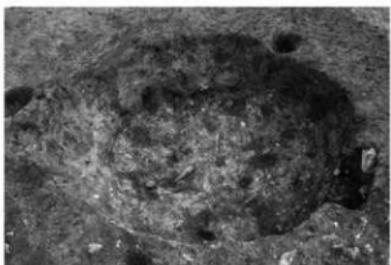
SK90 完掘状況（東から）



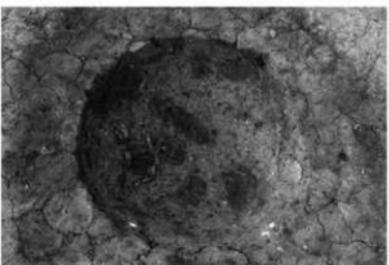
SK93 碓出土状況（北から）



SK96 完掘状況（東から）



SK97 完掘状況（北から）



SK99 完掘状況（南から）

図版 12 SK・SD6



SK102 完掘状況（西から）



SK109 完掘状況（東から）



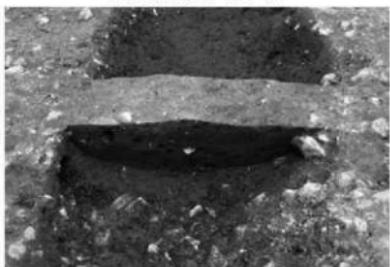
SK115 完掘状況（南から）



SK116 完掘状況（南から）



SD6 完掘状況（北から）



SD6 土層断面 A-A'（南から）



SD6 土層断面 B-B'（南から）



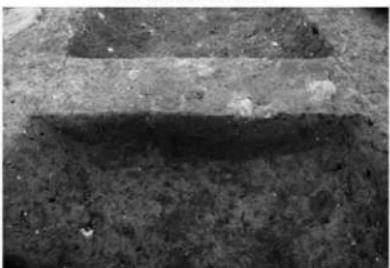
SD 7 完掘状況 (南から)



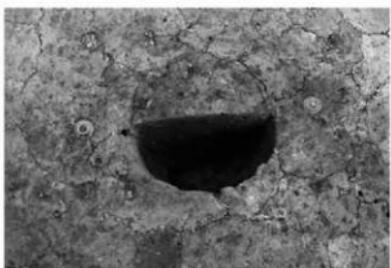
SD 9 完掘状況 (西から)



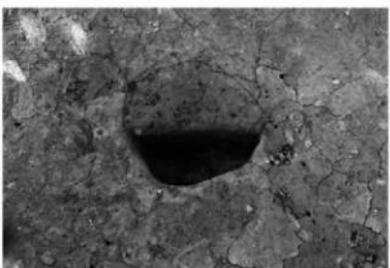
SD 9 土層断面 A-A' (西から)



SD 9 土層断面 B-B' (西から)



SD 9-P 1 土層断面 (南から)



SD 9-P 2 土層断面 (南から)

図版 14 SD 9 ~ SD11



SD 9-P3 土層断面 (東から)



SD 9-P5 土層断面 (南から)



SD10 完掘状況 (南から)



SD11 完掘状況 (南から)



SD10 土層断面 B-B' (北から)



SD11 土層断面 C-C' (南から)



5



7



8



12

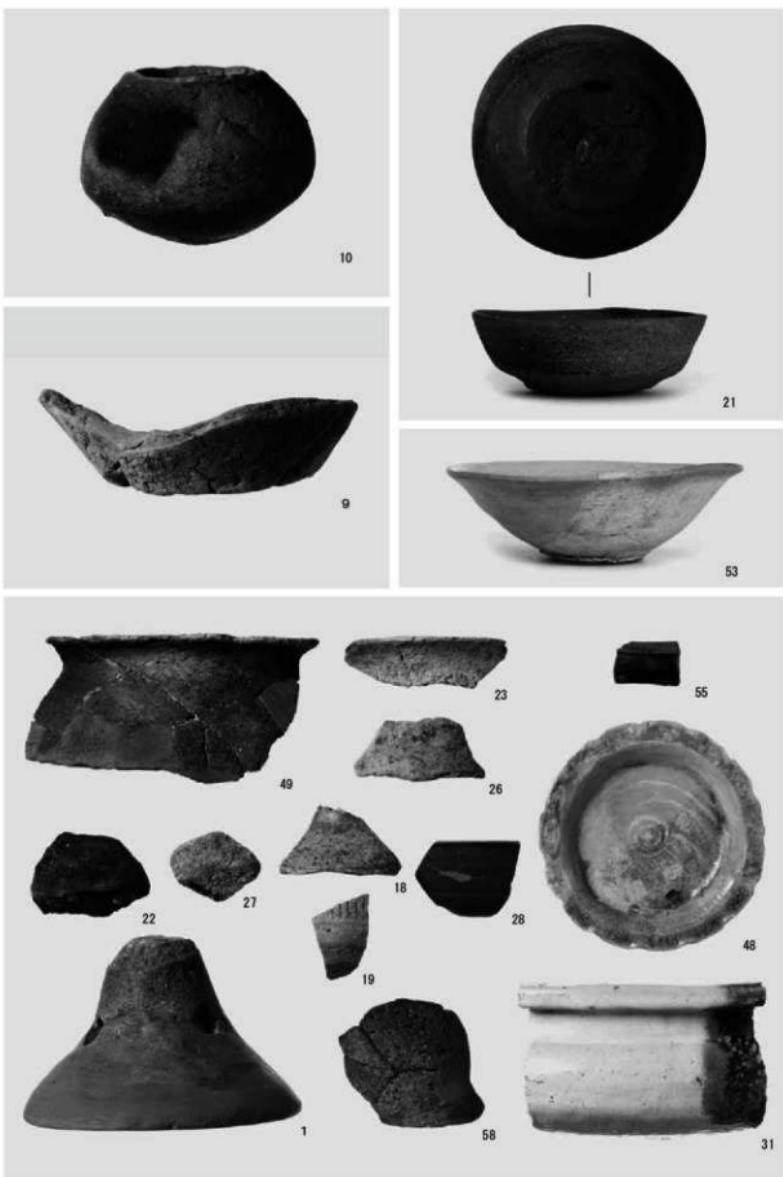


6

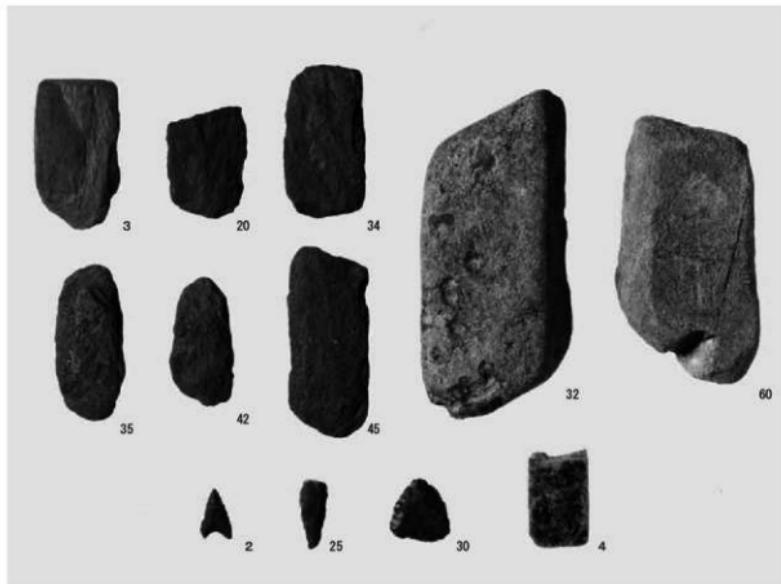
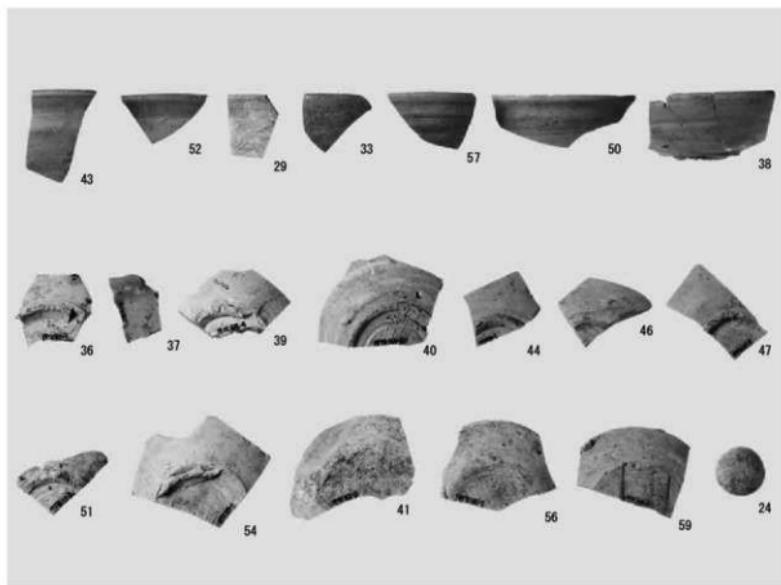
图版 16 出土遗物 2



図版 17 出土遺物 3



图版 18 出土遗物 4



## 報 告 書 抄 錄

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第156集

## 土岐上平遺跡

2022年3月4日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 株式会社もとすいんさつ